

「これで得られた知識で最も大切なものは、幼稚園部だけで四十名の男女児童を有してゐること、両親との關係では問題は生じてゐないこと、幼稚園の教師となるには児童を熱愛せねばならぬこと、最後にこの學校設立の動機は「幼児に對する本能的母性愛」の根柢に存してゐること等である。」

第二型 この學校は著名な上流家庭の篤い信用を得てゐるらしい。教師はアメリカ人で児童はフィリッピン系又は外人種との混血系である。アメリカ系、外國系、共に純粹の系統の児童は居ない。これも建物は住宅である。そして、金網の張つた窓を通して見ると、幼稚園の教室は美しい童話繪本の一頁をそのまま寫してある様であつた。不幸にも此處でも亦見學は許可されなかつた。しかし筆者の關心の存する點は、採用されてゐる方法の細部ではなく、就學前教育の社會的價值研究に在ることを説明するに及んで、經營者の最初の固苦しい態度が緩和して友情となり、色々のことを教示された。

この教師の觀察によれば、普通の家庭は児童の性格陶冶は學校に委ねるのが本當だといふ考へを幾分なりとも有するに到つてゐる。故にこの理由により、児童が學齡に達する迄児童の生活上のこの重大な發育を延擧すべきでないとして、就學前教育の必要を生じた。就學前教育の終局目的たる性格陶冶は児童の自發活動により大部分實現化されるのであるが、一方自己發展の爲の自由の行使に對しては、幼児は編制組織を必要とするといふのがこの教師の信念である。この論據を證明する爲に一つの例證が示された。即ち、或企劃を計畫するに際し教師はその企劃達成上に概括的試練的計畫をもつた究極目標を定めねばならない。企劃を論ずるに際し、幼児がその企劃實行の基底を與へる如き質問を發する様、その本性たる好奇心に導かれるといふことが期待される。この際教師の心中に於ては目的の達成といふことが至上のものであつて、自己活動といふ言葉で表はされる幼児の實際上の發展は第二義的のものに過ぎない。

い、といふことは明瞭である。この教師は幼児が自己の興味を命ずる儘に自己の活動を計畫することを幼児の創始に委ねるやり方には賛同しない。彼女は斯かる自由を放任と稱するであらう。この幼稚園では幼児が自分で一日の活動の計畫を立てるのではない。一日は一定の時間に細分されて幼児の圓滿な發達を齎す様計畫配慮されてゐる。作業の時間、唱歌の時間、晝食時間、最も嚴密な意味に於ける遊戯の時間がある。唱歌を教へるのは社會的の行爲を指導し音聲表現を發達させる目的の爲である。晝食は風雅な裝飾を施したテーブルとする。この課程は児童に食事の作法を教へる様目論まれてゐる。全部の者が食事を終へる迄は食卓を立つことは許されない。食事前には児童は一列になつて手を洗ひにゆく。食卓の準備は成人がなし、その後片付けも成人がする。幼児は食器を洗ふ必要はない。何故ならば、この教師の主張する所では、これ等幼児の家庭に於ける狀況は、斯かる行爲をすることを必要としないからである。

この學校の一つの著しい特徴は、幼児を小型の紳士淑女に仕立てる目的で、訪問者に紹介された時の作法とか辭去の際の儀禮とかの社會的體面を保つに役立つ小さい所作を、徐々に教へ込まうといふ計畫である。以上を要約すれば、この教師の態度は、宗教學校で行はれてゐる嚴格な形式主義と他の學校の児童が許されてゐる絶對的自由との、彼女の所謂美しき中庸に置かれてゐる。

この學校で與へられた知識は單に卓子を隔てての談話によるものであつて、實際の見學によつたものではない。しかし上述の二幼稚園に關し少くとも次のことはいひ得るであらう。即ち、(一) 授業料は非常に高く、幼児一名につき月額十ペソ、従つてその園児は中流以上の家庭の子に限られること、(二) ここで用ひられてゐる社會化といふ組織は、社會化された行爲に關聯してではなく寧ろ社會的水準に關聯してつくられてゐる。



第三型 マニラ市にある多くの幼児學校は兒童を花園から連れ出して「美化された初學年級」とも稱すべき中に閉ぢ込めるものであると、隱微な言を述べてゐる者がゐる。そしてもしこの言葉の意味を基本教育に形式陶冶が含まれてゐるといふこと、解するならば、この第三型の幼稚園こそ、その代表的のものであらう。一九一二年設立のこの學校は、その幼稚園部の決定的目標とする所は初學年教育の豫備門であるといふ事實を何等否定してゐない。その學課程は殆ど全然正規の科目に分たれてゐる。即ち授業時間は、祈禱、數學、語學、習字、圖畫、實業課目及び休憩時間等から成つてゐる。幼稚園の園児には二つの大室が當てられてゐる。一室は三歳から七歳迄各年齢の男兒に、他の一室は同じく女兒に。これ等の教室はそれ／＼本氣の勉強を意味してゐることは一目瞭然である。小さな机がその本式な姿の席列を以て教室を整へ、訓育目的と嚴肅な感じとの空氣を餘りにも漂はして居り、そのために室の一隅に立つてゐる大きな二個の玩具箱が、極めて不釣合に見える位である。

授業に年齢の區別はしない。三歳の幼兒でも六歳の幼兒と同じ習字の練習課程を経るのである。このような特例の教授は、幼兒の手を取つて教へるか、紙に書かれた多くの文字や數字の上を幾度も幾度もなでさせる方法によつて行はれてゐる。生徒の即席手藝の標本は非常に巧妙な逸品である。

遊び時間は一時間あるが、この際も亦男女兒童はそれ／＼運動場を別にしてゐる。この遊び時間は自己發展の一要因と考へられてゐないらしく、寧ろ、授業の緊張からの一種の解放を得る手段と考へられてゐるらしい。

第四型 この學校は前者と對照して興味ある研究對象となる。といふのは、前者の中の教師の二人はそれ等より設立の早かつた本校の教師であつたからである。本稿の材料となつた報告書の執筆者たる前記學生は、これ等二人の教師に自分の子供を二人宛頼んでゐた。現在は一番末の娘が、本稿の筆者が校長をしてゐる學校に入つてゐる。しか

し、自分は前記諸型の學校を吟味したと同じ態度を持するのが正當だと考へるから、この際も亦前記學生の報告から引用することとしよう。但しこの學校はフィリッピンに於ける唯一の女子大學たるフィリッピン女子大學 (Philippine Women's Univ.) の教育活動の一部であることを附言して置きたい。

『初期五年間のこの學校の幼稚園部の授業は主として、遊戯を伴ふ團體唱歌、行進、小さな木片や着色した棒切で遊ぶこと、石膏細工、繪の切抜き、動物や果實の繪をなでさせて着色すること等から成立つてゐた。幼兒は詩を機械的に誦する事を教はつた。授業時間の一部は先生のお話に割當て、一部は食事作法を教へる晝食に割當てられた。授業は屋内で行はれた。これは遠足、野外授業に入る前に行はれた。要するにこの組織の特徴とするのは放任制でなく慣習制であつた。一つの著しいことは入念に慣習化された園則があつて、幼兒はこれによつて學校の諸計畫に一團となつて參與することを求められ、その諸箇條を實行することになつてゐた。』

現在の經營に於ては幼稚園事業は一轉換を來し、幼兒の社會化と發育との基礎を應用心理學の原理に置いてゐる。成人の考へた一連の計畫を完成することに重點を置くのではなく、幼兒が活動的創造的生活に習慣を打ち立て得る環境を造ることに重點を置いてゐる。この環境は自然さ、自由さの精神により與へられ、外部からの制約により不必要な抑制を受けない自然的反應を可能ならしめるものである。

『授業の諸設備はより活潑な運動を求め様なもの、例へば廣い床の板敷、手工の道具、砂、粘土、繪具、搖籠、野外體操場、想像を働かせる様な玩具、園藝の道具及び動物等である。これ等の材料は兒童に押付けるものでなく、自由を選択して活動し得るのである。教師は背面に留まるのである。結果として、フィリッピン女子大學幼稚園部の幼兒の作つた手藝や繪畫の作品は、その外觀は粗野ではあるが表面に純真な所があり、従つて感情と興味とを備へてゐる。



る。これ等は又、製作中に獲得された知的發展の段階を示してゐる。時間の大部分は戶外で過し、幼児の健康増進に特に留意されてゐる。

この學位論文のものされた一九三六年以後、同大學就學前教育部は大學の直ぐ背後の二階建コンクリート建築物を譲り受けた。一階と庭とは幼稚園へ譲り、二階は一歳八ヶ月乃至三歳の嬰兒の託兒所にしてゐる。實際に兒童は食事と休養以外は屋内に止まらない。天候の許す限り諸道具は屋外に持出され、そこで授業が進められてゐる。託兒所及び幼稚園には五十名づゝの兒童が收容されて居り、午前八時から十一時迄止つてゐる。この中十二名——一歳八ヶ月から六歳迄年齢區々——は晝間ずつと校内で暮し、食事、休養、入浴を校内でする。幼児の中には兩親が家庭外で働いてゐて、下婢達と共に自分の家庭で暮さされるよりも満足なものがゐる。この十二名の中四名は晝夜絶えず學校内で生活してゐる。階下は附屬の作業場になつて居り、階上には居間、食堂、寢室及び一般の家庭風になつた臺所等が設備されてゐる。掃除、玩具の整頓、衣類の片付、食卓の準備や自身の給仕等の家庭的な仕事をこの兒童達はやらなければならぬ。土曜と日曜とは、この兒童達は自分の衣類を洗濯する。しかしその他の日は授業があつたり澤山の兒童が登校するので洗濯は出来ない。しかし朝と晝との間の軽い食事の際は自分の皿やコップは洗はねばならないことになつてゐる。この學校は試験的性質のものであるが、その主旨は矢張り兒童教育と、親としての教育とのそれの方面に沿ふてゐる。筆者の助手は皆、就學前教育を専攻して教育學の學位を得んと研究してゐる學生である。この就學前教育といふ課程はフィリップス女子大學に於てのみ講じられてゐるものであつて、その目的は心理學と社會學とに重心を置くことにより、兒童の心身に訴へる方法を心理學的に探り、兒童に對する意圖を社會學的に求める有望な教員を養成するにある。榮養及び家政に於ける如き家庭經濟に關する題目、家庭内の育兒、親としての教育課

程等も亦含まれてゐる。現在主題目とせるものは五つあるが、これ等はフィリップス兒童の特殊欲求とこれ等欲求に最も良く應ずる活動と經驗とを根柢とした課程に於て目下研究されつゝある。過去四年に餘る事業の間に見て來たこの特殊欲求に就ては、後章に概括することとする。

#### 無料託兒所と全國婦人會聯盟

斯くの如く既に山積した目的をもつ分野に、更に他の型の學校と見做し得る新企劃が加はつて來る。それは全國婦人會聯盟 (National Federation of Women's Clubs) の企劃で、この聯盟はマニラ市及び附近に現在二十三の託兒所を組織し、宣教師のそれ以外、就學前教育の行はれてゐない諸地方に四百ヶ所これを設けてゐる。

元來この設備は育兒機關又は保健機關と連結的に組織されたもので、母親達がこの機關の集會に出てる間、子供を預ける場所を與へてゐるものである。後次第に託兒關心が高まるに従つて、母親達は子供を街路から遠ざける爲にこれ等託兒所に入れる様になつた。託兒編入は二年後の今日に至る迄次第に高まり、マニラ市のみで託兒數一千五百名を超えてゐる。しかしこの數は若し設備と教師とが充分に得られれば、更に増加すべきもので、需要に充分應じ得てゐるものではない。これ等託兒所は人口の密集した方面に多く存し、一日二時間授業になつてゐる。

教師は篤志無給で、大部分未だ職に就てゐない女子師範又は女子大學の學生或は在學中で學費を自給してゐる者である。彼等は僅かな手當と交通費位の給料を受けるに過ぎないのであるが、顧みられない幼児達の爲に彼等の時間と精力とを惜氣なく與へてゐる。

クラスは收容員數三十から百三十迄様々で、非常なハンディキャップの下に開かれてゐる。



教材を購ふ金もなく、一般に幼児達はこの世で確かに最も居心地の悪い教室に詰込まれてゐる。教師は土曜日の朝聯盟事務所に集合し幼児達のことを論議し、この事業の活動計畫や幼児を集める爲の問題と機會等に就て相談する。結果として幼児達は少くとも彼等の先生を同情ある友と爲し得るといふことであつて、これは彼等がふだん家庭に於けるよりも少しの理解を受ける必要があることを意味するのである。彼等は唱歌や話や會話の中から英語の端を拾ひ、彼等の遊び友達と交つてゆく術を學ぶ機會をもつのである。現在迄の所では事業はほんの形式的のものであつたが、こゝ數ヶ月の間に急速な進展を見た。而して今や出帆時を目前にせる船の如く、最も力強い激勵を獲得した。即ち、託兒所を自己所有の設備を整へた市立運動場内に移さうといふ計畫の實行に、マニラ市長及び市立公園運動場課長が協力を寄せたことがそれである。この託兒所の遊戯場は運動場に隣接せる草地であるから、少くとも一日に二、三時間は太陽の光の中で遊び戯れる機會を兒童達に與へることならうし、これ等運動場の一隅を分與して兒童が自ら野菜を作る託兒所菜園となるであらう。茲にこの問題が世間に廣まる機會を掴むこととなる。

この事業は益々發展する可能性を多分に有してゐることは明かであるが、問題も亦多くあつて、政府の支持を得なければ、左程大きくもない婦人團體の力だけでは充分のことをなし難いのである。これ等の諸問題の中最も緊急なるものを概括すると——(一)就學前教育に對する適當な訓練を受けた教員の使用不可能。(二)設備の貧弱。此所には適當な校舎、運動場等の不足を含む。(三)有力な監督行爲の存せぬこと。(四)兒童の發育に及ぼす就學前教育機能の價値に對する父兄の理解不足。

これ等諸問題が最終的に解決されるには何程の年月を要するかといふことは、我々が世間の同情と政府諸機關の協力を得るのにどの程度迄成功するかといふことに依存してゐる。個人の寄附を仰ぐことすら仲々困難である。我々の私立大學すら何等の補助金を受けてゐない。故にこの新分野が斯かる援助を受けることにこれ以上成功するといふことは實現の望みが薄いのである。

これ迄政府はこの種の事業に何等の顧慮を拂はなかつたばかりでなく、就學前教育の代りに成人教育に對し數千ペソを支出したが、就學前教育に對しては財源の餘地がないと公言した。しかも何れの國を眺めてもフィリッピン程就學前教育を焦眉の急とする國はないのである。教育機關を通じて政府は幼児と母體の健康とに注意を拂つてゐるが、この注意も兒童が二歳頃になると緩められ、七歳の學齡に達する迄は再び注意を向けないのである。この間にこれ等貴重な年齢期は過ぎ去つてしまふのである。此處に二、三の統計があるが、これを示せば言葉多く説明する以上の效力があるであらう。

極く最近の國勢調査(一九一八年)によれば就學前教育年齢(二歳—七歳)の兒童はフィリッピンに二百萬近く居る。マニラ市のこれ等兒童の中二千名は就學前學校に入つて居り、この中の一千五百名は全國婦人會聯盟の無料託兒所に編入されてゐる。

(一)年少犯罪者の犯罪の中、少年の部に列する件は三つある。即ち、賭博、竊盜、親不孝。次に少女の部は、親不孝、賣淫、浮浪。

フィリッピンに於ける少年犯罪の原因には種々あるが、就學前教育が特に關心をもつものとしては、貧困、兒童の發育に對する兩親の無智、兩親の放任、家庭の亂れ、不良家庭、多家族、遊戯機會の缺乏、無爲又は無職。

(二)保健醫が全學校から診斷した、二十六萬八千七百六十五名の學兒に就て爲した、フィリッピン健康相談所(Philippine Health Service)の一九二九年度の調査に依れば、疾患の原因に列するものは次の通りである。齒牙



缺陷、扁桃腺缺陷、トラホーム、榮養不良に基く體重不足、而もこれは食物量の不足によるものでなく適當な榮養素の不足によるもの。疥癬、癩腫の如き皮膚病、慢性風邪。

(三)小學一年から四年迄の初學年には、疾患のや、常定的記録があつて、過去十年間は一割七分増となつてゐる。以上諸事實は就學前教育の將來の仕事に直接關係を有するものである。

#### 就學前教育に關し、フィリッピンの傳統と國民

フィリッピンは多方面に於て十字路に立つてゐる。現に極東に於ける戰略的地點に位してゐる爲、世界制覇を目指して争ふ諸國民から外部的影響を多分に蒙つてゐる。その未來が何れの方面に傾くかは未知數である。ポリネシヤ、アジア印度、支那、ボルネオ、ラテン、アメリカの諸文明がそれ／＼交互にフィリッピン文化の上に印跡を残した。而してその結果として、兩親及び兒童の教育に關する際必ず考慮に入れなければならぬ文化上の衝突が生じてゐる。共和政體の憲法の上に強調されてゐる教育目的の統一ある解釋を妨げる主要因の一つは、恐らくこのことである。而してこれは又兒童を扱ふ種々の教育機關の間に於ける相互關係を二倍も面倒にするものである。現在では兒童の家庭及び家庭訓練に於ては、ラテン及び東洋の影響が外見上最も顯著である。然るに諸學校はアメリカ理想の影響を多分に示してゐる。勿論これは青年層と老壯年層との間の衝突を激しくするものである。しかし指針としては我々は憲法(未解釋であるが)に強調された教育目的を有してゐる。即ち「總テ學校ハ徳性、人格陶冶、國民精神、職能ヲ伸張セシメ、國民ノ義務ヲ教ユルヲ旨トスベシ」これ等が目的である。しかし次の如き諸狀態を打破しなくては、家庭に於ける實狀がこれ等目的達成を困難ならしめてゐる。

フィリッピンの一般兒童は何時迄も母親に依頼すること、下婢が用ひられること、の爲に、自ら問題を解決し、自己に負はされた障害を克服する機會を奪はれてゐる。手を働かせること、殊に家事は下婢の爲すべきこと、して賤められてゐる。普通用ひられるのは抑壓的訓練法である。子供の訓練に用ひる手段としては、或學校の記録に在るものでは體刑、恐怖心をつぎ込むこと、嘲笑等が一般常套の手段で知識階級の父兄百二十名がこれを用ひることとなつてゐる。四、五歳の兒童が下婢に抱かれて登校するのを見かけるのも珍しくない。臆病は全く一般共通な特徴であつて、それがフィリッピン兒童の生來の特性であると稱されるのを自分は度々聞いた程である。「子供は唯眺めるだけで、話してゐる所など仲々聞けないものに決つてゐる」と今猶フィリッピンでは考へられてゐる。家庭内に積極的にすることが無いこと、不斷の遊びの習慣の爲、無關心と無活動との習慣が幼くして出來てしまふのである。一般に遊びは無益にして時間の浪費であり、せい／＼赤ん坊か悪戯小僧のすることだと考へられてゐる。親達は自分の子供が小學校で優秀な成績を取る様、勉強を始めさせたいと思つてゐるのに、私のやつてゐることは遊びことばかりだと言ふ譯で、私の擔任部から止めさせられる兒童が毎年ある。性的無智と性の問題に對する因襲的密閉的態度は性的及び知的衛生の問題を長びかせて來た。「英語を讀み、書き、話す」ことは就學前兒童の三神であつて、この前には彼等の兩親は如何なる目的をも犠牲にしよつとするのである。

就學前教育の大欲求に應ずる爲これ等因襲的諸事態から離脱することは容易なことではない。成功を期するには學校教育と相俟つて兩親教育を行はねばならないのであるが、此處にも驚くべき無定見が見出されるのである。父兄達は子供を學校に送るには凡ゆる犠牲をも忍ぶのであるが、單獨にせよ集團的にせよ父兄を懇談の爲學校に呼び寄せることは、今迄の所まづ絶望的な事柄であつた。而して教師は絶えず事務に追はれて居り、訓練された助手が居ない



爲、家庭を訪問に出赴くことは出来ないのである。

#### 幼稚園と小學校初學年との相互關係

學齡前學校と小學校初學年との相互關係といふ古い問題に言及せずして本論を閉づる譯にはゆかない。學齡前學級で正規教育が始められる學校に於ては問題はないのであるが、我が大學の就學前部の事業の目的と方法とは、正規初學年教育事業のそれ等と根本的に異つてゐるのである。この間隙を塞ぐ爲に根本問題を教へるのに非形式的、社會化的方法を用ひる計畫を以て、中間級が組織されたのである。然るにこれは父兄達の歡迎する所とならなかつた。父兄達はこれが幼稚園と殆ど變りのないものだと思へ、又彼等は自分達の子供が早く小學校に上つて本當の勉強を試みるのを見たいと望んで止まないものである。私立學校の初學年入學平均年齢は公立學校に於ける如く、七歳でなく五歳又は六歳である爲にこれは不幸なことになる。私は父兄達がその子供が一年間學齡前學校に通つたからもう良いとして其處を止めさせ、僅か四歳許りで小學校に入れるのを見て來た。私立學校はこれの維持を兒童の父兄に負うてゐる爲、父兄の要求に應じなければならぬ。フィリッピンには私立學校補助金の様な便宜はないのである。兒童の授業料で學校の事業を經營してゆかなければならぬのである。斯かる理由の爲に父兄の要求に餘計に考慮を拂はなければならぬのである。

これに加へて、マニラ市では就學前兒童は申す迄もなく小學校兒童に對しても、一人當り一フィート半平方の遊び場しかないこと、幼兒教育に關する統一單位の無いこと、就學前學校と幼稚園との間に競争があつて目的の統一を不能ならしめること、組織一般に對し公共の支持が缺乏し、初等教養に關心を有してゐる人々に受容力の乏しい態度があること、兒童の生後五ヶ年の意義が一般に認識されないこと(こんな仕事をするには下女が居れば澤山だと考へられ、子供を幼稚園へ入れるのは流行事だと考へられてゐる)、未熟な教師を使はねばならぬこと、以上で近き將來に於て解決を試みられねばならぬ問題の鳥瞰圖が得られるのである。

#### 就學前教育の兒童

猶最後にフィリッピン就學前教育に深い關心を寄せてゐる我々に對し恐るべき挑戦がある。我々は一國民として不確實な未來に面してゐる。……國民生活は今將に始まらんとして居り、今後の年月と今の出發の如何に依存する所が多いのである。このことを念頭に置くならば、就學前教育はフィリッピンに於ける新教育概念、即ち憲法の目的に更によく適合する新概念への道を歩むことが出来る和我々は信ずる。フィリッピン女子大學の實驗的事業に於て特に我々の目指してゐる所は、次の諸件を兒童に教へ込むことである。

- 一、仕事に對する愛と喜び、即ち自分の手を創造的に用ひることから生れる満足感。
  - 二、經驗を通して自己が爲し得ることの程度を發見する機會を兒童の爲に可能ならしめること。自信と、その自信を具體的行動に於て示す力との觀念を打建てねばならぬ。
  - 三、一般の人々、同年者達、大人、面識のない人、との關係を作ることを經驗する爲のより多くの機會。
  - 四、兒童が自身の欲する目的を達成する爲には問題を解く機會がなくてはならぬ。
- 而してこれ等の目的に兒童が前進し得るのは、彼が豊富多様な經驗を獲る時にもみ可能であり、彼等の肉體が健康であつて、旺盛な活力を備へる時、彼等の熱意が建設的な活動に向けられる時、彼等の熱情的闘争が積極的行動に向



けられる時のみ可能である。

以上はフィリップピンに於ける教育の現状及び近き將來執らるべき指針を示したいといふ國家的乃至個人的見地から、就學前教育の必要の略説を試みたのである。終りにこの會議が就學前教育の將來の可能性と、家庭教育の效果的企案と、この事業の爲の教員養成の最善の方法とを示現することを心から期待するものである。

## 兒童教育

インド、アリガール、  
マストリム大學教授

Q・J・ジェファ・アリ

今日我々の當面せる最も重大なる問題は兒童教育に關してである。たゞ、遺憾乍ら斯かる重大問題が正常な取扱を受けず、知識の不充分な人々に委ねられてゐる國がある。事實世人は兒童訓練の正しい方法を知らないのである。

政治的問題は最も肝要なるものとして多くの人々が認めてゐるが、法を守る市民精神の礎たる兒童教育の重要性に比する時は、政治問題はそれを基礎とする第二義的なものに過ぎない。我々が何より深甚なる注意を要するのは、真正銘の所、兒童教育の問題なのである。子供は大人の父であることを我々は皆知つてゐる。故に我々の活動は兒童

を發達せしめその人格を作ることに向けられなければならぬ。これを爲さずして國民改善を云々するとも無用の言である。如何となれば成人してその性格が形成されるに及んでは、それを改造せんとするも殆んど不可能であるから。

兒童の個性の大體はその生後六ヶ年の間に形成される。以後の變化は繪に色彩を施して複雑興味を添へるが如きに過ぎない。兒童が理論的思考を始め出す以前に、彼の習性は形成せられ始め、所謂第二の天性が具象化を開始するのである。年齢の高まるにつれて、兒童の個性が變化し始めると考へるは誤れる觀念である。斯かる現象は斷じて起らぬ。兒童の個性はその最も初期に於て形成され、しかもこの時期こそ彼等の歪められざる、そして變容性に富む知性が、善惡何れの型にも鑄造され得る時なのである。無垢な兒童は兩親の言語行動を理解し得ないものだと言ふ誤れる考へを抱いてゐる親達がある。これは破壊的な考へであり、凡ゆる建設の事業を阻害する。一歳の嬰兒と雖もその環境に従つて行動し、それから受くる影響の大きいことは明白な事實である。兒童は成人に對しては微笑を浮べ満足の色を漂はせて近づき迎へるが、他の人に對してはその反對の態度を示し、その人を嫌つて泣き出しさへするといふことは屢々見受けられるところである。この現象は兒童の特性の一つとも考へられようが、事實は兒童も動物の如く鋭い本能と明徹な洞察力とを有してゐるのである。兒童にとつて最も大きな苦痛は、假令それが故意にせよ然らずにせよ、自分に對する兩親の不親切である。普通かういふことが起り易い場合は、弟妹が生れ來る場合である。これはその兒童にとつて誠に微妙な立場をつくる。その理由は最初の子から次のものへ親達の注意が移轉するからである。第二番目が生れる迄は兩親の愛撫の中心であつた第一番目は、自分の地位が第二番目より偉いのだ、その権利が後から來たものに篡奪されたと思ふ。そして斯くして新しく生じ來つた立場と争ひ難いことを知り、それに對處し得ないことを悟る。これに對して考への深い親達はかうしたことを常に豫想して居り、我が子をしてその新しい立場に満足



せしめ、場面の真相を知らしめると同時に、彼の爲にも充分快よい雰囲気をつつてやり、當然の成行である斯かる状況の下にあつては、自分も無益な術策を廢し兩親を助けて、事を在るがままに受容れねばならぬと悟らしめるのである。若しも親達がこれに成功するならば、その子は新米の賓客に對し、自分も自らの洞察力を振つて、その理解に努めねばならぬと感ずるに到るであらう。彼はまた赤ん坊の誕生に心からの喜びを感じ、自らのよき伴侶であると考へるであらう。但し新來者の生れた爲に將來何人の壓迫も決して自分の上に襲ふて來ないといふことを充分確信し得た時にのみ、兒童にこの考へが持たれるのである。これは近代心理學の科學的研究が我々に齎した偉大な教訓である。

兩親や教師が生ける模範を垂れることは好ましいことである。兒童は兩親や教師の舉動から自分の思考を吸収する。事實彼等は年長者及び周圍に見る總てのものを模倣しようとするのであるがこれは當然のことである。兒童は適當な理解力を有せず一般常識を持たぬものだと想像してはならぬ。この點は兩親及び教師により充分理解會得されてゐなければならぬ。兒童は深く考へる力こそないが、身の周りに發生する事實は成人と同様に感じ得るものであり、彼等は凡ゆる動きを興味深く眺め、それより受ける影響は大きいのである。而して穩かな落着いた平和な雰囲気の中で幸福に育まれる子供のみが彼等の知力を充分に發育せしめ得るのである。

兒童を折檻することは償ひ難い罪惡であり、如何なる場合と雖もその非教育を寛恕する餘地がない。兒童は成人の様には自分の行爲の結果の輕重を考へることをしない。彼の舉動は總て束縛されない精力の結果であり、それに對して彼の意志はまだ無力なのである。彼は自分に與へられた折檻の眞の意義と重要さを悟つたり、理解したりするに足るだけの考へといふものを有しない。肉體に加へられた罰は彼にとつては遊戲中或はその他で受ける「傷」と變りないものである。それは單なる苦痛であつて、偶然受けたものと自分を矯正する爲に加へられたものと、その間に何

等の區別を感じ得ないのである。折檻はヒステリーのもとになる恐怖と不平をつくるのみであり、また健康に影響して他の併發症をも齎すこととなる。自分の子供がヒステリカルであつたり、健康が勝れなかつたり、不従順で可愛氣がなく、時には反抗することさへある時、その原因が何であるかを人々は知らない。兒童に對する折檻や虐待、例へば部屋に閉ぢ込めたり、食事時に食事を與へなかつたり、疎略にして愛情を加へなかつたり、假令暫くでも家から追ひ出したり、これ等の心なき仕打ちの報ひは、それを子供に加へる親自身が受けねばならない。屢々自分の子供の邪曲や横着に不平を言ひながら、自分の誤りを悟らない親の居ることは氣の毒なことである。成人後善良にして法を破らない平和を好む市民になることの出来ないもの、九割九分迄は、彼等の初期の養育が顧みられず、誤れる方面に爲されたといふ不幸な原因に基いてゐる。例へば餘り嚴しい雰囲気は子供の健康に影響してヒステリーにし、又は親ゆづりの神経性を募らせるのみでなく、一般に劣性複合として知られてゐる好ましからぬ感情型を、兒童の潜在精神の上に作ることとなる。これと同様に褒め過ぎる環境は、過大な自我即ち優性複合を生ぜしめることとなる。斯うしたどちらの場合に於ても、その成人はその子供にとつて（又彼が接觸するどの人々にとつても）全然無益な存在なのである。個々の兒童に精神解剖を加へることは、正しい教育と適當な養育の上に必要なことであり、兒童が知的崩壊を來さず平和な雰囲気の中に生育し得る爲には環境の正常さが最も必要なことである。

目下の所ではモンテッソリ法 (Montessori method) が最も有名な方法である。これは兒童の生命の心身兩面の發達を眞面目に目指してゐる唯一の方法である。換言すればこの方法は賢明な正常な大膽な度胸のある人間を造ることを目的としてゐる。兒童の教師、教育家は何よりも自己の本分を理解し、自己と兒童との間にある限界を悟らなければならぬ。早曉の空にさし上る朝日や小さい花辨を開きかけたばかりの花の如く、新鮮にして柔く美しい幼年時代



の間に現れ来る人間性こそは、宗教的な敬虔さを以て尊敬さるべきものである。若しその時期に對する教育行爲として有益なものがありとすれば、それは生命の完全な解放を助ける行爲だけであつて他にはない。而して、事實斯くの如く有益ならんとするには、兒童の自然な行動を束縛して無理な仕事を課することを努めて避ける必要がある。勿論斯く言ふのは兒童の無益危険な行動に對しても云ふのではない。斯かるものは早く抑壓さるべきであり、さういふ方向に向はうとする傾向があれば、徹底的に破壊すべきである。

兒童が眞に自發的に自己を發揮し得るのは、適當な自由さの雰圍氣内に於てのみ可能であるといふ事は、現在確立されてゐる原理である。教師は兒童の生活の流れを正しき流れに導いてやるべきである。援助を必要とする時は手をとらねばならぬが、自分の愛を以て若き生命と魂とを覺醒させ、活力を興へること、太陽の如き教師でなければならぬ。彼女は唯兒童を観察するだけを自己の職分として平然としてゐてはならぬ。進んで自ら手を興へねばならぬ。教師が斯くの如くして兒童に接觸するならば、兩者の間に相互理解が生れ、恰も守護神の如く、彼等の生命を醒まし蘇らすことにならう。彼女は兒童の信頼を得て一指彈を以てよく兒童を迷路から防ぐに足る様にならう。彼女は全兒童に認識せられ傾聴せられ、訓練は魔術によるかの如く見事な成功に達せられるであらう。

兒童は何れの國民に於ても未來の希望であり、その希望が彼等の養育と教育とに懸ることが如何に大なるものであるかといふ事は、どんなに強調しても當を失ふものではない。この故に我々は凡ゆる注意を拂つて兒童の便を計り、彼等の眠れる能力を正しく發展せしめる様になければならない。しかもこれが可能となり得るのは、親達及び教育當局者の精力と注意とが眞剣にこの目的に集中され、正しき方法を採用し、國家の要求とその國民の特徴とに適合せる過程を選択すると共に、遷りゆく時勢に歩調を合はせる時に於てのみである。

## 我が幼稚園

神戸頌榮保育専攻學校長

赤名カザリン

この非常に興味深い座談會に於て、私が講演者の先鋒を承らうとは思ひもよらなかつた。今朝は日本人出席者諸君の許可を得て、此處に出席中の私と同じく英語を話す歐米東洋の出席者に特に話したいと思ふ。

神戸頌榮幼稚園は日本人と外人との協力の誠に喜ばしい一つの實例である。この幼稚園はボストンの外國傳道會 (Board of Foreign Mission in Boston) により四十八年前に設立されたものである。而してこの状態で三十五年間繼續したのであるが過去數ヶ年は、大部分が日本人で、一部がアメリカ人であるところの委員會の經營になつて來た。この管理と監督の責に當つてゐる私自身はアメリカ人である。私はこの學校の唯一人のアメリカ人で、保育學校の他の十五名の先生達及び三名の保母は總て日本人である。

ソーン女史 (Miss Thorn) の講演の後、昨日私は覺書を見返してゐる中に突然ニューヨークへ想ひを走らせたのである。私は嘗てニューヨークで教鞭をとつてゐた頃、ソーン女史の指導者でもあるパティ・ヒル (Patty Hill) の影響を大分受けたのであつた。而してパティ・ヒルの十年乃至十二年の影響は神戸の頌榮幼稚園の教育事業にも影響を及ぼしたことを私は疑はないのである。今言つた如く私は唯一人のアメリカ人である。幼兒は一人のアメリカの



少女と数名の支那幼児を除けば全部日本の幼児である。それは日本人の、日本幼児の、即ち日本の幼稚園である。故に我々の計畫は日本幼児の日々體驗する日本人としての經驗から生れる。私は海外から出席された方々に言ひたいのであるが、日本では我々にとつて感動すべき非常に大切な行事が、毎月々々行はれるのである。今時間の制限があるから一年間の行事を大急ぎで通つてみると、一月にはお正月のお祝があつて各家庭は誠に和氣霽々として訪問を交はすのである。二月には雪のある内から咲き出す梅花と梅に鳴く鶯とを愛翫する。三月には少女達の雛祭を祝ひ、四月には申す迄もなく、歴史的詩的情緒で知られてゐる櫻花がある。五月には男の子供の祭があり、六月にはこの國の大きな行事である田植が行はれ、九月になつて我々が學校に戻る時まつ第一に氣付くのは、我々の好んで語り感じ眺めるあの秋の月である。そして次に十月に入ると稲の取入れが始まり、この時は天皇陛下御自ら國民の代表としてその年の一番最初の稲の取入れを親しく御經驗になる。さて十一月には勿論收穫の感謝祭たる神嘗祭が國民によつて行はれ、十二月にはクリスマスの祭がある。このクリスマスはキリスト教徒のみに限られてゐるのではなく、多くの兒童達にとつて世間一般に互つての喜びの源となつてゐる。クリスマスのお祝はこの日本に於て日本の兒童によつて祝はれる程、廣く喜ばしくお祝ひされることはアメリカに於てもあるまいと私は考へてゐる。

扱、本論の我々の課程計畫に入ること、する。我々の幼児は美しい考へと、自然の美しい經驗と共に、社會的經驗に満ちてしつかりと結ばれたこの國民的感情を抱いて、我々の所に來る。そのみならず、彼等は自身の家庭からそれぞれ銘々の經驗をもつて來るのである。而して我々は我々の幼稚園事業の基礎として、兒童が發育しつゝある時にそれ等兒童の經驗を用ひる様に如何に努力してゐることか、その實際をソーン女史にお目に懸ければ必ずや喜ばれること、信じる。

昨日私が來る時この部屋の後の寫眞がアメリカの兒童の寫眞であることに氣がついた。それ等は非常に綺麗で、兒童達は面白い愉快なことをしてゐるが、アメリカのものである。私は日本の幼稚園の寫眞を持つて來ようと思つたのであるが、残念乍ら見當らなかつたので我々の幼稚園のを今朝は少しく持參した。扱、今朝此處に御出席の方々が我が典型的な幼稚園事業の現場を御覽になる機會のないことを残念に思ふ。今朝岩村氏と一諸にバスを降りる時、氏は「え、明後日は授業に歸り受持兒童の夏季幼稚園で兒童とまた一緒に暮らします、日程は専らプールと休憩室暮らしになるでせう」と言はれたがこれが我々の最も良い夏季日程の一つである。

扱、向ふにかけた寫眞で完全無缺で立派な動作ではないが、子供特有の傳統的な動作の多くを御覽願へること、思ふ。皆さんは斯うした經驗は度々おありであらうが、しかし向ふの寫眞を御覽になれば、あの寫眞の中には日本兒童に特有の經驗が表れてゐることにお氣付になると思ふ。あそこには我々の盛大な卒業式の寫眞もある。男兒の節句祭に庭の上空に吹き流れてゐる紙の鯉の寫眞もある。日本の一寸法師の御話の繪が二枚とその他のもある。皆さんは全くあるがまゝの日本兒童を御覽になると信じる。多くの人々によつて日本は「兒童の天國」だと云はれて來た。しかし私は「天國」なるものはその傳統的意味に於ては、人々がその業を終へた後、美しい所で幸福な果報を得て休息してゐる場所を指すものであるから、私はこれを天國と云ひたくはない。町の幼稚園や小學校にゐる日本の兒童は未だ彼等の業を終へたのではない。即ち彼等は未だ天國にゐるのではない。彼等の負擔を果し祖國の運命に眞面目に責任を全うする迄は、彼等は天國に上ることは出來ないのである。而してよく遊びよく學ぶこの幸福な生活を送り乍ら、幼稚園で子供等と共にある我々は、兒童達にこの天國に昇る爲の準備教育を施しつゝある。兒童達が祖國の運命を指導し有力な價値のある人々になり、又その重い責任に耐え得る人々になる爲にすく／＼と發育しつゝあるところの彼



等の偉大なる運命を我々は切に感ずるのである。

## ニューヨーク市に於ける幼稚園教育

米國教育會 ローズ・G・コネット

ニューヨーク市に於ける幼児教育の實行に當つては、我々は教室といふ窮屈な圍ひの中に閉じ籠る様なことはしない。四、五歳の幼児の興味と欲求と能力とを迎へ得る教育課程を作るに際し、國民全般の認識或は全世界の意見をも我々は期待してゐるといふことは勿論のことである。

現在我が市には九百七十九の幼稚園と百七十七の幼稚園校外部 (Kindergarten Extension Classes) とが公立學校内に存してゐる。幼稚園校外部とは幼稚園免狀を有し授業計畫を用ひる教師により教へられるものである。

一寸ここで私の冒頭の言を明かにするならば、幼稚園の教室の圍ひから出でてと言ふのは、幼稚園の保姆が個人的相談とか團體の會合に出席することにより、幼児の家庭及び母親と協力することを云ふのである。一九三六年三月を最終日とする一年間にニューヨーク市幼稚園保姆は三、七〇七回の家庭訪問を行つてゐる。一九三六年四月三十日を

最終日とする一年足らずの間に二、七八二回の父兄會が催され、その出席父兄数は一〇三、三三五名に及んでゐる。幼児の生活と教育の上には及ぼした國家的効果を我々が確信してゐるのは、これ等の數字を示しても猶、我々が餘りにも樂天的であるといはれるであらうか。

又小旅行 (これは一九三六年六月一日を最終日とせる一年足らずの間に五、〇三八回に及んでゐる) といふ媒体を通じて、我々は幼い兒童の視野を廣め、世界の出來事や未來の活動の知識を廣める爲に種を蒔いてゐるのである。

この「幼年時代の家」——これは少し誇大な言葉かもしれないが——を建設する爲、各幼稚園を代表する保姆は、集會及び會議等に屢々出席して指導者達と懇談するのである。市及び近郊それらに於て年に五十回ばかり。

斯くの如く幼い兒童に社會的にも感情的にも知的にも基本的社交處世の心を與へることにより、兒童が目出度く、小學校初學年に入學する爲に最善の準備を與へたといふことは我々が國家に貢獻してゐること、なる。それ故に我々は幸福な兒童を持ち、熱心な學生を持ち、阻害も少く父兄も満足し、我々職員に於ても生計の資を得ると共に、國と社會とのお役にも立つてゐるのである。

幼稚園及び幼稚園校外部の廣範な施設が、公立學校組織の初等教育部の完全な一部と認められてゐることは、ニューヨーク市に於て既定の教育事實で何等問題も存しないのである。



## カナダ全國幼稚園、託兒園、

### 小學附屬幼稚園保姆聯盟

カナダ保姆理事長 ノリーン・D・ドリエン

英領カナダ全國幼稚園託兒園小學附屬幼稚園保姆聯盟 (National Federation of Kindergarten, Nursery School & Kindergarten-Primary Teachers of Canada, North Amer., a Dominion of the British Empire) は世界教育會議就學前及幼稚園部に對し謹んで敬意を表す。

太平洋岸より大西洋へ、善隣國合衆國々境より北極洋へ、約三、六八四、七二三哩の老なる領土を有するカナダは兒童教育に於て著しき進歩を遂げつゝある。

オンタリオ州では幼稚園は各市に於ける公立學校組織の完全なる一部となつて居り、又各地に存在する私立保育學校及び慈善保育學校に於て斯界の指導的地位に立つてゐる。この地に於ては師範學校に保姆養成部があり、又トロント大學 (Toronto Univ.) と提携せる保姆養成の一機關が存してゐる。

我が全國聯盟は約五年前カナダに於て結成された。現在は「カナダ福祉會議」(The Canadian Welfare Council) と提携し、毎年十月會議を催し約三百名の代表がこれに出席してゐる。

本聯盟の目的は、兒童教育の各部門を結合し、進歩的初等教育に對する關心を覺醒維持し、廣大な全土に互つて保育學校及び幼稚園を設立する手段を整へるにある。

東カナダ及び西カナダに會議を組織招集して代表を交換し、五千三百哩といふ長距離の間に散在する我都市、村落農村地方間の隔りを斯くすることにより覆ひ除かんとするのが、我が聯盟の一つの意圖でもある。

全國會員は奉職中の會員、然らざる名譽會員、都市聯合、幼稚園及び保育學校より成り、我々の努力の結晶たるカナダ兒童の善性を以て、カナダがその兒童を通じて英國民聯邦の精華たらん日を期待してゐるのである。



## 書記報告

各國に於ける就學前教育及び幼稚園に關する報告が書記に依り發表せらる。

## チェッコスロヴァキア

チェッコスロヴァキアに於ては幼稚園は一部分を國家に、一部分をウストレドニ・マティセ・スコルスカ (Ústřední Matice Školská) と稱する團體により維持されて居る。大都市に於てはその市當局によつて。ブラーグ市は八十六の幼稚園及び託兒所を有しその全經營を負擔してゐる。

託兒所は生後六週間から一歳半迄の嬰兒及び一歳半から三歳迄の歩行の出来る幼兒の爲の施設である。兒童は此所に朝七時から午後六時迄居てもよく、三食が支給される。嬰兒には乳母が、歩行の出来る幼兒は託兒所の雇女が世話をする。

幼稚園は三歳から六歳迄の兒童を收容する。午前八時から十一時半迄と午後二時から四時迄、此所で過す兒童もある。これが正規の授業時間であつて、母親が働きに出る子供や、失業者の子供は朝八時から午後六時迄居てもよいことになつてゐる。彼等は二食を支給され晝食後二時迄午睡を取る。

幼稚園の教育事業は猶進歩を續けてゐる。ブラーグ市は保母の爲兒童教育の圖書室を備へた研究所を設けてゐる。

これは「ステドヴナ」(Stodovna) と稱し、その意味は研究、實驗の場所と云ふのである。此所で保母達は、彼等の事業の各分野の新方法を研究するのである。保母はそれ／＼一團となつて次の如き研究をする。即ち言語と言語缺陷の部、兒童文學の部、音楽と歌謠の部、體育の部、工藝教育の部、學校管理の部、社會福祉の部、兒童劇の部。

昨年は音楽歌謠の部が活躍して、既に兒童の音楽上の發展に就ての材料を豊富に蒐集して居り、今年は幼稚園用の新歌謠集を出版することになつてゐる。

ブラーグの幼稚園では兒童の言語に多大の注意を拂つてゐる。三名の保母は發音を専門に教へてゐる。この三名は各自ブラーグの幼稚園の三分の一を分擔し、一週一回各幼稚園を訪れ、言語の正しくない兒童を矯正する。幼兒はこの保母に發音部の臨床室で検査され、實習をなされてゐる。これは非常な成功を收め、小學初年級の教師の非常な助けとなつてゐる。

## スエーデン

スエーデンに於て、小作者貯蓄銀行建築協會 (Tenants Savings Bank & Building Society) は就學前兒童に對する教師を養成する學校を開設してゐる。中央社會事業協會 (Central Association for Social Work) は教員醫師その他の集まる會議を興し、就學前教育問題の検討を計つてゐる。

政府は委員會を委任組織して、民衆の運動を研究せしめて居り、同委員會は又就學前教育を取扱ふ施設の經營維持



及び監督の問題を考慮してゐる。

その他夏季には、多くの都市が就學前兒童の爲に適當な監督の下に運動場を提供してゐる。

## イタリー

イタリーの就學前學校は約六十年前アポルティ(Aporti)と云ふ教育家によつて始めて設けられた。その方法には幾分の變化はあつたが、その結果は良好であつて、絶えずその数を増加してゐる。特にそれが近年に於て著しい。今日では公立學校へ上る必要な準備教育として、小さい村落にさへも設けられつゝある。

初等教育がその他の教育と共に國家の手に移つて以來、暖房及び凡ゆる衛生設備(溫浴、灌水浴)、體育館等を備へた近代風の建物が、全國到る所に設けられつゝある。

就學前學校の或ものは、特に農村地方に於ては、小學校と同じ建物の中に置かれてゐるが、一般には就學前學校は個人の寄附で設けられ經營されてゐて、庭園に圍まれた小さなバンガローと野菜栽培の設けを所有し、教師もそれに住んでゐる。これ等はその地方の教育當局の監督下にあるのが普通である。

そこで幼兒教育の任に當らうとする者は、特別課程の教育と訓練(全部で七年)を受け、その修了によつて得られる國家の免許状を受けねばならない。尼僧がこの種の學校を經營してゐることも多いが、彼等も亦國家免許状を受けなければならぬ。

教師は大抵うら若い女性であるが、一九二七年通過の職業婦人に對する法令により、彼女等はその職を失ふことな

く結婚し、又養老年金を受けることが出来る様になつた。

幼兒は三歳より六歳迄就學前學校に通ふ。六歳が學齡である。彼等は午前八時から午後五時迄學校にゐる。それでバスケットに晝食の辨當を入れて持參する。しかし殆どすべての就學前學校は暖かい晝食を支給して居り、國家の兒童福祉會がこの費用を負擔してゐる。これは成長期の兒童にとり規則正しい榮養が如何に貴重なるものであるかといふ體驗に基いて斯くなつたのである。

天候の悪くない限り兒童は終日戸外で暮す。そして彼等は各自小さい椅子と机とを配給されてゐる。腰掛や坐つて窮屈を感じる様な姿勢は禁じられてゐる。

就學前學校を終了する頃には兒童達はアルファベットは全部知つてゐる。簡単な語も書け、數字は十迄書くことが出来る。石板や紙に描いた圖畫は最も注意すべき出来ばえである。話して聞かされたことや自ら氣がついたこと(街頭の事故、飛行機、等々)を素朴な表現法で表すのに意外な觀察眼を示してゐる兒童もゐる。

遊戯、唱歌、リズムミカルな柔軟體操などは一日の課業の一部である。又簡単な編物や針仕事もある。兒童達は助けを借りずに着物を着たり、食前に顔や手を洗ふことや、食卓を整へたり身成りを奇麗にすることなどを教へられる。中には自分より小さい者に小さな母親の様に世話してゐる兒童もゐる。兒童が家庭に持歸る斯うした清潔の習慣は、彼等の屈する勞働階級の標準を高める上に貢獻してゐることを我々は見てゐる。

都會の兒童でその家族が彼等の必要とする休暇を與へることが出来ないと校醫が考へた時は、友達が海や山に行つてゐる間、その兒童達にとつてこれ等就學前バンガローの多くは田舎の休暇所となるのである。



## オーストリア

十九世紀の末頃オーストリアに於ける教育関係者及びその奨励者達は、學齡前兒童の教育に深い關心を抱き始めた。今日の幼稚園に當る設備の萌芽は誠にさゝやかなものであつた。最初は晝間託兒所 (Day nurseries; Kinderbewahranstalten) や養育院 (Creches-Wartanstalten des Krippen) とが始められ、これ等には日中母親が家を外に働かねばならぬ兒童を收容した。フレール (Froebel) の遊戯や作業が最初オーストリアに輸入されたのはウキーン (Uecking) の近くのリージング (Liesing) にある低能兒の爲の施設に於てであつた。やがて幼稚園の新設により晝間託兒所は幼稚園へ變つて行つた。一八六八年最初に幼稚園に變つた晝間託兒所はウキーン (Uecking) のフィッシャー所長 (Director Fischer) の經營せるものであつた。幼稚園設立の考へは全オーストリアに普及された。これ等幼稚園の支持者は主として民間團體又は個人であつた。工場のある村落ではその工場所有者が幼稚園を設立した。その任務とする所は就業時間中兒童を世話し育てることであつた。これ等は午前六時から正午迄と午後一時から七時迄の間開かれた。諸協會及び個人により設立された他の幼稚園は、所謂協會幼稚園・私立幼稚園と稱して一八七〇年代に増加し、今猶昔の儘の名稱で存してゐる。これ等は一日に數時間だけ開かれるもので、正規の幼稚園と呼ばれてゐる。

幼稚園に關心をもつ三人の教師、クグラー (Kugler)、ダインハルト (Deinhardt)、フィッシャーの三所長に指導されて、フレール (Froebel) の後繼者達は協會を結成した。前記三名は一八七九年に幼稚園協會 (Society for Kinder-

gartens) (今日のオーストリア保母協會) (Professional Ass. of Kindergarten Teachers, Austria) をつくつた。この協會の會員はひろく聯邦の各州に散在してゐるのである。

この協會の力によつて幼稚園の正しい觀念が、オーストリア國內に漸増的反應を見出し來つてゐる。その結果、幼稚園運動はオーストリアの各地に於て常に進展を辿つてゐる。しかして大抵の場合、特に地方に於ては、幼稚園は正規の幼稚園として經營されてゐる。授業料が課される爲に、富裕家庭の兒童のみが個人又は協會經營の幼稚園に通つてゐる。

協會幼稚園の維持費は協會々員の會費と寄附金とだけでは賄へない。爲にこれに通ふ兒童の父兄は月額一フロリン乃至三フロリンの月謝を納めねばならない。無料幼稚園の數は非常に少い。以上の事實にも拘らず修道院、協會、個人等の設立にかゝる幼稚園の維持は次第に困難になつて來た爲、遂にこれ等施設に關係する社會、市、州、國家、がその維持を引受けることになつた。

これ等の施設に補助金を給與してこれを助長しよういふ意向がまづ生れ、後遂にこれが社會の權威者によつて採用されるに至つた。幼稚園の經濟的安定獲得の闘争は斯くして緩和された。然るに意外にも教師及び校醫がこれを歓迎しなかつた爲幼稚園の發展は阻害された。幼稚園を小學校組織に編入することに依り、この點に初めて變化を齎したのは帝國小學校令 (一八六九年) であつた。幼稚園普及の他の動機は一八七二年の幼稚園令であつて、これにより幼稚園の效用は認められ、これが振作は視學機關の任務となつたのである。同令は又女子師範學校内に實驗的幼稚園の設立を要求した。幼稚園の數に關してはオーストリアは今日他の著名列國に比して左程の遜色はない。

幼稚園を經營してゐる前記團體 (市、州、國家) は一日數時間しか開かない、正規の幼稚園では或種の階級にとつて



ては不十分であることをやがて認め出した。人口稠密な中心地、特に都市に於けるこの施設の擴張の必要が生じて来た。そこで午前七時から午後六時迄絶えず開かれる民衆の幼稚園 (People's Kindergarten) が始められた。早くも一八八六年、當時の幼稚園協會は民衆幼稚園の設立に關し、ウキーン市會に覺書を提出した。この覺書に於て同協會は校舎の建造中、幼稚園に便宜な施設を供與することによつて、幼稚園擴張を進捗せしむべきであることを要求したのであつた。

私立幼稚園の維持困難なることの注意をこの協會によつて促された結果、ウキーン市當局は一八八九年より一八九三年の間に近郊の十一幼稚園を受継ぎ、その後數年の間に多くの協會幼稚園を引繼いだ。その結果一九一二年度、一九一三年度、一九一八年度には、五十七の幼稚園が市によつて所有されることとなつた。これ等の幼稚園に於ては授業料は或方面のものでは全然免除され、或方面では以前の額に比して大いに減額された。授業時間は午前中は八時から十一時、午後は二時から四時迄であつた。當時これ等は尙正規幼稚園として行はれてゐたのである。

時間の擴張と園數の増加が、オーストリアの主要大都市に於て始まつたのは大戦後の事に過ぎなかつた。正規幼稚園は民衆幼稚園に改められ、上述の保育時間即ち午前七時から午後六時迄開かれることになつた。現今では民衆幼稚園の必要のない地方の二、三の施設のみが、正規幼稚園として行はれてゐる。

民衆幼稚園の時間の延長の結果、晝食の必要が生じて来た。ウキーンの幼稚園は暫くの期間アメリカ學校給食會 (American School-Feeding) よりこれを受け、朝食は和蘭貧民救済基金 (Dutch Relief Fund) から給されてゐた。一九二二年十月以後はウキーン市が自己の支出で朝食晝食を支給することとなつた。納金は父兄の經濟状態に基づき要求される。大部分の兒童は無料で支給されてゐる。少年福祉事務所はウキーン及びグラーツ (Graz) の市立幼稚園

の管理を委託されてゐる。故に市立幼稚園は社會福祉事務所の一部門たる少年福祉事務所の監督下にある。ウキーンの幼稚園は市立たると私立たるとを問はず、總て市學務局又は文部大臣の何れかの監督下にある。兒童達は次の如き方法で市立幼稚園へ割當てられる。即ち、七割五分は少年福祉事務所に割當てられ、残りの三割五分は幼稚園長により受理され得ることになつてゐる。

オーストリアの幼稚園は、一つ又はそれ以上の部門をもつて行はれてゐる。ウキーンには七つもの部を有するものもある。

幼稚園を最も數多く有するのはウキーン市で、次いでその數の多い方から順にあげると左の通りである。——低オ

ーストリア (Lower Austria)・高オーストリア (Upper Austria)・タイロール (Tyrol)・ブルゲンラント (Burgenland)・ザルツブルク (Salzburg) 及びカリンタイス (Carinthia)・フォアールベルク (Vorarlberg)。

公立幼稚園の外にオーストリアには私立及び教會の幼稚園が非常に澤山ある。私立幼稚園を經營するには、認可が必要である。これを得るには幼稚園保母の爲の二ヶ年の教育課程を終了しなければならぬ外に、更に二ヶ年公立幼稚園に於て實習する必要がある。

ウキーンには市立幼稚園の他に二ツの國立幼稚園がある。個人又は團體の經營する幼稚園は絶えず増加を見せてゐる。

モンテッソリー派の少數のものを除けば、オーストリアの幼稚園はフレーベルの思想に基いて行はれてゐる。勿論ウキーンの市立幼稚園の中には數ヶ所の幼稚園がモンテッソリー法によつて居り、この外にもう一つ、モツテッソリー方法に依てゐるものには兒童寮 (The Children's House) なるものがある。



最近幼稚園と遊戯場 (Play Centres, Horte) とを混成した新型の教育施設が造られた。(この遊戯場とは六歳から十五歳迄の児童の晝間託児所である) 即ち少年寮 (Home for Juveniles; Jugendheim) がされて、これには三歳から十四歳迄の児童が收容される。

ウキーンには今日幼稚園が七十三あり、これに百八十一部があり、少年寮は廿八ありこれに七十五の幼稚園部と、四十九の遊戯場部とがあり、その他遊戯場は九つあり、これに四十一部がある。

これ等二百五十四幼稚園部の中二百四十はフリーベル法、十四はモンテッソーリ法に則つて行はれてゐる。異常児の爲には三つの部門が開かれて居り、又聾啞児、低能児、問題児の爲にはそれ／＼一つの部が設けられてゐる。この三つにウキーン地方の児童が通つてゐる。児童はそれ／＼順應した最善の方法により、學校の豫備訓練がなされる。異常児を教へてゐる幼稚園保母は児童の病状を良好ならしめる爲教室と父兄との聯絡を密接にしてゐる。

幼稚園及び遊戯場に於ける教育方法は月例の園長會議により研究されてゐる。

保母の研究繼續の爲には三つの少年寮が研究生に提供されてゐる。

上級の保母は研究控員として小學校の初學年級に出席し、又教育方法を研討する研究會の討論に参加し得る様、保母と小學校との聯絡が保たれてゐる。

児童の爲の施設は總て少年福祉事務所に統轄されてゐる。二、三の幼稚園が夏季に休業する以外は、その他のものは一年中開かれてゐる。これ等施設に於ける保育は保母又は遊戯場指導員 (Hort-tutors) によつて行はれる。總ての幼稚園及び遊戯場にはその大きさに應じて晝間託児所員が配置されてゐる。幼稚園の管理は保母の中から選ばれた園長がこれを司つてゐる。ウキーンの市立幼稚園は總て、その教育上の指圖を二名の婦人幼稚園視學官より受け

る。オーストリアの私立及び公立幼稚園の監督は地方視學の権限内にある。

政府の統計によれば、幼稚園及び晝間託児所は次の如くなつてゐる。ウキーン 二六一、低オーストリア 二二三七、高オーストリア 一三六、ザルツブルク 三〇、ステイリア 一五七、カリンテイス 三〇、ティロール 五四、フオラーベルク 二四、ベルゲンランド 三二。オーストリアの十五の正規の學校 (幼稚園) の教育を施す學校) の中四校は州立で十一校は私立 (修道院) である。概括すれば、公立幼稚園、私立幼稚園、公認された私立幼稚園があり、これ等は正規幼稚園 (所謂學校幼稚園)、民衆幼稚園、少年寮である。

教育の振興、及び公共施設に於ける児童の保育を念頭に置いてゐる當局者の態度や、教員團體及び醫師團體の幼稚園是認は幼稚園の發展に充分の進路を開いてゐる。

次にオーストリアに於ける児童教育に關する興味ある諸事實、主として一九三六年度に於けるものに就て述べれば、既存施設を支持すること、宗教教育に一層の重點を置くこと、(朝の祈り、食前の祈り、聖歌等)、モンテッソーリ法からの分離益々顯著なること、保母の完全な教育、ウキーン市児童教育研究所 (Pedagogical Institute of the Municipality of Vienna) に於ける保母の爲の特別講習、しかして家庭に依て團體を作らうとするよりも寧ろ年齢に依て團體を作らうとする傾向の益々強いこと等である。



## エチプト

エチプトには三つの全く異つた教育組織がある。まづ第一に、附屬學校を有する歴史の古いアル・アザール(Al Azhar)の大學があつて、これはその方法及び目的に於て全然イスラム教的で東洋的な教育組織を有してゐる。第二には、約七十萬の兒童教育に當つてゐる小學校がある。これ等小學校の授業はアラビヤ語によつて爲され主としてコラン(Koran)に則つてゐる。教師は歐洲の意味に於ける訓練は受けて居らず、授業は殆ど暗記一方である。第三には、歐洲的組織による初等、中等、高等教育があつて、これまでは五歳から廿五歳迄の學生々徒廿五萬を教へてゐる。

新型の學校組織特に幼稚園に就ては或る試みが爲されてゐる。幼稚園の教師は英國で研究して來たものが普通で、フレール派の免許状を有してゐる。それ故幼稚園は設備も立派に整ひ、その方法も近代である。政府の幼稚園は十あつて、六つはカイロ(Cairo)に、その他アレクザンドリア(Alexandria)、マンスーラ(Mansoura)、タンタ(Tanta)、アッシュュート(Azzint)に各一つ宛ある。その他に女子小學校に附屬した幼稚園部が十九ある。修學過程は三ヶ年、保育料は年九エチプト磅でこの中に晝食代を含んでゐる。過去數年の間に幼兒に對する一般の態度が改まり、幼稚園で教育の任に當つてゐる者に對し尊敬が益々深められる様になつた。以前は兒童は勉強を詰込主義で行はれ、五歳の兒童でも放課後更に個人的勉強を行つたのである。今日では幼稚園は五歳の兒童の能力に應じた課程を

立て、ゐる。課目はアラビヤ語、算術、自然學、圖畫、音樂、遊戲、修身、手藝より成つてゐる。アラビヤ語は繪入りの新讀本で兒童の心を引つける様に組まれて居り、習字は砂に文字を書いたり粘土に型取つたりして教へられてゐる。花園や動物ベン等により自然界の勉強を實際的に又興味深くしてゐる。特殊な幼稚園では音樂と合唱隊とが重要な特色となつてゐる。手藝は棕櫚葉細工や葦又は珠數玉の籠、小さい絨氈、毛織物の造花や玩具の如く先生が自ら考案したものである。兒童の文學は僅か六年位前から始めて出來て來た。カメル・キラニ(Kamel Kiani)は色々の物語を翻譯して幼兒の爲、四冊の書物を出版して居り、又少し大きな兒童の爲にも多くの本を出してゐる。

外國民のみの學校があつてこれに幼稚園部が附屬されてゐる。これ等の國民別の學校の目的は彼等それ々の國の人々に本國で與へられる様な教育や教養を與へることにある。これ等にはイタリア人、ギリシヤ人、ユダヤ人、アルメニア人等の諸學校がある。これ等の多くは彼等自身の間で、又は本國政府の手により維持されてゐる。その他に、フランス、イギリス、アメリカ等のミッション・スクール(Mission School)の如く人種無差別の外人學校がある。兒童は民族、國籍、宗教の如何を問はず入學を許可される。アメリカ傳道會(American Mission)はタンタに保姆の養成學校を設けてゐる。ペンシルヴァニア(Pennsylvania)のジョツバーク(Pittsburgh)にある學校の卒業生である二人の保姆が我がアメリカ・ミッション・スクールの十五の幼稚園事業を監督してゐる。我々は四十五の物語と詩とを翻譯してこれを出版した。我々は既に多くの歌謠や遊戲の翻譯を完了してゐる。

我々はアラビヤ語を音聲的に教へる計畫を實行して來た。この方法に導いた原因は二つある。即ちアラビヤ語は默字を有しない表音語であること、書かれる言語と話される言語と違ふといふことである。故に古典文はその意味が兒童に通じないことが多いのである。我々は兒童に芝居風の朗讀や歌や物語りや繪等で、古典語を用ひる様教へるこ



とによりこの必要に應じようと努力した。同時にアルファベットのポスターによつて、三母音組織の文字を採用した。文字は廿八あつてこれがそれ／＼三母音を取るものであるから八十四枚のポスターが出来ることになる。單語の頭音は兒童の知つてゐる事物の繪によつて導かれる様になつてゐるから、その單語は容易に理解されるのである。遊戯と手藝とに於ては我々は表現の自由と獨創とを求める。

### 北 ス タ ン

私はカールタウム (Khartoum) の教育代理監督 G. C. スコット博士 (Dr. G. C. Scott) 及びスタン (Sudan) の女子教育を監督してゐるボード女史 (Miss Pote) と會見していろ／＼話を聞いた、——幼稚園又は小學校で教鞭を取りたいと希望する女學生の爲には政府の教員養成所がある。この學校はボード女史並びにハーヴェイ女史 (Miss Harvey) の監督下にある。幼稚園を見學して私の感銘したのは兒童達の統制ある自由であつた。戸棚は幼兒の届き得る様な高さに作られ、幼兒は自分の事は自分でするのであつた。ボード、ハーヴェイ兩女史はスタンの歌謠や遊戯を用ひる様努めて居られた。幼兒達は戸口で靴を脱ぐことになつてゐるので、自由身輕に踊ることが出来るのである。スコット博士は幼い兒童の爲にアラビヤ語の讀本を著してゐるが、それには古典語を用ひ、しかして兒童に親しみのある内容を選ぶのに注意が拂はれてゐる。

政府はカールタウム近くのブクト・エル・ローダ (Bukht er Rhoda) と云ふ部落に初等教育の實習學校を設けてゐる。少年達は葦や竹で自ら樂器を作つて合奏する。彼等は算術の問題を自ら用意し又地理科目にも自ら計畫を立てる。これはスタンの若者に教育を實際的たらしめる爲の努力である。アメリカ傳道會は北スタン (North Sudan) に二つの幼稚園を有してゐる。即ち一つは北カールタウムに一つはオムダウルマン (Omdurman) に本年九名の女學生がエジプトのタンタで行はれる課程を了へ免狀を授與された。

### 南 ス タ ン

私はソバト河畔ドレイブ丘に住むシルック族 (Shilluk Tribes) の家々を訪問する便を與へられた。——此所は赤道より北へ九度、白ナイル河岸マラカルの南方數哩の地點である。これ等未開人の兒童は實際甘言を以て教育に導かねばならないのである。我がアメリカの布教團は男兒の爲と女兒の爲とをそれ／＼一つ宛の學校を設けてゐる。これ等は此の種族の唯一の學校であるから、政府から補助金を給されてゐる。アルフレッド・ヘイスティ師 (Rev. Mr. Alfred Heasty) 及びその他の人は土地の言語を解剖して目下辭典を編纂中で、又學校用の書物は既に複式印刷法により出来てゐる。ヘイスティ夫人は小さい兒童を受持つてゐる。夫人の成功は、兒童達が落着きを失つて野蠻な金切聲を立てさうに見えた時には、直ぐ彼等を戸外に出してやることに存してゐると信ずる。蟒蛇、犀、獅子、虎等に關する自然科学の課目は彼等の經驗には全く親しみのあるものである。彼等の手藝は粘土細工や編物である。赤粘土はソバト河から採れる。小さい女兒は小さな前掛をしてゐるだけであるから、彼等の着てゐる小さい蕙が實に上衣なのである。



遊戯の時にはその種族の踊りや歌や遊びを保存して用ひる様に我々布教者達は努めてゐる。この地方にフープーといふ鳥があるが、この鳥の動作を真似た遊戯がある。即ち、頭に棒切れを挿した子供が俯伏せになつて寝轉ぶと、皆はこれに蔽ひを着せる。子供達が歌ひ始めるとこの鳥になつた子供はフープー鳥の動作を真似て頭を振るのである。女兒達は自分の家の赤子の守りをしなければならぬから、ヒーステイ夫人は託兒園を設けてその女兒達が心配なく幼稚園で過せる様取計つてゐる。村の娘達がこの託兒の爲に建てられた家の中で赤ん坊の世話をする。赤ん坊は牛乳を與へられ、柔かい鹿皮の上に寝かされる。遊び道具としては彼等は竹で作つて色々着色された珠數玉や砂をもつてゐる。恐らくこれが皆さん御存知の中で最も原始的な託兒園であらう。

## ロシア

ロシアに於ては三歳以下の兒童のための設備は人民保健委員の管下であり、三歳以上の兒童のそれ等は人民教育委員の配下にある。三歳以下の兒童は託兒々童と稱され、三歳より七歳迄の兒童のみが就學前兒童と稱せられる。託兒々童の主なる教育機關は養育園であり、就學前兒童の主なる教育機關は幼稚園である。そして大小都市及び田舎や集密的農園には養育園又は幼稚園がある。

これ等託兒及び就學前兒童のための主要なる機關即ち養育園と幼稚園との外に、兒童の世話をする機關がいろいろ澤山ある。即ち、遊戯場(就學前兒童用遊戯場は一年に三ヶ月乃至七ヶ月間開かれる)、舎宅協會(Lodging Assoc-

ciations)の組織してゐる所謂歩行兒童團、兩親を失つた寄託兒童の爲の兒童の家「文化休養公園」内にある兒童部、「停車場にある母子の部屋」等これである。

我國の施設は斯く數に於て多いのみならず、種々の社會の特殊な要求に應じ得る様に、その組織に非常に融通性がおかれてゐる。

一九三六年に於けるロシアの託兒、幼稚園事業を最も大きく影響した最大重要事は、「ロシア中央執行委員會及び人民委員會六月廿七日決議」である。この新法令は最大の重要性を有してゐる。これは墮胎禁止、出産時婦人に對する物質援助の増加、大家族國家扶助の確立、母の家組織網の擴大等に關するものである。この法令は次の同法令よりの引用に依て判る如く、託兒、就學前機關の驚嘆すべき増設を提供してゐる。この引用は、既存養育園及び幼稚園に在籍せる兒童の數をも併せ提示する。即ち決議は次の如くであつた。

「都市、國有農園、労働者隣保館、鐵道等に於ける兒童の育兒寢臺の現在設備を、一九三九年一月一日迄にその二倍とし、その總數を八十萬臺に増加すること(養育園に於ける寢臺數は在籍兒童數に一致す)。」

「農村地方に於ける永久的及び臨時的集密農園託兒所(養育園)の兒童の寢臺の現在設備を一九三九年一月一日迄に二倍にし、これが數を永久託兒所にあつては五百萬、臨時託兒所にあつては四百萬を増加すること。」

「都市、工場隣保館、鐵道に於ける永久幼稚園の機能網を三倍にし、一九三九年一月一日迄に二百十萬ヶ所(現在幼稚園網の七十萬ヶ所に對す)に向上せしめ、村落地方の國有農園、工場設備、學校設備等に於ては現在網の十三萬ヶ所に對し三十萬ヶ所に増加せしむること。」

ソヴィエト政府はこれと同時に、一九三六年産科病室、養育園、牛乳供給所、幼稚園の設立の爲五十九萬六千ル



ールを、又これ等職員養成の爲五萬ルーブルを提供した。この決議は両親及び兒童に關する教育事業に現在非常な影響を及ぼして居り、又近き將來に於てもその影響は少くないであらう。

幼稚園のみに對する政府の補助金でも非常な額である。即ち一九三七年には大小都市、勞働隣保館、地方中心地のみに於て、その額十億ルーブルを超えてゐる。注意すべきは總ての託兒、幼稚園事業の指令權は國家に屬し、全事業は社會主義養成の完全なる一部であるといふことである。

### イングランド

一九三七年東京開催の世界教育會議就學前及幼稚園部に對し、英國保育學及校協會より滿腔の敬意を以て此の論文を捧ぐ。

過去二、三年を顧みるに、保育學校擴大要求に關する輿論の擡頭は著しいものがあつた。このことは通信會議・調査等の順に増加したことによつて知ると同時に、又民間出版物及び學務當局の全國に互る事業の報告に於ても窺ひ得る所である。

斯く識者の關心が高揚するに伴ひ、中央官廳即ちロンドン教育局の保育學校新設に對する制約は次第に緩和されるに至つた。一九三六年發行のイギリス教育局年報(Annual Report of the English Board of Education)の述べる所によれば「保育學校(Nursery Schools)増設は凡ゆる地域に於て望まじきことである。特に、住宅條件に恵まれ

ぬ地域、及び取拂はれた下層市民區域から移つて來た家族達が集つてゐる新住宅區域に於て一層然りである。」

この政策を反映してイングランドに於ける公認保育學校は八十四に上り、その收容員數は二歳より七歳に到る幼稚園兒六千乃至七千名の多きを算して居り、目下懸案の計畫が實現すればその數は百三十校に達するであらう。

これは發展のほんの増加状態だけを示したに過ぎないのであるが、見逃してならないことは、二歳より七歳迄の幼兒の數は百七十五萬にして、その中保育學校に於ける養育及び教育を實際に必要とするものは、少くとも百萬に及ぶといふ事實である。

「兒童資金を蓄へよ」といふことは失業者の數の最も甚しい窮乏區域に於ける臨時保育學校(Emergency Nursery Schools)の開設にも猶活潑に適應する。それ〴〵四十名を收容し得るこの種保育學校が十ヶ所に新設され、國家から特別の財政的援助を受けてゐる。

各方面の學務當局監督下にある幼兒學校(Infants Schools)内、三歳——五歳間の子供の爲の保育學級が次第に増設されつゝある。これ等保育學級はその性質及び條件等に於ては猶不定状態にある。これはしつかりした條件が殆ど加へられてゐない現状に歸因する。而してこれ等保育學級は保育學校の長所の幾分を與へると思はれてゐる一方土地の欲求及び狀況に應じて變容自在である爲に、比較的經營費を要しない制度と認められてゐる。保育學級は増加してゆくが、在籍幼兒の數は減少を辿つてゐる様である。その不用になつた空室は我等の保育學校の目的の爲に利用し得ることとなる。

保育學校や保育學級の如き國家的施設が斯く進歩して、幼兒の健全なる心身の確固たる基礎が得られること、相並んで、幼年期の子供の性質と發達との心理的考察に對する運動、及び幼兒の個別的諸問題解決の爲の幼兒個別指導研



究所 (Child Guidance Clinic) の樹立に對する運動が著しく進出して來た。この方面に於ける顯著な業績として、ムーディー (Dr. Moodie)、バーラー (Dr. Buhler)、スーザン・アイザークス (Dr. Susan Isaacs)、ヤーガレット・ロウエンフェルド (Dr. Margaret Lowenfeld) の諸博士及びその他諸氏の事業は、イギリスに於ける保育學校運動關係者に測り知れない好影響を與へてゐる。

更にこれ等と同様有意義にして有望な傾向が漸次顯著になつてゐるが、それは教育上の行政的見地から、二歳から七歳迄を一連續時期として子供の性質及び欲求を考慮する様になつたことである。これは保育學校教育期間を五歳以上に延長して幼兒學校の年齢を含ませ、而して現在の如く幼児が五度目の誕生日の近くで、その教育経験を中斷されるが如き弊を除かうとするのである。

この傾向は或る保育學校、殊に有名なものはヨークシャー州ブラッドフォードのプリンスヴィル保育學校 (Princeville Nursery School in Bradford, Yorkshire) に於て、試験的に實行する旨が發表されたが、この保育學校は二歳の幼兒を收容し、幼兒學校年齢をも連續して保育學校の養育及び共同生活にあらしめ、七歳に到る迄子供の連續發展する知性に中斷なき進展を與へるのである。これ等の實驗は現に有望な成果を收めんとして居る。我々はこの方面に於ける一層重要な進歩を期待するものである。

又同じ目的が次の二者によつて間接的に達せられつゝある。即ちその一は、子供の爲に保育學校の長所を繼承してやりたいといふ要求に影響された進歩的幼稚園であり、他の一つは保育學校の標準を漸次保育學校のそれに引上げつゝある進歩的學務當局 (特にウィルズデン (Wilmsden)、レスター (Leicester)、リーズ (Leeds) の當局) である。リリアン・ド・リッサ女史 (Miss Lillian de Lissa) の指導する英國保育學校協會 (Nursery School Ass. of Great

Britain) の事業は過去二年間に相當の前進を見せた。その會員は今や二千五百に近く、各大都市に於ける支部は二十を算し、その中二つはウェールズに、二つはスコットランドに、一つは北部アイルランドに在る。同協會は會議、討論、教育局その他地方學務當局への委任、映畫、出版物の配布等により間斷なく目的普及に精進してゐる。同協會の實行委員は、それ／＼同協會々員より成る保育學校長會議 (Council of Superintendents of Nursery Schools) 及び幼兒學校長會議 (Council of Head Teachers of Infants Schools) により補佐されてゐる。これ等兩會議は夫々委員會を通じて活動し、自ら會議を組織して居り、且、保育學校及び保育學校の内部的問題を研究處理することにより、同協會の目的達成に貴重な貢獻をしてゐる。

保育學校協會の目下の活動は主として次の如き努力に關するものであつて、既に或程度の成功を收め且引續き收めんとしてゐる。

- (一) 就學年齢前の幼兒の要求を凡ゆる新住宅區域に於ても適當に満足せしめる様保證すべきこと
- (二) 五歳未満幼兒が保育學校又は嬰兒學校のある學校施設に入學する場合には、幼兒をして保育學校に於けると同様適當なる養育を受けしめる様保證すべきこと
- (三) 年齢七歳に到る迄の幼兒の保育學校増設を計り、この年齢期と連續的に擔當すべき教師の訓練を促進し、以て國家的教育組織の基礎として保育學校教育の認識を助長すべきこと
- (四) 以上諸件に關する小冊子及び摘要書を印刷出版すべきこと

我が協會最近の出版物としては次の如きものがある。

サー・デヨージ・ニューマン著「保育學校と就學前兒童」(Nursery Schools & the Pre-school Child by Sir



George Newman.)、リリアン・ド・リッサ著「保育學校—國家的教育組織の基礎」(Nursery Schools—A Foundation for the National System of Education by Lillian de Lissa) 一九三六年會報「七歳未満幼児の教育」(The Education of Children under Seven, "Conference Report, 1936")、貧民街取拂及び住宅再興に關聯せる保育學校」(Nursery Schools in Relation to Slum Clearance & Re-housing)、ハートウッドのアラン夫人著「新住宅、新設學校、新市民」(New Houses: New Schools: New Citizens by Lady Allan of Hurtwood)、グレース・オウエン著「勞働階級組織に關聯せる保育學校」(Nursery Schools in Relation to Working Class Organizations by Grace Owen)、グレース・オウエン著「嬰兒期と學校生活との中間期」(Between Babyhood & School Life by Grace Owen) —(家庭書物の出版者バーカー諸氏の好意に依るもの)、スーザン・アイザークス博士著「幼年時代」(Early Childhood by Dr. Susan Isaacs.)

## アメリカ

アメリカに於ては保育學校 (Nursery school) 及び幼稚園 (Kindergarten) なる二名稱は二歳より六歳迄の児童の發達を指導する爲、特に設けられた教育施設を指すために用ひられる。幼稚園は現在大都市の大部分に於ては公立學校への豫備單位と考へられてゐる。これに反し保育學校は大部分、私立學校又は教員訓練所の實習場乃至は児童研究の調査機關として用ひられる。この他に失業者及び貧困者の幼児の爲、政府が設けた施設の一部として運用される

臨時保育學校も亦多數存在してゐる。この兩施設は何れも相似た原則の上に建てられてゐる。

幼児の爲のこれ等の計畫に於ける現今の三發展は (一) これ等諸計畫を學校綱領に適宜關聯せしめること (二) 多數の幼児にこの計畫を利用せしめること (三) 「救濟」保育學校及び兩親教育施設により新社會事業を例示することである。

(一) 小學校を繰下げて現規定年齢以下の児童をも收容せよといふ要求は二つの根據より出てゐる。即ちその一は、幼年期に於ける環境及び指導が後の學問能力、感情制御、社會生活への自己調節等に及ぼす影響を重要視した學問的研究から出で、その二は、規定の就學年齢たる六歳以前にその子供の教育援助を望む父兄の要求から出てゐる。教育なるものは一つの繼續せる過程である故、就學前教育施設の事業がこれに續く初等教育の基礎を打建てるに足るといふことを確かめる必要がある。加之、保育學校は小學校教育を圍繞する因襲を全然有しない爲、就學前標準の調査より得られる児童發達の知識を、小學校教育に貢獻すべき機會と義務とを併せ備へてゐる。

児童年齢の各段階に互つて教育過程の中断を避け、その繼續を確保しようといふ著しい努力は、ニューヨーク及びカリフォルニア州に於てなされてゐる。ニューヨーク州では二歳から五歳、五・六歳から九歳に到る児童の教師の爲一聯となつた過程指導を設けてゐる。この指導は二歳から九歳に到る迄の各年齢群の児童の漸進的發育に適應し得る互に關聯ある事業計畫を供してゐる。カリフォルニア學務委員は身體衛生、精神衛生の専門家、成人教育及び一般教育の分野を代表する専門家の委員會を任命し、二歳から八歳に到る児童の有效な指導となる計畫の建議を命じた。

地方の諸學校に於ては、幼稚園と初學年の課程活動を互に關聯せしめることに重點を置いて來た。多くの幼稚園事業は、學問をば幸福な成功の見込ある企ての助けとして、小學初年級に於て行はれてゐる。その代り幼稚園は、初



年級の基礎となる読み書きの學力を準備するのである。

幼稚園の百年祭が各所で祝典されてゐることは、就學前教育の價値を強調するために、これ等の價値を教育者の群に示すと共に通俗刊行物や新聞の讀者の注意を促す好個の機會となつてゐる。

(二) 兒童が幼稚園及び保育學校に入る機會をより多くしようとして、種々の關係機關が相協力し、經濟恐慌時代に經濟上の處置として閉鎖された幼稚園を復興し、「救濟」保育學校の幾つかを公立學校の永久經營にせんとする努力が爲されてゐる。これを實現せんが爲現行州法令の解釋及び新法令の採用等がなされた。幼稚園及び保育學校が維持される地域の面積の制限を撤廢し、就學前教育の爲にも初等中等學校に入る兒童の爲の公金割當に普通用ひる同じ財源より、又同じ條件により經濟上の支援を得んとする努力が爲されて來た。

(三) 「救濟」保育學校及び兩親教育計畫は繼續されて第四年目を迎へ、年々五萬に上る兒童及び救濟金を受くる者、或は又同じ程度の収入者達殆ど六十萬に奉仕した。保育學校及び現在の教育計畫は地方の公立學校の保證の下に、汎州的監督の援助により活動してゐる。

疾くに奨励すべきではあるが今まで實行困難と目されてゐた計畫が「救濟」保育學校によつて、その實行可能が證明された。一例を挙げるとそれは十六歳から二十歳迄の青年の使用である。これ等の男女青年は非専門的能力を行使して保育學校長の直接指導の下に働くのである。保育學校の日々の日課の手順と目的とを教へて最初の指南を與へるのである。これ等男女青年の或者にとつてはこの經驗が手引となつて、將來教員としての興味を覺え、或は兒童指導の他の方面に導かれる様になるかもしれない。又その他の者にとつてはこの經驗が結婚生活及び家庭生活への主なる序幕となるかも知れない。

兩親教育は保育學校の完全な一部である。而して「救濟」成人教育計畫の一部たる兩親教育が始められたのは、斯くの如き順序に於てであつた。しかし今ではそれは多くの他の計畫の一部となつてしまつてゐる。家庭生活の諸問題は、読み書きを習ひ始めたばかりの成人の課業に於ても、又民間保守軍團 (Civilian Conservation Corps) に編入される若い人々の教室に於てもその教科内容となるものである。救濟事業婦人部 (Women's Division of W. P. A.) の數回の料理、裁縫、奉仕等の諸計畫からも多くの兩親教育クラスが組織された。家庭調整問題が大きくなつて共同生活の諸問題を含むに到り、又、社會協調、善良なる市民精神の重要性が強調されるに到つた時に、近隣集會が發展して來た。充塞された生活條件や不況時期の低収入に對する調節等から多くの問題が生じて來ると共に、兩親教育計畫は家庭生活の固定化を助けてゐる。それは又我々の感情的社會的安定度に對し、家庭環境が及ぼす影響の大なることの、より一般的な理解を進める上にも助けとなつてゐるのである。

## アイルランド

アイルランドに於ける保育學校事業は一九二八年ベルファースト (Belfast) に於てその起源を發した。即ち、この年アレリアン保育學校 (Arellian Nursery School) が一有志委員會により開かれ、二年を経ずして約四十名の幼兒を收容し得る單獨建物に移つたのであつた。この保育學校は全然有志の寄附により維持され、一九三六年迄はアイルランドに於ける唯一の保育學校であつた。この年マクアサー (MacArthur) 保育學校が、これも亦有志委員會によ



りベルファーストの他の一地域に設けられ、同様に有志の支持に俟つて来た。現在迄の所アイルランドに於ては保育学校は労働階級の幼児のみを收容するものである。

一九三六年秋、北部アイルランド文部大臣は再三の訴へに漸く應じて保育学校を認め、その校長に對して小學校教員の俸給に相當する俸給の支給を承認し、これと同時に保育學校教師の訓練、園児の數、建物等々に關する必要な規則を頗る適當に制定したのであつた。

略々これと同じ頃、地方學務當局は文部大臣認可の保育學校と、且當局の認めたる基本金支出額に對する減債基金の三分の二の援助を認容した。現在の處ではロンドン教育協會 (J.E.A.) からの經營補助金は望み難い状態にある。九年間専ら有志の盡力に負ふてゐたものを、學務當局側に斯く認識を得たことは、我々の最大の喜びとする所である。保育學校は今や北部アイルランドに於ける教育組織の中に確固たる地位を有して居り、將來又、俸給、増俸、年金等に關して保證される管理者の地位を得る曙光を見つゝあり、且完全な規則も既に作成されてゐるのである。

これ等二つの最初の保育學校はベルファーストの二中等學校のそれら、同窓會の力によつて開園され、經營されてゐることを知るのは、甚だ興味のあることである。

アリアン保育學校は現在約七十名の入園志望者を有して居り、これが爲の擴張計畫も既に成つて居り、マクアサイ保育學校では校舎建築計畫に着手せんと望んでゐる。第三の保育學校も誕生を迎へんとして、これが爲に某方面の委託金を融通せんとする計畫が進められつゝある。ベルファーストの如く人口四十五萬をも有する商工業中心地に對し、三つの保育學校では充分とは言ひ難い。公共支援の下に更に多くのものが創設されることを切に希望してゐる次第である。

アイルランド自治州に於ては、これと同じ様な發展は見られない。しかしダブリンに於ては個人の關心が次第に増大しつゝあり、實際上に於ても何等か、招來されることを望まれてゐる。ベルファーストに於ける保育學校事業の結果は、他の土地に於けるその如く、最も満足すべきものであることは敢て述べる必要もないことである。周到な健康並びに齒科の診断も立派に結實してゐる。擔任級の中に保育學校出身の児童をもつた公立小學校の訓導達も、これ等の児童の自持獨立と行届いた訓練と教育の便益を利用し得る能力とに就て積極的に保證してゐる。

園児、家庭、園間の密接な友交感情も固く結ばれてゐる。而してこれこそ保育學校事業の最も重要な様相の一つであるといふは信ずるのである。

## スコットランド

保育學校の設備に關してはスコットランドに於ては過去二ケ年の間に幾分の進境を示した。勿論その進歩率は我々の期待してゐる程の目覺ましさは見られないが。

認可された保育學校の數は廿六に増加し、この中三つのみが教育委員會により行はれて居り、他の十七は地方官廳の補助を受けてゐる。エディンバラはこの廿六の中十五を有して先頭に立つてゐる。この外小學校附屬の託兒所が八つある、六つはグラスゴーに、二つはレンフリュー (Renfrew) 27。

私がオックスフォード會議に報告書を提出して以來、メティル (Methil) (鐵山地方)、エルチン (Elgin) (小住宅



地)、及びストランラール (Strathairn) (小海港) にそれら保育學校が有志の委員會に依て設立された。教師達は私立託兒所の支持に力を盡したり、その經營の責任を負ふてゐる委員會に於て盡力したりして、保育學校の價値に對する彼等の信念を實證せんと努めてゐる。

この前の總選舉に際し、政府は保育學校の件をその政治案の中に加へて選舉民に示し、又その後スコットランド文部省の通牒の中にこの件が優位を與へられたこと等により、我國に於ける保育學校運動は、相當の刺激を受けたのである。又一九三六年出版のスコットランド保健事業委員會の貴重な報告書に於て、保育學校の價値とその必要は大いに強調されたのであつた。

スコットランド文部當局がその通牒に於て決定的に保育學校に對して共鳴するに到つたことは欣快に堪へない。スコットランドに於ては普通の學校に附屬した託兒所は就學前兒童の爲に適當な設備ではないと考へるのである。

今や我々は、地平線上に喜ばしき進歩の兆を幾らか見ることが出来る。アバディーン教育委員會 (Aberdeen Education Committee) は今年六月開園を予定して一保育學校の礎石を既に固めた。フォルカーク (Folke) に於ては保育學校協會が作られ、既に有志によつて保育學校の建設を進め得るだけの資金が調達された。この有志保育學校は教育委員會を刺戟して他のものを續々新設せしむるに到ること、期待されてゐる。グラスゴーは近々大飛躍を試みるであらうといふ喜ぶべき噂がある。又幼兒教育部の經驗のある二十名の教師をして保育學校資格に導く講習訓練をグラスゴー地方師範學校 (Glasgow Provincial Training College for Teachers) に於て施す事に賛意を示した。

幼兒遊戯場の著しい増加に就ても一言しなくてはならぬ。これは毎日午前中二、三時間就學前の幼兒の爲に開かれてゐるもので、保育學校と同等の便益を與へる迄にはゆかないが、大都市の密集區域に住む幼兒や母親にとつては福音である。これは有志者の寄附援助の下に兒童福祉委員會 (Child Welfare Committees) の主催で設けられてゐるのである。

### 南亞聯邦フレトリア

保育學校運動は前年度フレトリア (Pretoria) に於ては著しい進歩を遂げた。數年間といふものはフレトリア保育學校 (Pretoria Nursery School) 一校に過ぎず、これは市の貧民區域に在つて大部分市の補助により經營されてゐた。然るに昨年末フレトリア父兄會 (Pretoria Parents' Association) と兒童福祉協會 (Child Welfare Society) とは合同して兒童福祉保護所 (Child Welfare Shelter) 内の就學前兒童及び外部兒童の少數者の爲、もう一つの保育學校を開設した。この新設校は本年初頭目出度く開校し、現在では終日開かれてゐる。この新企劃を管理する爲經驗ある教師がイギリスから招聘され、外國仕込みの南亞人教師がこれを援けてゐる。

昨年は又市の反對側の一區域に東郊保育學校 (Eastern Suburbs Nursery School) といふ最初の有料保育學校が開設された。高等工業學校及び大學にこの管理を委託しようと計つたのであるが成功せず、爲に父兄委員會は自ら管理して進行せしめることに決定した。アメリカのコロンビア大學師範部 (Teachers College, Columbia University) 出身の老練なる教師を招聘し、同じく海外仕込みの南亞人教師にこれを援けさせてゐる。最初は微々たるものであつた



が次第に隆盛を示し、その收容定員は數回に互り増加せられ、現在初めて收容能力に餘裕が出来てゐる。これ等の保育學校は總て公認のものであるから、政府から小額ではあるが補助を受けてゐる。目下一委員がトランスヴァール (Transvaal) に於ける教育に關する全問題を調査中であつて、トランスヴァールに於ける保育學校發展に一層の活躍を政府に懇願する爲、必要な建議が爲された。

### オーストラリア

一九三五年八月のオックスフォード會議以來オーストラリアに於ける就學前教育は着實な進歩を遂げてゐることを報告し得るは我々の幸とする所である。幼稚園部の事業は我が聯邦六州の總てに於て著々と進行を續けてゐる。非常に教示的な幼稚園會議が南オーストラリア無料幼稚園聯合會 (Free Kindergarten Union of South Australia) 主催の下に一九三六年九月南オーストラリアのアデレード (Adelaide) に於て開催された。各州代表者提出の幼稚園狀況に關する報告が朗讀討論された。この會議に於て通過した決議の一つは次の通りであつた。即ち「南アフリカ幼稚園聯合會は我等の事業に關聯して無料保育學校の設立を可能ならしめる特別補助金を政府に請願することに、現出席代表の支持を求むること。」

就學前教育擴張の考へは、幼兒指導の重要性が一般人に理解されると共に漸次旺盛になりつゝある。昨年更に二つの州—ニュー・サウス・ウェールズ (New South Wales) 及びサウス・オーストラリア (South Australia)—に保

育學校が新設されたことによりこの方面に於ける長足の進歩が遂げられた。この兩保育學校は何れも兩州に於ける幼稚園運動成果の一部である。

ニュー・サウス・ウェールズからの報告に依れば、二つの保育學校が設立され、又二ヶ年半の兒童發育特別研究を終へて歸朝せる幼稚園保姆養成學院職員 (Kindergarten Training College Staff) の一人により保姆修業生に講演が與へられたとのことである。同州には將來學生の爲保育學校保姆養成の計畫實現の見込がある。南オーストラリアはメルボルン幼稚園保姆養成學院 (Melborne Kindergarten Training College) の保育學校保姆修業者が管理の任に當る一保育學校の設立準備を報じてゐる。

現在の所他の州は保育學校の設立迄には到らない。保育學校の維持は勿論のことその設立準備の事業もこれ等諸州に於ては容易の業ではないのである。これ等は總て現に個人の寄附に依存するのであり、又幼兒指導事業の考へは未だ日猶淺きものである爲、具體的進行を行ふに先立ち一般の關心と同情とを起すことは屢々非常に問題なのである。ヴィクトリア無料幼稚園聯合會 (Free Kindergarten Union of Victoria) はその保姆養成學院の一九三七年度の學長としてアメリカ、コロンビア大學のクリスティン・ハイニツヒ女史 (Miss Christine Heinig) を推戴したことには無上の幸運である。聯合會の就學前教育事業擴張に對する種々の計畫は既にその緒に著いてゐる。次回の報告に於てこの事業を更に詳細に報じ得ると期待してゐる。

### エル・サルヴァドル共和國



エル・サルヴァドル共和国 (Republic of El Salvador) には十六の幼稚園があり、その總てはフレイベル派のもので、感覺練習尊重の傾向を有してゐる。

レバプリカ・デ・エスパナ (Republica de Espana) といふ師範學校にある幼稚園が自身の校舎に於て保育を行つてゐるのを除けば、これ等の幼稚園は財政上の制限により小學校に附屬されて行はれてゐる。この師範學校にある幼稚園は三部より成り、四歳より六歳迄の幼児を收容し、七歳で始まる小學初等教育に彼等を導く様になつてゐる。

授業は種々で次の様な按配の下に行はれてゐる。即ち、朝禮、健康診斷、會話、唱歌と遊戲、感覺、計算、教育玩具、讀方、作業、挨拶。

教員の側にも政府の側にも、ドゥクロリーの法則 (Decrolyan principles) による幼稚園を設立せんとする意向が強い。モンテッソリ式は當國に於ては採用されない。既設幼稚園に於てフレイベル式指導が行はれてゐるにも拘らず、進歩的教育に於ては近代器具を用ひんとする傾向がある。

幼児が編入されると、初歩的テストに依て級別される。我々はビューラー・ヘッツェル法 (Buhler Hessler) のテストを採用してゐる。新入幼児には規定による母としての指導が加へられてゐる。幼児は自己教育を主とし、その發達に就ては注意深く後見されてゐる。

これ等幼児は非常に感覺の鋭敏な年頃の間自由な生活をさせられ、彼等に與へられる總ての訓練と指導とは暗々の中に示され、音楽と歌謠の素養が自然の中に與へられる。健康上の注意を以て、これ等の教育は種々の遊戲に折交せられてゐる。我々は彼等の教室を社會化する様努めて居り、彼等の受ける教育は總て完全なものばかりである。自由と自發性が許され、母性的愛情を以て善き習慣が培はれてゐる。教材と設備とは幼児の訓練と年齢とに相應はし

いものが用ひられる。教師は總て斯道の専門家であり、午前の中だけで彼等の職務は終る。その給料は小學校教員と同額であるが、小學校教員の方は終日勤めねばならない。(月額平均約四十弗。)

學校當局並びに教員は、就學前教育は初等教育の基本であることを理解してゐるから、日ならずしてこの教育が全國に普及する可能性がある。

猶又、勞働に携はる母親達が早朝子供を託して工場に出で、午後歸つて子供を引取ることの出来る様に、就學前終日學級の必要なることを一般の人々も自覺しつつある。恐らく我々は社會的教育事業としてこれ等の就學前學級を、やがて組織出来ることと思つてゐる。



## 陪聽座談會

進行係——アリス・ソーン女史

進行係

東洋の子供の過度の依頼性に就て、我々は如何なる處置を取れば良いか。學校經驗に對し子供の父兄を再教育する爲に、これ等父兄達の助けとなる如き方法はないものか。

學校兒童の精神的健康にとつて最も重要なことの一つは、信頼と安全感との環境を造つてやることである。日本では、子供を従順にする爲に、恐怖感を利用する兩親や祖父母が多いやうであるが、この點に關し、父兄の爲にも子供の爲にも、何かいゝ方法はないだらうか。

某外國婦人

私は東洋のこの問題に關しては何とも申し上げ兼ねるが、ニューヨークでも矢張り同じ問題があつて、父兄が兒童の教育に餘り干渉し過ぎる傾きがある。即ち、教師を信じて子供を委しきつて呉れないのである。そこで兒童教育の一部として最も重要なことは、まづ父兄教育といふことであると思ふ。で我々は兩親教員會 (Parents-Teacher Meeting) を組織して、教室環境には父兄の空氣を餘り濃くしてはならないといふ重大事實の克服に努めてゐる。これがこの問題解決の一方法である。

高良富子女史

日本の母親は子供の家庭教育、殊に、自制と従順といふことに對しては、昔から餘りに拘泥し過ぎるといふことを簡單にお話して置く。我國の兩親たるものは未だ充分社會的に目覺めてゐないから、今尙子供に従順を躰ける手段としておどかしを用ひる。しかし今では愛育會の如き會からの補助で、研究所を設けやうといふ時期に立到つてゐる。我々は既に試験的の幼稚園を二三設け、倉橋教授の如き専門家の御援助の下に、おどかしを用ひないで子供を立派に躰ける方法を研究してゐる。我國の家庭教育は過去二十年間そこ／＼の間に急激なる大變化を見、今では全く面目を一新してゐる。

K・F・ファニング女史

私はこの問題の解決は、神への歸依による兒童教育の中のみ見出されるのではないかと考へる。これは必ずしもキリスト教國のみ限つたことではなく、我々西洋人が天なる神を口にする様に、神佛を信仰する日本人々々も神様といふことをよく口にす。いつもよく引かれる例ではあるが、この一例としてお話しするが、一人の子供が二階へ行つて書物を取つて來る様、父から言ひつかつた。丁度夜の事で、二階には誰もゐず、眞暗であつたので、兄の方は恐しがつて行けなかつた。處が幼児園へ行つてゐる弟の方が「僕が行つてくるよ」と言つて、その本を取つて來た。家族の者が驚いてゐると、「僕は恐くないんだよ。神様が僕についてゐるんだもの」とその子供が答へた。この神様と一緒にゐるといふことは、子供が宗教々と普通の教育とを兼ね教へてゐる幼稚園で教はることである。この二形式の教育は切離すべきものではないと私は考へる。

レーマン女史

就學前及幼稚園部



私は皆さんと違つた角度からこの問題を考へて見たい。それは單に父兄の教育問題ばかりでなく、下婢教育の問題である。私の接する兒童は大抵その世話を女中に委せられてゐる。我々は思ふだけのことはやれなかつたが、これ等女中の爲のクラスを澤山作りたいと思ふ。子供に獨行の習慣をつけるための側面的一助として斯かるクラスを組織してゐる。而してこの方面には或程度の進歩が見られる。

ヘスター女史

フィリップ代表の話によると、彼地では入學の當初でも、父兄又は下婢を子供と一緒に幼稚園へ來させるのは非常に困難ださうである。しかし私はこの裏をかいて、子供が幼稚園へ入る以前に、子供は勿論のこと、父兄及び下婢と密接な接觸を保つといふ、實際に即した手段を奈良で講じて見た。時間の都合もあらうと思ふから私の採つた方法を簡單に述べて見るが、第一に、父兄が朝子供について幼稚園へ來ると、子供の出席率が良い。第二に、子供が登校して自分の名前や年を習つたり、挨拶をしたりする動作を特に注意して眺める。第三に、他の子供が遊んでゐる時その子供に暫く母親や女中と一緒にゐることを許す。第四に、教室に餘裕があり、授業に支障の無い時は、時々父兄の見學を乞ふ。斯うした最初の接觸を出来る限り早く始め、自分の後に兩親又は女中等に於て貰つて、保育を受ける喜びを強調する様努めてゐる。最初から、付き添ひの者から離れるといふ心配がない爲、子供の注意は自然作業の方に専ら集中される事となる。第五、幼兒に參觀者に対する歡迎の態度を植付ける。従つて幼兒に打ちくつろいだ感じを與へることを主眼とする。譬へば兄弟姉妹が參觀に來た時にはこれを歡迎する。一、三歳の幼兒が幼稚園に來て自分の姉又は兄が爲してゐることを眞似たり、粘土細工をしたりして喜んでゐる様子を度々見かける。第六、幼稚園内で健康診斷のある時は、母や兄弟を伴つて來ることを薦めてゐる。これ等の者は最初は診察の様子を見てゐるだけである

が、これに慣れて來るに従ひ彼等にも健康診斷を加へる。斯くして、その中にこれから幼稚園に入る子供があると、その子供はもう醫師になれてゐるから、診察を少しも恐れないで、自分の兄や姉のした様に、同じ經驗を得ることとなる。第七、幼稚園へ入る迄の子供の爲に、午後の時間を見計らつて、幼稚園へ招いてやる、この時には教師はいつもより自由な氣持で子供を観察することが出来る。父兄は勿論附添つて來る、子供には時には繪本を見せてやる。又子供が庭に出て玩具を相手に友達と遊んで、幼稚園といふ空氣に少しでも慣れてゐる間に、教師は附添ひの父兄と親しく話しを交す機會が得られる。斯うした經驗が數回得られると、小學校入學に對する準備も畢竟容易になる。斯くの如き特殊の段階を一つ一つ習慣付け、自立心を伸とすいふ實驗を數年續けて來たのであるが、今では入園の第一日によくある様な、親の袂に縫付いて泣いたり喚いたりする光景は非常に少なくなつた。勿論實際の幼稚園教育が始まる迄は慎重な計畫と不斷の注意とが必要である。この結果は如何といふに、幼稚園にゐる以外の時の子供の精神上、感情上の健康が大いに向上したことを見れば自ら明かなことである。私の報告を終へる前にもう一つ例を引きたいと思ふが、先刻子供を從順に躰ける爲におどかしを用ふる兩親や祖父母があると云はれたが、我々は幼稚園のやつてゐる教育に、兩親や祖父母方がもう少し關心を寄せて戴き度いのである。去年祖父母の會を催した際、多數の參會者があつたが、中には八十歳を越えた老婦人も居られた。短い會議の後、母の會からの心盡しの茶菓を頂戴したのであるが、出席された御老人達は、この會に非常に御満足の體であつたのでこのことを本年の母の會に報告し、祖父母の會の再開を進言した處、滿場一致非常な賛成を得た。そこで今秋これを再開する豫定になつてゐる。

高森富士子女史

私は日本語でお話し、たこの要點を再び英語でお傳へしてみたいと思ふ。私の考へるところでは、日本のお母さ



ん達は、子供の教育の爲に幼稚園と協力して下さつてゐる。事實家庭に於て、既に子供の教育を始めて居られる。しかし、お父様達にはもう少しこの事に關心を持つて貰ひ度いと思つてゐる。そこで我々は年二回父の會を催してゐるが、六十乃至七十の家庭から、これに出席下さるお父様は十名又は十五名の少數である。しかし乍ら父の會に出席下さらない方々と雖も、必ずや我々の爲してゐることを諒とし、家庭に於てその子供達の獨立獨行の習慣養成に努めて下さること、考へる。私がつも一つ附言したいことは、もし父兄の方に幼稚園へ度々お出でを願ひ、我々が幼稚園に於て行つてゐる所を御覽願へれば、御子様達が自分のことは自分でよく行ひ得るものであるといふことを、御納得下さるだらうと思ふ。これによつて、御両親方も自分の子供達に、自分の事は自分でする様勵まされること、なるであらう。

某アメリカ婦人

アメリカの私達の學校では父の日といふのを設けて居る。皆様と同じく我々も女中等に關しては同じ問題に當面して居るが、我々の仕事に關し特に父の關心を呼び起す爲に、この父の日なるものを設けたのである。それは丁度リンカーン生誕祭に當り、この日は下町の商館は休業になるのであるが、幼稚園は開いて、子供の父親を招待するのである。父親達は子供達と一緒に席につき、子供に聞かせるお伽噺を一緒に聞いたり、子供の唱歌を聞いたりする。或時、六尺豊かの父親が遊戯場へ來られ、自分の膝迄しかない子供の手をとつて、我々と一緒に遊戯をされたことがある。その方は堂々とした立派な方で、父親としての責任をも強く感じて居られるのであらう。大抵の人なら氣まき悪く思つたであらうが、遊戯場へ來られて、膝までしかない小さい子供と一緒に遊戯をされたのであつた。これが日本の保母方と同じ様に我々の當面せる一問題である。

フィールド女史

幼児の過度の依頼性といふこの問題は確かに東洋のみに於ける問題ではないが、特に東洋に於ては甚だしいと考へる。子供の過度の依頼性を矯正するには、主として家庭に於ける感情上の調節に俟たねばならぬ。日本の家庭の様子をよく知つてゐる人々は、日本の子供が家庭にある時は大抵母親の背に縋りついてゐることに氣が付くであらう。斯くの如く家庭、特に母親と感情的に接觸してゐる爲に、子供は幼稚園に入つてその自由な立場に同化するのが困難となるのである。つまり習慣の爲に、子供が過度の依頼性を生ずるのである。我々はこの問題に對處する爲に、父兄會、特に母の會を擇んでゐる。しかし我々の經驗では個人的な談話が最も効果的であつた。子供が幼稚園に入つた最初の日その母親と面接して、家庭に於ける子供の習慣、即ち、獨りで寝るかとか、女中がついてゐるかとか、友達との交遊状態とかを、細大漏らさず尋ねる。故に入園後一週間位で、子供の習性及びこれに對する問題等を知悉することが出来る。母親との面談の後には、教師は子供に就て色々の注意を與へることが出来る、従つて家庭と幼稚園とが協力して、子供の感情及び社交上の調節を計り、遊びや作業に關し、良い方面へ指導してゆくことが出来るのである。又子供自身が處理せねばならぬ問題が生じた場合、即ち、いくら母親が改めさせようと努めても本人にその意志のない爲に如何ともし難い様な問題の生じた場合には、その子供と個人的に談合する。又一方子供に意志があつても母親にその意志のない場合には、子供と母親との協力が必要となつて來る。斯くの如き種々の方法によつて、この過度の依頼性といふ問題は漸次矯正されてゆくものと考へる。

木内きやう女史(高良女史通譯)

只今御提出の、幼稚園教育と小學校組織との間に幾分の間隙がありはしないかといふ質問は御尤もと思ふ。日本の



小學校は最近急激な變化を見せてゐる。現在では幼稚園を経ずに直ちに小學校に入る児童も相當ある。そこで、小學校に於ては、二年間は家庭の様な環境で自由な生活をするを許してゐる。即ち児童が教室外へ走り出たり、校内を走り廻つたりすることは默許して、唯自由奔放な生活を許して個性の伸張を期し、教員又は學科等から來る制壓によつて最初から縛られないことを主旨としてゐる。不幸にも日本の公立小學校は財政關係上充分の数の教員を得ることが出来ない爲、一人の教員が六十名乃至七十名、多きは八十名もの児童を受持つてゐる。そのため、教室では左程の効果を擧げ得ないから、最初の二三年はよく遊ぶといふ方針を立て、その後徐々に學校生活及び社會環境に調節せしめてゆく様努めてゐる。故に大體小學校は幼稚園と同じ様に、環境の自由といふことを尊重してゐる。

## アプトン女史

幼児にとつて最も必要なものは友達であると考へる。しかるに子供を家庭に閉ぢ込めて置いて、これが子供の爲に最も良いのだと考へてゐる家庭が多い。但し子供が幼稚園へ行く様になるとこの問題は解決されると思ふ。私は地方に住んでゐるが、私の小學校には、三年生になつても、未だ母親に附添つてゐて貰はないと學校へ出て勉強の出来ない児童が一人居る。又或る児童は、他の児童と全然遊ばず毎日泣いてばかりゐた。少くとも二年間といふものは一日に一度は必ず泣いたのであつたが、その後泣くのも止まり無事卒業した。我々はこの児童には役に立つたと自負してゐる。小さな遊び友達を持つといふことは大切なことである。

(アプトン女史は、更にその要點を明かにする様求められて、愛情に飢えてゐた一児童の實例を擧げた。即ち、その子供の母親が非常に不幸な一生を送り、その爲子供に充分の愛情をかけてやることが出来なかつた。その子供は他の児童と愉快に遊び交はらなかつたとのことである。)

## 進 行 保

二歳より七歳迄の児童の生長及び發育に關し、もう少し正確な御報告を聞かせて戴き度いと思ふ。

我々は現在行はれてゐる研究調査の報告を利用することが出来れば、教員たるものにとつて如何程有益であるかを知つてゐる。現在アメリカでは驚くべき程多くの調査が行はれてゐる。しかし、教壇に立つ教員の立場から云へば、アメリカでの問題は、斯かる調査を一般の教員が如何にして利用し、實際に適用するかといふことである。これ等の報告の多くは餘りに専門的に書かれてゐる爲、小學校とは何等の關聯もなく、又小學校に運用することが出来ないことがあるのである。そこで、提出された質問の一つは、日本ではどの程度迄研究が進められてゐるか、又この研究を如何にして利用するかといふことであつた。目下各方面に多くの研究の進められてゐるアメリカに於ても同様の問題があるのである。

現在略々完成されてゐる研究の一つとして、十年餘の間ロックフェラー財團が經營してゐる一研究機關の一部たる保姆養成所についての研究がある。興味があると思ふから、その過程の一端を紹介してみよう。教員は自分が児童の缺陷を知つてゐるだらうかとか、その問題児について正確な報告が得られないだらうかと自問するものである。即ちこれは、その児童が研究所の職員會議に於て議題に上り得るだらうかといふことである。そこで、この研究所では毎週職員會議を開き、毎回二名の児童に就て報告がなされる。その児童に接觸する者から凡ゆる報告を集める。例へば榮養研究者はその児童の食事に關する様子を報告する。心理學者、保姆、校醫、両親等、この児童に接觸する者は總て各々の見た角度から種々の報告を寄與するのである。斯かる調査を利用し得る教員は如何に恵まれてゐることか。又結局その児童を最も本當に知つてゐる人は教師であるから、教師のその児童に對する態度を知ることの出来るこれ



等研究員も、如何に恵まれてゐることであらうか考へても餘りあるものがある。扱、本會を閉づるに先立ち、高良女史にお願ひして、如何なる種類の研究が日本に於て行はれてゐるか、又、それを利用する爲に如何なる手段が取られ、何の程度迄進捗してゐるか、といふことをお話しして貰ふこととする。

高良富子女史

日本に於ては、精神病學者、榮養研究家、教員、父兄、乳母、社會事業家等と協力して心理學者が參加すること、なつた。發育の標準を定めるといふことが、多年我々の研究課題であつた。最も信頼すべき學問的材料は各帝國大學醫學部及びその他大病院から供給される。心理學者が過去二十年努力してゐた最も困難な調査は兒童の精神發育であつた。勿論、東京、その他都市、町村の學校兒童の知力調査表は出來てゐる。しかしメンタルテストが幼稚園兒童即ち就學前兒童に適用される様になつたのは最近のことである。しかし茲十年來、生れたばかりの子供に迄心理學的調査が行はれる様になつた。そこで我々はテルマン及び我國独自の知性標準表を用ひて、我國の兒童がこれ等の表の目盛のどの程度に位置するかを調査しようと努めてゐる。十年許り前私が九州帝國大學で始めた調査の報告を申し上げると、私は毎年同大學の兒童發育健康審査會に參加する兒童約五千餘名の記録を採つてみた。私はこの記録を、知性、感情、社會性、運動神經、習慣形成等の方面によつて整理した。これ等の方面の發育程度の概要を示す事が出来る。これ等の材料は發育年齢に應じた段階に分類してあるが、兒童が斯かる年齢に於て如何なる發育を遂げるかを説明するには、これ等の間から理論を見出さねばならない。故に歐米の材料を參考として、我國の兒童が如何にすれば斯かる發育及び習慣形成の標準に達するかを研究してゐる。日本の兒童は習慣の形成に於ては、發育の程度に大きな差のあることを告白せねばならない。我國の家庭教育及び發育の方法は未だ定式化されてゐない。事實上、一般の家庭

は、兒童を養育して年齢に應じた標準に達せしめるだけの知識に缺けてゐる。そこで我々の仕事は幼稚園及び兒童の家庭の協力を得て、彼等の觀察及びその他の研究材料の提供を乞ひ、五千乃至八千の兒童に就ての我々の研究を確實にすることである。我々は家庭及び幼稚園教育を高揚せしめ、兒童の習慣形成と發育とを、少くとも平均標準に迄達する様益々努力せねばならないと思つてゐる。

幼稚園見學

八月五日(木曜日)、就學前及幼稚園部會出席代表者連は左記幼稚園の見學を行ひ、後東京女子高等師範學校教授倉橋惣三氏招待の同校に於ける午餐會に臨む。出席者約百名。

- 一、常盤尋常小學校附屬幼稚園
- 二、番町小學校附屬幼稚園
- 三、彰榮幼稚園
- 四、東京女子高等師範學校附屬幼稚園



## 寄稿

## ポーランドに於ける就學前教育

ポーランド組織委員會

ポーランド國家がその獨立を回復した最初の瞬間から、我が文部當局は次の事實を悟つたのである。即ち、學校の水準を高める爲には小學校以前に教育が始められねばならないが故に、「ポーランド教育を容易に吸収されるよう、魂の土が耕され豊沃化されるべき」シェシュコウスキー (Cieszkowski) の言「兒童の準備發展の基礎が無くてはならぬことを。

以前幼稚園と稱せられた就學前學校は、一八四〇年以來ポーランドに存してゐた。最初の幼兒學校 (Infant School) はワルソー慈善協會 (Warsaw Benevolent Society) に依て設立され、それ以來その數は不斷の増加を示した。首都ではこの増加が急速であり地方では稍緩やかであつた。ワルソー慈善協會の最初の幼稚園の組織者であり監督者たるノヲシールスキー (Nowosielski) は幼稚園の事業に關し一八四〇年次の如く書いてゐる。「幼稚園は學校に

非ずして教育家庭である。それは家庭の代理をするか或は基本の家庭教育を援助すべきである、又「自由無垢な華やかさに包まれた幼稚園にあつては、平穩の中に宗教的・道德的・感情的のみが兒童の心に植付けられ、楽しい娛樂の形式で教へることにより知的能力が醒され……色々の簡単な手藝の實習により兒童は働く様に導かれ、新鮮な空氣の中で庭園で種々の運動や動作をすることにより、兒童は健康體に保たれるのである」と。

幼稚園の目的に關する斯かる見解にも拘らず、これ等施設の活動は漸次その性質を變じた。分割者たる列國のポーランドの諸學校に對する無情な迫害によつて、幼兒學校の名に於てする教育への逃避が行はれ、自國の言語と歴史とに依て遙に年上の兒童の内々の教育場を利用されることになり出したのである。その物質的安泰のみを考慮するこれ等の施設に於ては、幼稚園年齢の兒童には餘り注意が拂はれず、或は教育が餘りに早く始められたのである。

しかし乍ら當時或はそれ以前に、ポーランドの兒童教育界及び醫學界の著名人士により書かれた多くの立派な出版物を見ることは出来る。これ等の人々は小學校の興隆に不可缺の條件として、又青年の正しい發展と教育の基礎として、就學前兒童の教育施設開設を要求した。十九世紀の前半に於て、ヂェ・スニアドキー (J. Sniadecki) の「兒童體育の考察」、エー・シェシュコウスキーの「地方幼稚園に就て」は、就學前兒童に就て書いた書として、兒童の天性と欲求について驚くべき深遠な洞察と知識とを示してゐるものである。「將來小學校に通ふべき兒童の豫備訓練を行はずして小學校を建設する事は馬車を牽く馬を馬車の後につけるの愚である。我々をして人間の一壽命期間だけ教育を下げしめよ、然らば我々は人間を一段の高きに登らせ得るであらう」。「兒童に讀むことを教へる前に生きることを教へやうではないか」とシェシュコウスキーは云ふ。又同じ著者は、幼稚園を支援保護し、その維持負擔を社會及び社會施設に課せと政府に求める。彼は又、幼稚園に於ける保健監督、補助給食を要求し、又當世的手段方法に完全に



適應し、道徳的、公民的、美的、肉體的教育を考慮せる適當なる課程計畫を立てよと要求してゐるのである。

以上の如く國家の政治的狀態はこれ等原理に適ふ就學前教育を樹立することを許さなかつた。僅か少數の就學前教育施設が幼兒學校の形を留めてゐた。大戦中には幼兒學校の數は増加した。社會團體のみならず地方官廳もこれに參加した。しかし國民の極度に逼迫した生活狀態は、再び幼兒學校の性質を改變した。兒童に榮養、衣服、暖を與へるのが第一の問題となつた。戦後ポーランドが獨立を回復した時、初めて兒童教育はその附隨的影響と任務とを振り拂つて新道に入ることが出来た。この時、幼稚園教育は如何なるものであるべきかに就ての妥當な意見の創造に對して偉大な貢獻を與へたのは、一九〇三年にその活動を開始して以來、以前のロシア領地方で活躍してゐた幼兒教育協會 (Society for Infant Education) であつた。ルゾフ (Lwow) に於ては初等教育協會 (Pedagogical Society) が幼稚園の重要性に就ての輿論の指導に大きな影響を與へた。幼稚園教育問題に關する組織の重要性とその影響とは一九一九年ワルソー開催の全ポーランド教員會議 (All-Polish Congress of Teachers) に於て、就學前問題に獻げられた一特別部門の創生を齎した。この部門の事業は同會議の全的賛成を得、國家の教育當局者の爲最初の就學前教育計畫の基礎となつたのである。

初等義務教育實現に非常な努力が必要であつた爲、當局は多數の幼稚園を設立する餘裕はなかつた。當局は地方の各教育部、社會的施設、私立施設の爲の模範となり得る少數の施設を組織するに止めた。當局大臣はこの點に關しては一般社會の着手を待ち、自らは視學 (小學校) を通じて最高の監督と指導とに當り、その一課に於て幼稚園教育の諸問題を處理し、これ等幼稚園の婦人總視學を任命し、幼稚園教師の爲、研究所を設立することにより幼稚園教員養成の問題を自らの負擔としたのであつた。一九三二年幼稚園法は永久的基礎を與へられた。幼稚園は一九三二年三月

十一日發令の學制法の中に含まれることとなり、教授と教育との全組織の中にその計畫と意義とを確立したのである。同じく一九三二年三月十一日制定の「私立學校及び教育訓練機關に關する規則」は、幼稚園を含むこれ等學校事業の諸項を統制する規則を含んでゐる。これには後援者、校長、教員の權利及び義務が規定されてゐる。初等教育當局者によつて實行される嚴格な統制が樹立された。この規則は幼兒學校 (Infant School) なる名稱の代りに、就學前學校の名稱を公に採用してゐる。就學前學校なる名稱はこれ等諸施設に對し、統一的に民主的職權と性質とを附與してゐる。

就學前學校規則は又國立幼稚園保姆の資格と組織との附與を處理し、小學校規定を根柢としてその給料及び勤務時間を規定してゐる。

これ迄領土の地方官廳の就學前教育活動は任意的であつた。シレジア (Silesia) 及び、都市ではワルソー、地方ではチェストショワ (Czestochowa) がその首位を占めてゐる。一九三四年に地方廳の就學前學校はポーランド就學前學校總數の三分の一を占めてゐる。

一九二六年以來次の如き婦人諸團體が就學前教育の發展に偉大な役割を演じてゐる。即ち陸軍々人家族、警官家庭文官婦人、鐵道關係婦人、通信關係婦人の諸團體、婦人社會事業聯合會、農村婦人會、その他。

婦人の宗教上の諸會が永い間就學前學校を經營してゐる。大戦前はこれ等諸會のこの方面の活動は南部ポーランドに特に普及してゐた。

最近は就學前學校の重要性に對し田舎地方に於て益々關心が起きて來た。大戦前は農村の就學前教育は地主によりその住宅の中で行はれてゐたのであるが、これ等は一部分農村社會に移つてゐる。婦人の社會團體が又この點に偉大



な役割を爲してゐる。一九二三年には就學前學校總數一、七五二校の中農村地方は六一四校を占めてゐる。又一九三四年には一、八五九校の中農村地方は六六八校を持してゐる。

ポーランドに於ける就學前學校の發展は數的に次の如く表はされる。即ち

(年 度)	(ワルソー)	(全ポーランド)	(兒 童 數)
一九一三	三〇	一〇〇	
一九二一	一〇〇	六三一	(概數を示す)
一九二七	七五	一、一八五	六六、六〇三
一九二八	九二	一、四四〇	八三、九一二
一九三三	一一一	一、七五二	九三、六六四
一九三四	一二九	一、八五九	九七、二〇四

就學前學校は主として二部から成り、その第一部は三歳及び四歳の兒童を收容し、第二部は五歳及び六歳の兒童を收容する。又兒童の當座の興味に依てグループを分ける型の就學前學校もある。この制度はジュネーブ (Geneva) の兒童の家 (Maison des Petits) 又はブラッセルのドクロー博士 (Dr. Decroly) の就學前學校に近いものである。一般にポーランド現在の就學前學校で用ひられてゐる方法は兒童知能の現代的狀態、その個性、本能、興味、及び體育を考慮に入れ、社會生活を建設する上に於てその構成に參與する活動的獨立的人間の養育に貢獻する諸條件を作ることを目的とし、又その個人的價値を附與することを主眼とする。

これ等の原則に則り就學前學校は感覺、言語、觀察指向、及びその他種々の運動を練る爲の澤山の科學的器具を用ひ、又體育、遊戲娛樂の諸要件を取扱ひ、又兒童の年齢體力に應じて適應される時は兒童の年齢相當な知的肉體的知識を得させうる設備を供給するのである。

個人による衛生を含む身體訓練、運動、營養食、新鮮な戸外の遊戲、兒童の發育上の醫學的統帥等に深い注意が拂はれてゐる。精神教育、宗教的道德的美的發育、唱歌、音楽、舞踊、詩、圖畫、手工にも注意を怠らない。これ等の最後の學課は兒童の内的經驗の表現手段となり非常な價値を有してゐる。

これ等總ての事は特別な知識特別な條件を必要要件とするもので、一日の大部分を子供から離れて外部で過さねばならぬ生活關係にある普通の母親の力と準備との及ぶことである。就學前學校は家族を助けて兒童を養育するのであるが兒童を家庭から引離すものでなく、反對に家族を強化し家族の人々の心の中に教育感を作るものである。この力は兒童の父母との個別的接觸により得られるのみでなく、就學前學校と協力して、貧困兒童を助け、補助食、集合居住、祝典、遠足等を催して、學校の爲に盡す父兄會の組織によつて得られる所も大きいのである。この協力は社會事業に於ける父兄の立派な訓練となり、個々の家族に善い感化を廣める上に非常に有效である。

特別の施設と課程とで女教員を養成することは戦前ポーランドに於て行はれてゐたが、その事業は政治的理由により幾分秘密のものであつた。現在では就學前學校教員の爲には八校の國立養成學校がある。これ等の中、就學前教育協會 (Society for Pre-school Education) により一九〇五年以來經營されてゐるワルソー養成學校は既に一九一九年國立施設の水準に昇格された。ポーランド全國には十二の私立教員養成學校がある。その一校では、ドイツ語で授業が行はれて居り、他校ではヘブライ語で行はれてゐる。



就學前學校教員の研究所に於ける教授方法と研究課程とは、一般的知識と特殊能力及び職務に對する愛とにより教育事業に従事し、絶えず知識と能力とを増加してゆくが如き活動力ある婦人を作ることとを目的としてゐる。養成學校の學生は彼等の獲得した知識を實演し、兒童教育の修練をする爲附屬の小學校で授業を行ひ、又校醫の指導の下に兒童病院に於て兒童の健康状態に注意しこれを統御するのである。現在迄は、養成學校は少くとも七學年制の小學校の推薦證明を持つた志願者を、健康及び一般並びに特殊技能兩方面に互る慎重な試験の結果收容してゐる。一九二九年以來養成學校の過程は三ヶ年である。一九三二年三月十一日の學制に關する法令は就學前教員養成施設の構成と課程とを改新し三年制より四年制に延長することを豫定してゐる。但しこの延長に伴ひその志願者を小學校六年履修のみでその第一學年に入學許可する可能性がある。加之この法令は就學前學校教員の爲に必修的でない特別な學院を採用してゐる。この學院は養成學校教育の延長を爲すもので、大學に於ける更に程度の高い兒童教育研究に導くものである。この制度は就學前學校教員の社會的地位を大いに高め就學前學校を相當高き水準に上すこととなるであらう。この法令は又既に奉職中の教師に、國家及び教員の兒童教育上社會上の團體に依て行はれる特別課程に於て補足訓練を與へることを豫定してゐる。この課程は數年間實施され好結果を收めてゐる。就學前學校事業の公開は女教員のみならず學外的一般多數の人々の爲に効果的な教育動力となつてゐる。この公開は特にワルソー、ロツツ(Lodz)、ルヅーフの主なる就學前學校協會により、又就學前學校教員養成所、特に國立のものにより、大小それ／＼の規模の下に行はれてゐる。

就學前學校の教育上の諸問題専門の定期刊行物が、二種ポーランドで發行されてゐる。「就學前教育(Pre-school Education)」は就學前教育協會の機關雜誌で一九二五年以來發行されて居り、「就學前學校(Pre-school)」はポーランド教員聯合會就學前部(Pre-school Section of the Union of Polish Teachers)の發行にかゝり一九三三年以來存在を保つてゐる。

就學前に關する文献としては兒童教育及び方法論に就ての著作がポーランドには澤山ある。一九三三年文部省は「就學前學校教員便覽」と題する小著を公にした。この著は就學前學校生活の全問題を包括して居り、文部省の定期刊行になる「教授と教育の諸問題に關する注意」(Advices on Problems of Teaching and Education)(一九三三年)の分冊第二卷になつてゐる。

就學前學校の特別の敷地校舎が目下全國的に建設されつゝある。この現状に鑑み文部省は「就學前學校・その土地と教室設備」(The Pre-school, its grounds & arrangement of rooms)と題する新分冊を出した。それには形狀設計の詳細な研究が載せられてゐる。



## 家庭及學校部

委員長

アメリカ父兄教員會々長

J・K・ペテンジル

書記

カナダ・トロント督學官

J・L・マツカロ

連絡委員

東京女子高等師範學校  
附屬幼稚園主事

倉橋惣三



部 校 學 及 庭 家



員委絡連  
三惣橋倉



長員委  
ルジンテベ・K・J



樹能崎高



寛田月



ンソクツリエ・K・E



リヨジミラトス・G

第一會議

會場

八月四日(水曜日)午前九時—正午

帝大十八番教室

第二會議

會場

八月五日(木曜日)午前九時—正午

同 前

家訓及學友誌





會 部 校 學 及 庭 家

## 第一會議

### 委員 長 開 會 の 辭

家庭及學校部の書記であり又私の書記であるマッカロー氏(Mr. McCullough)に對し紹介の詞を感謝する。この家庭及學校部に出席し得ることは、我々にとつて大きい特權であり喜びである。マッカロー氏にとつても自分にとつても、この様な會に出ることは初めてである。皆さんの大部分もこの様な會は初めてのことかと思ふ。従つてこの會場に於ては、幾らかの知識を得るといふよりは、寧ろ我々が共に學び共に育てられるといふことになるであらう。しかも我々の間に多くの知識が披瀝されるべきであり、この部會の終る迄には、我々全體にとつて貴重なる多くのものを皆さんがこの部のために齎らされんことを切望する。

まづ私は家庭及學校國際聯合會についてお話ししようと思ふ。それは全世界に互つてゐる施設であり、普通その會は世界聯合教育會の諸會と共に開かれることになつてゐる。今年には已むを得ない事情と、會員間の聯絡の不充分の爲に家庭及學校國際聯合會の打合せ會は、いつものやうに世界聯合教育會諸會と共に開催されないが、既に七月二十四日パリに於て開かれたのである。その時役員等も選舉されたのであつた。普通の場合だつたらこゝでマッカロー氏と私が勤めてゐる様なことを、それ等の役員が勤める筈である。従つて我々は間違ひか、少くとも默許によつて、こ



の位置にゐるのだと思はざるを得ない。そのみならず、彼等は我々に何も通告してゐて呉れないので、我々はこの組織の役員が誰であるかも知らない次第である。しかし、我々は家庭及學校國際聯合會會長であるイシュベル・マクドナルド女史 (Isobel MacDonald) から本會對する敬意の傳言をあつかつてゐる。女史は現在我々が會議を進行せしめつゝあるところの、この全世界よりの會衆諸氏に對して挨拶を述べ、その健康を祝し、そしてこゝで決議したことはどんなことでも、自分達全體の決議として受け容れるであらうと述べてゐる。して見ると我々には非常に自由な権利があり、何か大變興味あることが出來さうな氣がするのでもある。彼等役員は我々がなすこと總てに同意すべく一切を委ねて居り、我々は全く自由にプログラムを進行させて行けるのである。今朝は準備されたプログラムを郵便で皆さんに贈る筈であつたが、残念乍らその連絡がよくついてゐなかつたことが今分つたのである。それで主催國側の非常に立派な期待さるべき論説を除いては、今朝のプログラム記載のものはその通りには實行されないのである。ペイン女史が何か發表されると思ふが、これは別として我々は特に記録されたいことを行ふ積りである。

本日よりの考察研究の前置きの日とも云ふべき今朝、私は家庭學校運動に結びつけられてゐると信ずる、幾つかの諸原則を申述べて置きたいと思ふ。暫く御靜聽を乞ふ次第である。

諸國に於けるこの事業の經驗には、その協同活動に様々の型式があり、教育法の多くの實驗がある。しかも諸氏が各々の經驗をこの部會員各位に發表されるに従ひ、必ず家庭と學校間の協力に於ては非常に共通な、根本的な且、普遍的な根據を我々が有してゐることを發見されると信するのである、そしてそれ等は幾分なりとも記録されてゐるのであるから、今朝はこの重要な教育上の言葉に結びつけられてゐると私が信ずる、否皆さん方も信ずることを疑はないところの(何故なら我々が共に發見したのであるから)幾つかの原則を讀んでお聞かせしようと思ふのである。

家庭學校運動は今日次に示す三重の、そして非常に古くから存在せる問題の解答となつたのである。即ち第一に、兒童の研究と兩親教育によつて兒童を知ること。第二に、家庭が教師と各々その分擔を擔當することによつて兒童の訓練に於て學校當局と協同すること。第三に、輿論と公民的活躍とを通して兒童の環境を統制し建設すること。この三重の鍵となつたのである。

ずつと以前に、この運動が未だ一般に認識されてゐなかつた以前から、これ等前述の諸點は多くの兩親及び教師によつて痛感せられ、又要求されてゐたものであつた。つまり現在存在するこの運動の聯合なり組織なりに關する一切の努力は、その發端及びその原型を、從來の人々が、これ等の問題に直面した時の無組織ながら切實なる關心に置いてゐるのである。而してこの蓄積された關心が、長年月を経た今日、この偉大な強制的な運動として現はれて來たのである。

家庭、學校及び社會間の協力の進展に於て、發展的なる諸傾向、企圖的なる諸活動、而してその記録された一切の成就是、その運動それ自身に異つてゐる固有の價値から引出されてゐるのである。

一般的の意味に於て、一つの運動といふものはこれを定義すれば、相當多數の人々の行爲、事件、努力が長い一連の連鎖となつて、多かれ少かれ限定された目標に向つて、長かれ短かれ繼續して進むことである。特に民衆運動はその定義に於て或程度迄餘分の制限を受けてゐる、即ちその行動の大部分は無意識的であり、自然的であり、非組織的である。それは直面せる問題の直接の必要に對して、すぐ間に合ふやうな満足を期待するものである。

民衆運動とは指定されてゐる方向に對しての巧緻又は計畫をゆるくと創造することではない。それは新たに痛感される直接の必要を迎へて、新しい分野又新しい状態の下に、絶えずその活動を續けてゆくものである。それは自發



的衝動に驅られて内燃的に動かされてゐるものである。民衆運動の強みはその安定性に存するのではなくて、新しい様々の状態に應じて絶えず容易に變化するところの、その柔軟性に存するのである。従つてそれが決定的効果は、その階級中に勃發する衝動に對する迅速且聰明なる反應如何であり、又斯くの如くして動かされ來つた力の利用如何によるのである。

指導者の質、貢獻、訓練、又その働き振りは、その運動の根本的精神によつて決定されてゐるものである故に、如何なる運動に於ても、指導者の問題こそ非常に重要性を有してゐる。わけても民衆運動に於ける指導は特に著しい独自の風貌を示すものである。寧ろ指導者たる者の行動、思想がその運動の現下の必要又は趨勢を表出してゐるが故に、彼は指導者となつてゐるのである。運動はその階級中から、その目的及び活動が階級全體の行動と一致する人々を無意識的に引出すのである。その團體中に基礎をもつ主要な衝動や傾向は、時に當つて指導者の内部に集中結合されるのであつて、民衆運動に於ける指導者は決して創設者でもなければ管理者でもない。彼は寧ろ活動中の勢力を表するものである。彼の價値は團體全體の衝動、行動、理想の多様性を表現し、結合し、集中し、解釋する能力に存するのである。

民衆運動は時の經つにつれてその純粹なる民衆精神を不可避的に幾分修正するようになる。特に外面的形式はいつても獨斷的、絶對的、命令的にならうとしがちなものであつて、その外面形式をもつ組織といふものを通して、かうしたことは一層起り來るのである。しかも斯くの如き組織の社會教育的世界に對する偉大なる貢獻は、その運動の始めにあつた民族精神を、終始一貫強調することによつてこそ大なるものとなり得るのである。

しかし乍ら民族運動の要素との間に最も大きい一致が明示されるのは、活動と興味の分野に於てである。各々の團體は、その機能に對する非常に大きい分野から、それ自身の興味、必要、衝動に従つて各の團體は各自の活動や表現を選択するのである。その過程は要求の理解と興味の適應性に従つて發展するのである。而してその結果は、努力の分野の精確なる一定性を全く不可能ならしめる所の、あの活動の不斷の變化、多様、自由の選擇となつて了ふのである。

家庭及學校運動は、創始以來長年月が經過してゐるに拘らず、今だに、その民族的起源といふ特殊の價値を保存し體現してゐる。而して、斯うした信じ難い程の立派なことは、常に緊急に促され、絶えず變化をそなへ、一定の組織下に固定されぬ指導の下にあつたが爲にこそ齎らされた結果である。そのために、人々の自由選擇に任せて、大集團の人々、即ち共通の興味を幼年、青年、家庭、學校及び社會にもつ人々、又ひたすら共通の目的に従つて、共に思考し共に行動する人々に活潑なる前進を可能ならしめたのである。

地球全表面に互る數多い國々の家庭學校運動の各趨勢を代表されてゐる滿堂の諸氏は、お互に過去の經驗を分け合ひ、現在の問題に直面し、そして希望を持つて團結し、喜びに満ちて楽しく將來に立ち向ふべく、今日此處に集つたのである。我々は學校教育の分野に直接の關聯を有する各種の仕事に特に興味を抱いてゐる。長い年月の間我が家庭學校運動は、忠實にも教育に對し永續的忠節を保ち續けて來たのである。學校の課程を理解し、又聰明適切なる行動を爲し得る知識を、兩親の教育を通して供給すべく、家庭と社會とをより密接に結びつける爲の絶えざる努力を拂つて來たのであつた。そしてこれ等すべては全體的環境に生活する兒童達に従つてなされたのであつた。

問題といふものは往々賢明なる答を豫期して起るものである。社會變化及び社會運動の新理解が如何にしてなされるか。又それが正しく解された時は、それ等知識が如何にして實行されて、我が兒童、青年の爲によりよき社會を建



設する手段とされるであらうか。第一の答は兩親及び教師の新知識に待つ外はない。我々は我々の眼前に見る児童、日毎に見る児童の教室、幼年青年に對する直接必要なる社會問題及び社會的施設によつてのみ考へるべきではないといふことを學ばねばならない。將來の幸福の大部分を我々の處置如何に頼つてゐる児童の全世界について、我々は廣い目で考へねばならない。我々は地理的に制限された地域に於ける特種の教育的利益についてはさう考慮を廻らす必要はない。寧ろ凡ゆる場所に存在する児童の爲に、これ迄より積極的に適當なる教育的機會を供給することに着手すべきである。

我々はこの問題に直面しそれを解決すべき大切な責任を負はねばならない。従つてその責任から児童に對する誠實な、獻身的熱望に従ひ最善を盡すことは當然である。而して、その結果あらはれるものは彼等が充分に楽しく人生の任務に對し得る様な、寛大な理解ある設備でなければならぬ。社會状態を理解することは、民主主義を日常生活の形と理解することが必要であると同様に必要である。又同じくこの知識を實行に結びつける才能も大切である。我々の研究の分野は社會及び家庭生活、團體關係、過失及び犯罪の防止、日常生活の經濟的狀態、勤勉と人間性との關係、市民としての責任、文化的傾向及び精神的遺傳等多くの重要な創造的活動の領域を含んでゐる。而して兩親の教育、家庭學校間の協力、社會の發展といふ我が三重の課程こそは、社會の教育的變革を望むものにとつて古も今も同じく重要これに過ぐるものはないのである。

## 日本の家庭教育（要旨）

日本女子大學校教授 月 田 寛

「日本の家庭教育」と題して我國の家庭教育に就て、歴史的にその發達を研究せる要旨を敘述したのであるが要約して見れば次の通りである。

我國の神話時代にあつては、民俗的の習俗として神祇を敬ひ、禮を重んじ、武を尙ぶの風が盛で、これは親より子に、子より孫に傳へられて自ら家庭教育の根本を成したのであつた。族制時代に至つてこれ等の思想は更に盛となり、祖先を崇拜することが著しくなり、しかもそれは自然宗教に於けるが如き單純のものでなくして、祖先の功績を欽仰し、自身がその遺業を繼承する者であることを自覺し、又子孫をして先祖の功業を失墜せしめぬようにつとめたのである。斯くの如き敬神崇祖の思想は神を祀り、墓を重んじ、又その親に對する孝行の精神を重んずるようになったのであるが、更に國民全體が一の大家庭であるとして、天皇を以てその族長と仰ぎ、これに敬事したのであるから、忠君と孝行とは同一のものとなつて、尊皇と敬親の精神は家庭教育の根本として言はず語らずの間に涵養せられた。それに儒教の思想が入つて益々この思想を明確ならしめ、佛教が渡來するに及んで、更に平和と慈悲の觀念が貴ばれ、死後のことを考へるに及んで、古來行はれた特殊の思想は愈々著明にあらはれるに至つた。支那の法典に依て



教育の制度が立てられて後も我國固有の思想は外來思想のために些かも損せられず、却て外來思想をよく消化して以て我國固有の思想を發展せしめた。爾後各時代に於て社會狀勢の變化に應じて、國民に對する要求が種々にあらはれたのに相應して、家庭教育の方針も種々に變遷したのであるが、究竟するところ我國固有の思想の根柢に他の外來思想を加へてこれを修正大成したものであり、その功績は實に燦爛たるものであるとせねばならぬ。その結果として忠君愛國の精神が強く養はれ、神佛を敬ひ、祖先を崇むるの觀念が著しく、禮儀を重んじ、家名を尊び、犠牲獻身の心が勇猛で、清廉潔白を尙び、質素儉約を旨とし、大義親を滅するの思想が著しくあらはれたのである。それに古くから感情の涵養に資すべき諸般の遊戯や、主として兒童のための年中行事、たとへば端午、雛祭を始めとして月見、針供養などの類が家庭に行はれ、又精神の修養を根柢とした體育が古くから家庭に行はれたのであるが、近代明治維新以來、教育の制度が革まり、家庭の主たる女子の教育も盛になつて、家庭教育が益々我國固有の色彩を帶び大いに發展して來た。

## カナダに於ける家庭及學校の組織

カナダ家庭學校聯盟

リリアン・J・ペイン

私は別に論文を提出する積りではなかつたのであるが、私の名が三行程行をとつてプログラムの中に出てゐるのを見、非常に驚き且當惑してゐる次第である。委員長は出来るだけ實際方面を諸氏に示す様にと私に言はれたのである。この席にある諸氏の大部分は各々の地方に於て、「家庭及學校」の組織、兩親と教師の聯絡、その他何等かの形に於て存在する母親の爲の組織等を持つてゐる方々と思ふが、委員長は、「家庭及學校」組織を有する人と有しない人とに拘らず、皆さんに我々の主義と宣傳（もしこの言葉を用ひて差支へなければ）を傳へる爲にカナダに於ては如何にして我々がこの仕事に手を差しのべてゐるかをお話しせよと云はれたのである。

まづ第一に「家庭及學校」組織のない地方に於て困難を感じることは、「家庭及學校」組織、兩親と教師の會、母の會等の本質に就て時折人々が全然知らないことである。その點から我々は屢々父親に來てもらひ度いと思ひ、實際その爲に特別の努力を拂つてゐるのである。困つたことには彼等の中には我々の仕事、殊にその目的が何たるかを解さない者があるのである。新聞を通して我々の意見等を公開する機會はあつても、それが何時でも讀まれるとは限らず、それどころか誤解されることもある。私の出身地であるカナダ、オンタリオに於て、我々は特殊の試みの一つ



として學校の督學官に觸手を伸してゐる。即ち彼等によつて教師に實例を示され、教師は彼等に習つて學ぶべきであるといふ風に導き得るからである。そこで我々はオンタリオに於ける實行委員の手を煩はし、書簡と個人的談話兩様の方法により督學官に近づくことをつとめ、又團體として彼等に面談したり、政府の教育行政上の主體である文部省を通して彼等に近づくべく我々は努力を惜しまなかつたのである。又我々は毎年行はれる教師の會にも出席して、教師自身にも近づかうとしてゐるのである。彼等は教員研究所なるものを諸所に設立してゐるが、我々はその出来るだけ立派な講演者を送つて、彼等に考慮してもらふよう、我々の理想發表の機會を成るべく多く持ち得る様にと非常な努力をしたのである。又我が教員は各州各地に於ける夏季學校に會合することになつて居るので、屢々進んで講演者を送る様努めて見るが、どうも成功しないことが多い。といふのは皆さんと同様我々も夏には他の土地に出かけ、従つて講演者の大部分も會議中は何處か他の場所にある様なことになつて了ふからである。しかし我々は多くの夏季學校團體に講演者を送る様出来るだけのことをしたのである。さうすることは一時に多くの教員を導く極めて便宜の多い方法であると信ずるのである。過去四、五年の間我々はオンタリオに於ては特に師範大學の訓練により教員を導く許可を得てゐる。最近數年間オンタリオの五つの師範大學の何れにも我々は講演者を求めることが出来たのである。さうすることは非常に有益なことであつて、教員が他の土地に於て（多分さういふこともあると思ふが）「家庭及學校」の仕事について何等かの批評を耳にする前に豫め正しい考へを與へられ、それによつて價值ある考へを抱いて新しい學校へ送られることになるからである。我々は我々の目的、理想を記した書簡を學校長に送ることもある。そして時々地方組織委員が直接に訪問し、その事柄に就て話し合ひ、實行の手段を提議するのである。我々は又豫備の仕事についての様々な情報や、家庭學校協會の組織について話し合ふ爲の會を如何に導くべきか、如何に人々を

その會に集合させるかといふことに關する明確なる暗示をパンフレットにして送ることもある。私は「家庭と學校」といふ言葉を用ひてゐる。アメリカ人は私が間違つた言葉を用ひてゐると考へるであらう。何故なら彼等はそれを「兩親と教師」と呼んでゐる。國際的用語としては「家庭と學校」が用ひられて居るが、これはその二つの言葉の方が「兩親と教師」といふ言葉よりも、語意に於てより廣く、その適應性に於て制限されてゐないためによるものと思ふ。實際我々全部が兩親ではないが全部が教師であるべき筈なのであるから「兩親と教師」では制限されてゐる譯である。

扱、我々が一定の組織を形造つた時、我々はその組織の理想を絶えず人々の眼前に掲げ、その組織中の人々がなしてゐる仕事と研究を導く様に心掛けねばならない。さもないと彼等は時々金儲けや社交上の會合や、はげしいのになるとカード遊びの如き種類の方向に迷ひ込ませて了ふのである。

我々は適當なる講演者の名簿を用意して置く。これは我々のなしてゐる小さいことの一つに過ぎないが、彼等に他へ行つて話して貰ふために便利である。講演者のみでなく小さい會合で話す様に（演説すると云ひたい所であるが非公式の話とした方がよささうに思はれる）も依頼する。又地方の醫師、醫師でなくとも病院に勤めてゐる人々、それから學校組織、學校それ自身の目的等について話す學校長、これ等を以て所謂豫備講演者の表ともいふべきものをつくる。時には又一つの會に含まれてゐる幾つかのクラブの如き組織に於ては、幾つかの講演を含む講習會を行ふこともある。これに就て思ひ出すのは昨年と一昨年オンタリオ州のハミルトン市(Hamilton)に於て開催された講習會である。それは精神病院を管理する醫師による十回の講演であり、二冬とも凡そ五百人にも上る「家庭及學校」運動の會員により熱心に聴講されたのであつた。その講師は精神的健康、兒童の心理について話し、多くの個人的質問に對



しても答へたが、出席中の兩親の質問が非常に多かつた。兎に角その講習は非常に啓發的なものであつたと云へる。田舎の學校等に於ては講演者を見付けることは時には非常に難しいものである。一つの場所から何哩も離れた學校等に於ては、一人の町の醫師—この醫師は非常に多忙で、兩親の集りで講習などをする暇はないと自ら考へてゐるから—を呼ぶことでさへ大變なことである。

我々は他の場所でなされた講演の印刷物を集め又自分達でも印刷する。又雜誌、新聞等から蒐集したり、時には講演者自身から、タイプした紙片を買つて來たりする。それ等の特種の折本に装釘し希望者に貸本として送るのである。地方の人々にして貰ふこと、云へば、それを送り返す手數と僅かの郵税を拂つて貰ふことだけである。それだけで講演者の實際發した言葉を読む機会を得られるのである。私はこの會でもこの部又他の部で發せられたパンフレットや演説原稿を蒐集してゐるが、これ等が我々の教育貸本の大切な一部となることはいふまでもないことである。

我々は研究團體の成立には非常な支援を與へてゐる。それが我々協會の一つの主なる目的なのである。多くの場所に於て我々は人々を小さい研究團體に入れ、假令書物にせよ雜誌にせよ、一つの記事を議論しそれを彼等自身の特殊の問題に適應させる様に試みる。この仕事に於ては屢々指導といふことが困難になつてゐる。即ち一つのグループの中に座して誰々は問題を出さない、誰々はそれに答へない、問題の答を求めて次の會迄に用意なさい等々指導することが容易でないのである。この様なことをするには一寸したこつと、獨特の社交禮儀が必要であり、又相當の工夫が必要である。幸にもオンタリオ州に於てはトロント市に兒童研究の學校があり、その學校が機縁となつて多くの兩親は學校へ來て、月曜から金曜迄（一週間以内と我々は云つてゐるが）約一週間の短コースをとり、兒童心理の概要、精神健康法などについて研究する。これは研究團體等に持ち出される諸問題を取扱ふに際し、彼等にとつて可成

りの準備となつてゐる。眞面目にかういふ小團體の必要を説いたのは過去三ヶ年位のものであるが、現在カナダ、オンタリオ州に於てはこの様な研究團體が可成り多くある。それ以前にも相當存在してゐたが、我々が明白に指示した通りの組織として存在する様になつたのは過去三年間のことである。私の持つ極く最近の數字について云ふとオンタリオ州は三七〇の地方協會から成立つてゐるがその會員中一萬六千人以上は百餘の研究團體に屬してゐる。我々はそれをもつと増加したいと希望してゐる。太平洋岸のブリティッシュ・コロンビヤには約四千人の會員を有する百の協會があつた。しかし残念乍らその大部分はヴァンクーバーを中心に屯してゐる。私は四〇の團體を作りつゝある。偶然にもヴァンクーバーにあるブリティッシュ・コロンビヤ大學 (University of British Columbia) は毎春講演者と講習とをその團體に供給して呉れ、殊に來年はより大きい會を開く様非常な關心と期待を持つてゐて呉れる。カナダ大西洋岸のノバ・スコチア (Nova Scotia) には大きな都市は數へる程しかなく、小さい一室きりの田舎學校の澤山ある小さい州であるが、その組織に於ては異常に進歩的である。現在彼等は約二千五百人の會員を有する一四〇の會を持つて居り、最近の報告によると、彼等は約二〇の研究團體を所有してゐるさうである。彼等は偶然にも英語の書物を研究し、兒童を理解せんとしてゐたがデル・ホーサー大學 (Dalhousie University) のフレッチャ教授 (Professor Fletcher) はその書物の各章に非常に入念な問題を附記したが、それは各研究者にとつて是非とも必要なものとなつたのであつた。彼等は地方に於ける指導者といふものを殆ど持つてゐない。さて以上の如き方法と問題が、カナダの他の場所に於ても利用される様に、ノバ・スコチアが來年中にはそれをパンフレットに印刷することを我々は希望してゐる。

次に我々は書物の貸出しを行つてゐる。オンタリオには特に五三〇位の書物を貸出しする圖書館がある。それはオ



ンタリオに於ける「家庭及學校」運動の創立者たる A・C・クロフォード夫人 (Mrs. A. C. Crawford) の記念として組織されたもので、我々はそれをクロフォード記念圖書館と呼んでゐる。毎年我々は少額の金子をそれに加へては新たに書物を購入し、古い書物を取り除いてゐる。といふのはそれ等の書物は絶えず要求されて居り、甚だしい時は餘り要求が多すぎて希望者の手に直ぐは入らないことさへある。この場合に於ても只書物を返送する郵税の他には何も必要としない。一冊の書物が團體研究の爲には一月以上利用されることも屢々あるから、書物の貸出し期間の長短によりその利用價值を云々することは出来ない。

次に我々は大きい會を開催する。オンタリオに於ては年々大會を開いてゐるが、それには凡そ九百人にも餘る両親、教員その他家庭及び學校の仕事に興味を持つ人々が出席して居る。それは我々のオンタリオ教育協會 (Ontario Educational Association) と同時に開かれ、丁度國際家庭學校聯盟 (International Home and School Federation) が世界聯合教育會との間に一つの關係を有してゐるのと同じ様な關係が、家庭及び學校部とオンタリオ教育協會との間にあるのである。我々は數年前にその大きい團體に引きとられたことを誇りとしてゐるのである。

私が最も興味を感じてゐる仕事の一つは出版である。凡そ十年間私はオンタリオ協會から發行されてゐる雑誌を編輯してゐる。思ふに私はアメリカに於ける「家庭及學校」運動の組織體、即ち州の各組織は各々何等かの形に於てその雑誌を發行すべきであると信じてゐる。こゝにお目に懸けるのはブリタイシユ・コロンビヤのものではなく、最後の國際會議の報告であるが、大体この様な形式で發行されてゐる。「ノバ・スコチアに於ける両親と教員」(The Nova Scotia Parent Teachers Quarterly) (年四回出版) は「家庭と學校」(Home and School Quarterly) と改稱される様になつた。彼等がカナダの名前に一致させる爲に改名したことを私は忘れてゐるが、イギリスの「両親の

評論」(Parents' Review) といふ書物となつて出版されてゐる。アメリカの両親教員評議會からは「両親と教員の雑誌」(National Parent Teachers magazine) が發行されて居り、我々大部分はこれ等の書物を再版した小パンフレットを持つてゐる。數年前その評議會は情報案内を作り、それはカナダに於て家庭と學校又両親と教員の仕事について人々に完全な概要を與へたいと思ふ時、我々にとつて無くてならぬものとされてゐるが、二年前我々は我々自身の小冊子を作り出すことが絶對的に必要である事を認め、遂にこの様な書物となつて實現されたのである。残念乍ら私はたつた一冊しか持合せがない。もしこれに深く興味を持つ人がゐるならば私はそれを譲つて上げてよい。我々の雑誌「家庭學校評論」(The Home and School Review) 中に我々は幾つかの事柄を述べんとしてゐる。まづ第一に詳細ではないが、我が地方組織により爲されてゐる仕事に就ての報告、提議者の名前、謝恩についての賛否を述べてゐる。時には演説の摘要、又爲された仕事の一部等についても述べることもあるが、我々は他の人々に對する暗示として大いに役に立つもので、それ等を詳細に述べたいと思つてゐるのである。我々は各州の組織に於ける諸部を糾合することから、地方組織の暗示へと進まんとしてゐる、我々は宗教教育、倫理、家庭經濟といふ様な方面、又學校組織に關する研究、議會に關する手續、會合の處理等に特に興味を持つてゐる。普通彼等は短い論文を紙面に許す限り、それ等は他の人の便を思つて刷られ送られてゐる。我々は種々のクラブに於て發表された論文を紙面の許す限り多く印刷してゐるがそれは多くの讀者に役立つてゐる様である。カナダに於けるこの運動の組織及びその他に就て質問があれば喜んでお答へしたいと思ふのである。



第二會議

ファシスト・イタリアに於ける婦人と児童教育

ローマ大學教授 ジュリアナ・ストラミジョリ

ファシスト支配下の十五年間にイタリアに發生せる新雰圍氣に於ける児童教育に對する婦人の貢獻に就て、ほんの數言を述べたい。

一國民の特徴としての児童精神の形成に母性が及ぼす影響の詳論に就ては、勿論我々は語ることは出来ない。自分の茲に言及せんとする所は、一般普通の方法に於ける母性の影響のみならず、児童性格の形成に就ての、又、明日のイタリア國民として、新ファシスト、イタリアの價値ある市民としての男女児童の教育を目指すところの教育、児童をして成人後國家に對する己が義務を遂行せしめ得ることを目指すところの教育、これ等のことに就ての婦人の貢獻を取扱つてみたいと思ふ。

まづ明かにして置きたいのであるが、自分はイタリアに於ける婦人の状態に關し甚だ誤つた意見を屢々耳にした。成る程イタリアに於ては、婦人の活動は男子のそれに比して比較的制限されてはゐるが、しかし乍らイタリア婦人が、

自ら參與する現在イタリアの國民生活に對して、偉大な重要性を有してゐることも亦事實である。

ファシストの人生觀に従へば、總ての男女市民は國民生活に自己の持場を有し、それが含む義務を果さなければならぬのである。故に婦人は主として女性に適した活動に従事しなければならない。即ち、家事、児童教育、社會への援助的活動等がこれである。

デル・レー教授(Prof. Del Re)が既に學校衛生部に於てこれに就て述べて居られるから、(1) オペラ・バリラ(Opera Ballia)に依る青年團體組織には觸れない事にした。そして婦人團體組織に於ては、女子の心身の訓練のみならず理論と實際よりなる他の訓練が行はれて居り、これは學校及びオペラ・バリラに於ける児童教育の任務並びにこれ等の施設に於て児童が受ける教育に對し、母として協力する任務に向つて、未來の婦人を準備訓練することを目的としてゐるといふ事實を、自分は強調するだけにとゞめたいと思ふ。

この準備訓練は、母として教育者として、彼等の任務が重要であるといふ強い自覺を女子に與へ、且又國家の如何なる要求にも應じ得る用意をなさしめるものである。婦人は児童教育に重要な役割を有して居り、小學校教員には婦人が多く、又中等學校に於ても多くの女教員が居て、その數は増加を示してゐるのであるから、この自覺の力は極めて偉大なものである。

即ち児童の精神生活の初年期、即ち彼等の精神が開放されてゐて、彼等の生活に關係を有する思想と印象とを容易に受け容れる時期に於ては、児童の精神世界は母と教師との二人の母性により限定されてゐるのである。

イタリア婦人は國民生活上に有するこの貴い任務に對し、強き自覺を持つ様になつた。併しファシスト治下の十五年はイタリア婦人の傳統的美徳を完璧の域に迄高めたのである。彼等は過去數年の間に、昔のローマ女性の力と獻



身との最も多くの有名な實例を現在に再び實現したのである。

・児童教育に於ける婦人の活動は、母としての教育と學校及びオペラ・バリラの教育との二部に分つことが出来る。これ等は互に別々のものではなく、二者相寄り始めて完全なものである。

この教育は児童生活の精神と肉體との兩様の總てを取扱ふものである。何となればファシストの主義は個人を肉體的統一體とのみも看做さず、又他方、精神的要素の重要性のみを偏重するものでもない。個人は精神と肉體との調和的合成であり、この兩者がいつも離れずに培養され顧慮されねばならないとするのである。

それ故児童の心が精神生活に向つて開けて來る時は、母は直に國家と社會に對する児童の義務原則を、彼等に教へ始め、一方に於ては母子福祉協會 (Mother & Child Welfare Society) から凡ゆる種類の援助を受ける。この援助は、児童の適當な養育に關する忠告及び醫藥と、勞働階級の食事等に關する物質的援助からなる。斯くの如くして児童身體の健康と精神の成長とに對しては非常な注意が拂はれる。而して、児童がやがてフィグリオ・デラ・ルバ (Enrico della Luipa) の如くオペラ・バリラに入る様になると、母は新しい協力者を得ることとなる。児童は理論上からは六歳にしてフィグリオ・デラ・ルバの一員となるのであるが、實際上からは五歳にしてこの團體に加入することとなる。

オペラ・バリラの新入生の部は、オルヴェイェト體育專門學校 (Orvieto Academy of Physical Education) 出身の婦人の擔當となつてゐる。児童はこの時期に於て彼等の教育に新しい寄與を受ける。即ち彼等は屢々會合に参加して、彼等の體質の向上を計る様工夫された肉體訓練及び遊戯を與へられるのである。

彼等は亦この時期にファシスト國家の社會組織の一部となり、従つて國家意識を獲得するのである。彼等は軍隊式

の制服を着け、彼等個々の態度及び個人的特性が國家に與へつゝある種々の貢獻の外、彼等は國家に對する義務に於て總て平等であることを感じさせられ始める。

ファシスト教育制度は、成人に對すると同様児童に對してもその個性を均等化せんと目指すものでないことを、自分分は特に明言したのである。イタリーに於て、児童の個性は均等化とは反對に、自由な發展を許されてゐる。しかし同時に、同一國民の一員として生活する者總てに、共同責任感を啓發する様求められる。人間はそれ自身獨り存在する完成體ではなく、一大有機體の一細胞であり、國家を構成する多くの部分の一部であること、従つて萬人は總て共通利益の犠牲とならねばならぬことを、児童に自覺せしむる様努められてゐる。

児童が八歳になると、オペラ・バリラに於ける彼等の組織は男子教員の擔任となるのであるが、屢々婦人が引續き小學校教員として世話をすることがある。この際隣人の活動は主として、オペラ・バリラに於ける女兒組織即ちイタリー少年團 (Piccole Italiane) (八歳—十四歳) 及びイタリー青年團 (Giovani Italiane) (十四歳—十八歳) に關係してゐる。

スポーツ、音樂體操、舞踊等に依る體育發達を目指す訓練と共に、この期に於ては純粹な女性的活動、即ち家事經濟及び子女教育等の教養に深い注意が拂はれる。児童養育の方法に就ての理論及び實際上の教課が與へられ、教師指導の下に養育院児童の實際の世話をする。この指導は、社會的地位を問はず全イタリーの若い女性から熱心な支持を受けてゐることに特に諸氏の注意を促し度い。即ち一つの特種の學校があつて、これには幼稚園保母になり度いと思ふ女性のみならず、母としての將來の任務に備へたいと望む良家の女性も通學してゐる。

この種の活動の中、大規模のものは、大學女子學生ファシスト協會 (Fascist Association) 及び青年ファシスト協



會 (Young Fascist Association) により經營されてゐるが、これ等は寧ろ社會事業により深く關係せるものである。これに反し、オルヴィエト體育専門學校は専ら女子の方面に力を盡してゐる。中等學校出身の女學生はこれに入學することを許され、二年間在學して理論及び實地研究の訓練の課程を修める。二年の後、彼等はオペラ・バリラに教師として加入し、此處で女子青年の總ての組織及び中等諸學校の體操教育を擔當する。

以上甚だ簡單ではあるが、児童教育、延いてはファシスト運動の最も特色ある本質の一つたる青年運動への婦人の寄與の概観である。而して、遠く二千七百有餘年の昔ローマ文明を創造した我々の誇るべき祖先から、連綿として我々に傳へられたイタリア國民の徳性的精神的特徴を充分に伸張せしめることを目的とするファシスト新人生觀の、その最も活潑なる部分の一を形成する廣汎な運動の成功の爲には、この婦人の寄與が重要な役目をなすことは疑ひなき所である。

註 (1) オペラ・バリラ……イタリア國民の保健方面を取扱ふ國家的團體名

## 日本に於ける「家庭と學校との協力」

### に關する調査報告書 (要旨)

東京市阿佐ヶ谷幼稚園長

高 崎 能 樹

發表者 石 渡 篤 子

一、主として中等學校と小學校に就て調査したのであるが中等學校は「中學校」「女學校」「農工商の實業學校」と三種に分け、小學校は「都市の小學校」と「町村の小學校」の二種に分けて報告書を作製した。

二、中學校の採れる主なる方法

A、集會の形式を採るもの (保護者會、父兄會、母の會、上級學年父兄懇談會、生徒の通學區域別巡回懇談會、成績訓育その他の事項に關し隨時父兄を招集する會合などがそれである)

B、印刷物の配布

C、家庭訪問

D、生徒手帳 (勤怠狀況、家庭生活、その他環境の狀況を記載するもの)

家庭及學校部

二四三



E、校外訓育

三、女学校の採れる主なる方法

- A、集會の形式を採るもの（保護者會、母姉會、講演會、懇談會など）
  - B、印刷物の配布
  - C、家庭訪問
  - D、生徒日誌（手帳、カードなど種々あり）
  - E、教護員の設置（校内外の生活指導をなすと同時に家庭と協力し且連絡す）
- 四、實業学校の採れる主なる方法

- A、集會の形式を採るもの（父兄會、出張懇談會、實業指導の講演會）
  - B、校友團（通學區域別の校外指導並びに家庭との協力、連絡を計るもの）
  - C、家庭實習（實際指導及び援助のため）
  - D、家庭訪問
  - E、校外指導
- 五、都市の小學校の採れる主なる方法
- A、集會の形式を採るもの（父兄會、保護者會、全體及び地域別母の會、學級別母の會、母の講座、協議會、座談會、學校給食委員會、父兄母姉の學校參觀會など……）
  - B、團體を結成して學校を後援せるもの（後援會、保護者會、母の會名稱にて積極的に學校を後援してゐる實例が

小學校には多い）

- C、家庭訪問
  - D、印刷物の配布
  - E、職業指導及び進學指導
  - F、校外指導（校外教護團、少年團などを設置し、家庭と協力して校外生活の善導に努む）
  - G、教育及び健康相談並びに養護施設（林間及び臨海學校の開設）
- 六、町村の小學校の採れる主なる方法
- A、集會の形式を採るもの（保護者會、父兄會、母の會、講習會、卒業兒童の就職に關する懇談會）
  - B、家庭訪問
  - C、地域別出張學習指導
  - D、校外指導（教護團の設置、少年團並びに少年消防隊の組織）
  - E、印刷物の配布
  - F、學校手帳
  - G、教育及び健康相談並びに養護施設（臨海學校が多數）
  - H、その他（榮養食指導、農事改良、家庭實習の指導、産業獎勵とその援助、試作地の設置、品評會の開催など）
- 七、學校と家庭の要求點
- A、學校が家庭に要求する點は、（一）學校教育の特質認識。（二）兩親の教育的自覺。（三）協力一致。（四）調査上の



援助……で啓蒙的方面が主となつてゐる。

B、家庭が學校に要求する點は、(一)學習能率の増進。(二)兒童に對する個別的な理解と愛。(三)親の教育的指導。

(四)學校それ自體の發達。

C、共通せる點は、(一)特殊兒童の處置に就ての悩み。(二)進學と就職の問題。(三)校外指導の問題。(四)優秀なる教育研究所並びに相談所との協力提携。

八、都市と町村とに見る差異

A、都市の學校は母に對して協力と理解とを求め、町村では父兄に對して求めてゐる。

B、都市に於ては學習能率の問題と保健問題が主要點となつてゐるが町村に於ては訓練上の問題と衛生上の問題が主要點となつてゐる。

## 世界交誼に對する家庭及學校の貢獻

フィリッピン大學教授

ヘルミニオ・ヴェラールド

「己れの欲する處これを人に施せ」

如何なる社會、如何なる國家と雖も、それを構成する人々が交誼の精神に於て團結してゐるのでなければ、平和を樂しみ幸福を享けることは出来ない。

人間の交誼心を育み始める場所は、家庭であり學校である。家庭は人間の相互關係が萌芽を出す最も基本的な社會的單位といふことが出来る。我々が社會生活についての最初の觀念を學び得るのも家庭に於てである。相互的獨立精神が養はれ、交誼が結ばれるのも家庭である。誠の愛、奉仕、相互的尊敬の精神は家庭に於て根本的に培はれるのである。

子供はお互に偏見や憎惡の念を持つて生れついてゐるものではないから、交誼を教へるといふことはどの子供にも不可能なことではない。相互の間の調和を破壊し、不和誤解を醸し出すのは、好ましからぬ周圍、環境の影響に他ならないのである。實際彼等はお互に親しいと思つてゐるのである。彼等の間には純粹な交遊が存してゐる。而して彼等の間の交友關係が終局に導かれるのは、誰か第三者が彼等の交遊を禁ずるが故に起るのである。そして、それ



に次いで冷淡といふ感情が兩者間に起る様になり、更にそれが後には誤解ともなつてゆくのである。

學校も人々の間に交誼を深めさせるに重大な役割を演じてゐる。學校に於ては異つた家庭の子供が共に遊び入り交つてゐる。彼等は學校でよい行儀や正しい行爲を教へられる。それ故家庭と學校は世界諸國民の間に、又國家の間に交誼を齎らすについて、非常に重要な役をもつてゐることになるのである。

どんな社會、どんな國家にも立派な特長やよい習慣、風習があり、全世界の人々が平和を愛好し、幸福であり、お互に喜んで協力して惜しまないのは、これ等のものゝ貢獻によるのである。フィリッピン人にも又國民を平和にし親しみ深くさせる所の昔からの古い傳統慣習がある。

人々の間に協力と善意を醸し齎らす手段ともなるべき固有の諸性質について簡單に述べて見たいと思ふ。自國々民性を最もよく知つてゐる關係上、例としてフィリッピン人を探ることを許されたい。國民として我々は昔からの金言「己れの欲する處これを人に施せ」、これを信じてゐる。これこそ我々國民の同族間に於て、又隣人間に於ける行爲を導く法則なのである。我々は平和と幸福とを愛する。我々の共和政治はその憲法中に、國家的政策の手段として戰爭否認を宣言してゐる。我が國家の根本的法律中にこの宣言のあることは平和と善意に對する我々の希望を表示してゐるのである。

我々フィリッピン人の八〇パーセント以上が簡素な田園生活を營んでゐる。彼等は祖先からの古い傳統、習慣を受け繼いでゐるがその主なるものは、厚遇、禮儀、克己、の三つである。

(イ) 厚遇——我々は普通外人等にはこの特質を以て知られてゐる。しかし私が實際見た所から判斷すると、日本人は我々より更に歡待を惜しまぬ國民であることを今確信せざるを得なくなつた。フィリッピンの何處へ行つても訪

問者は心からの歡待の念を以て迎へられる。我々の國を訪れ、我々の家庭のもてなしを経験した人々は、去るに當つて非常な満足を感じ、彼等に對する我々の好誼を讃へるのである。この特徴は我々に生來具はつたものなのである。我々は凡ゆる人に對し貧しい乍らも我家の戸を開けて歡迎するのである。彼等が如何に質素で貧しくとも、彼等は訪問者には能ふ限りの歡待を盡すのである。彼等は訪問者を氣持よく幸福にする爲には、凡ゆる犠牲を惜しまうとしない。

(ロ) 禮儀——これは我々の間には極く普通のことなのである。殆ど學校教育を受けない者の間にもこれは守られてゐる。或者はこれを目して外國に支配された影響であると主張してゐる。しかし私は禮儀といふものは外部的の力により齎らされるものではなく、それは人生の花であらうと思ふ。禮儀はフィリッピンの家庭にも公の場所にもその他凡ゆる所に見られる。兩親は子供等に小さい時から正しい作法や舉動を教へる。我々のタガログ (Tagalog) 族の間には古くから次の如き諺がある、即ち

“Ang salung ay huwag ikahiyang gawin, sapagkat and kagalangan ay kapurihan nang gumagalang.”

これは直譯すれば「立派な行を學ぶのを恥づることはない。何故なら、それを學ぶ人は名譽を得るからである」といふ意味である。

(ハ) 克己——我々は絶えず平穩な市民生活を營みたいと望んでゐる。我々の中に可成り強く「自慢」の氣持をもつ者があつたとしても、克己こそ我國民の主たる特色である。我々のよく使ふ “paciencia na” “これを忘れよ” といふ言葉は我々の克己を巧みに表現した言葉なのである。但し、我々はその克己を以て、個人的屈辱には堪へるが、主義と名譽の爲には敢然として戦ふものである。



以上私は簡単に國民としての我々の傳統特色を述べた。我々は孤立し分立してゐる島に住んでゐるに拘らず、好誼を我國民的特徴の一つとして發達させたのである。我國民の家庭、特に貧しい人々の家庭に見られるこれ等の性質が我國家の幸福と隣人に對する友情に貢獻すること非常に大なりと、私は堅く信ずるのである。

## 北米合衆國に於ける

### 保健教育及び體育

東京基督教青年會名譽主事

ラッセル・L・ダーギン

本論文は當初學校衛生部會に發表される豫定であつたが時間の都合上不可能となつたので止む無く本部會に於て發表された。但し論文の内容は發表者の希望に依り學校衛生部會に収録せり。(第參卷八五頁參照)

## アラスカに於ける實情

アラスカ大學助教授

エヴレット・エリックソン

私は次に述べる三つの理由から我國に於ける何か有益な魚の話でもした方がよくはないかと思つてゐる。その第一の理由は、我々の海上に於ける素晴らしい漁業の狀況に就て話をしたら皆さん可成り涼しくなると思ふのである。といふのはアラスカには始終氷の風が吹いてゐるからである。第二にアラスカには魚の産が多いから、幾らでも素晴らしい魚の話が出来ると思ふのである。第三はアラスカに於ける「家庭及學校」運動は余り發達してゐないので、私はそれについて多く語ることが出来ないからである。

兩親教員聯合會 (Parent-Teachers' Association) はここにはそれがジュノー (Juneau) に置かれてゐた時、私は五年間役員をつとめたので自分の經驗についてのお話は出来ると思ふのである。二年間それは存在してゐた。しかし三年目の始めに——丁度その時私が勤めてゐたが——監督官が「兩親及び教員」とその協會のことに就て議論したのであつた。彼はその組織は存在價值のないものと思つたのである。普通どの會合に於ても教員は數に於て兩親を凌駕してゐた。そこで兩親等はこの會に少しも興味を持つてゐないといふ考へを披瀝し、これを聞いた教員の中には、この事業を止める機會を得て非常に喜んだ者もあつたのである。但しアラスカに於ける小さい團體に於ては、その兩親教員聯合會はその團體の社會的又教育的福祉の爲に、重大な役割を演じてゐるのである。兩者の間には非常に密接



なる接觸がある様に思はれる。その事情は多分全世界の小團體に於ける事情に、非常に類似したものであらうと思ふ。私はこの「家庭及學校」の問題に就て屢々考へるのであるが、その最も大切なことは學校が家庭内に、常により大きい興味、教育的興味を造り出すべきであると信ずるのである。即ち家庭が學校に近づけられるべきで、學校が家庭に近づくべきではない様に思はれる。而してその單なるしかし強き理由としては、家庭に於ける教師(親)は學校内の教師と同じ立場にあるのではないと言ふことが擧げられるのである。幸にもアラスカに於ては教師は皆同じ立場にある。平均少くとも一週に一回個人の家内にて夕食をとらない教師は精神病醫の診察を受ける必要があるといつてよい。換言すれば教師は兩親と非常に親しい關係にあるのである。しかし私が云はんとするのは學校に關する問題が論ぜられるはつきりした晚餐の約束——私はその經驗があるのであるが——がなされるとは考へられないと言ふことなのである。我々は他の種々なること、例へば新國策について又特に「數學的計畫」(諸氏の中にはそれについて既に聞いた方もあると思ふが)について話すのである。又職業や生活の經濟的狀態について話し合ふこともある。私が小學校の仕事に携はつてゐた時の經驗からいつて、若し兩親が學校に來て教師と教育上の諸問題について話し合つたなら、ジオニーもメアリーもずつと進歩したい、生徒になつたであらうと云ふことである。各學校の生徒等も亦彼等の兩親には學校へ來てもらひたくないのである。何故であるかは知らない。多分この様な狀態は他の土地にはないことと思ふ。それ故アラスカはこの部としての實際問題に直面してゐると思はれる。若し御示唆を戴けるならば、私は喜んでそれをアラスカの凡ゆる場所に移植致し度いと存じてゐる。委員長、前にも述べた如く兩親教員聯合會がアラスカに於ては余り重要な役割を演じてゐないといふ理由の爲に、明確なる報告をなし得なかつたことを謝する次第である。

## 家庭及學校部會議事要約

委員長 J・K・ペテンジル

當部會議事内容に就て一應その要點を掻いつまんで置きたい。心に充たぬ點も色々あつたが、議事は誠にときばきと進められて行つた。従つて大多數の諸君は當部會に現れた議程を、頭の中で立派に要領よくまとめてお歸り下さること、信ずる。

第一部會に於ては、我々は主として家庭と學校の協力運動の根本たる兩親教育といふことを考察した。即ち教育に於て家庭が日常演すべき役割、換言すれば家庭の支持と理解と積極的後援なくしては教育は所期の目的を達し得ないといふ事實を語り合つたのである。昨日の第一部會は斯くて専ら兩親教育に關する論議に費されたのであつたが、これに依て我々は單に個別的に兩親教育を受けただけでは兩親たるものは上述の問題に當り得ないことを悟つたのであつた。即ち我々は家庭と學校との協力といふことに我々の考察を向けたのである。知識ある兩親は一團となつて、その知識を活動的な奉仕に使用し始めなければならない。現状を打開して理想的な狀態に達する爲にはこの一團が活動を開始し目的の達成に進まなければならないのである。そして今日は、如何にすればこの家庭と學校の協力が行はれる得るかといふことを論議したのである。我々は單に具體例を眺めただけでなく、我々の強みと弱點とを調べた上、勇敢に、且冷靜に家庭と學校の協力といふ問題に直面して行つたのであつた。



諸君がこの席に齎らされたそれらの問題はやがて我々が當面する第二の問題を提示するものである。異なる分野にあつて機能を營む二つの團體は如何すれば互に協力せしめることが出来るか。これら團體が調和的活動の出来るよう協力させるには如何すればよいか。これは重大な問題であつて、全世界數百數千の團體は實驗その他その分野に於ける種々の積極的活動に依つてこれが解答を求めようと努力してゐるのである。そして斯くしてのみこの問題は解答を求め得るものなのである。若し各國が、如何すれば兩親と教員が同じ目的に向つて歩調を揃へて進むようにすることが出来るか、といふ問題に就き互にその研究の結果を持寄るならば、それは既に我々がその目的に向つて第一步を踏み出したことを示すこと、なるのである。

最後に私は、この兩親教育、家庭學校運動といふものは世界全人類の生活に何等かの貢獻をするので無ければ完全とはいひ得ないことを強調して置きたい。此處に代表を送り國際親善と四海同胞といふ遠大な理想の實現に向つて協力しつゝ、ある國々の家庭及び學校は、社會全體に對する我々の責任といふものを認識して始めて互によく協調し得るに至るのである。兩親教育はやゝもすると自己本位なものになり勝ちである。又家庭と學校の協力といふことも極めて地方的なものになり易い。しかしながら、かうしたことから發展させて世界に一國の例外も無く行互る社會活動と爲し得るものは、實に諸君や私や、或は又我々が今朝此處に代表して來た幾百千萬の人々が等しく深い利害關係を有する、この家庭と學校の協力運動なのである。この運動は世界に貢獻するものとならねばならぬものであるが、我々は繰返し厚誼、犠牲、或は萬里を隔つた地方の姿を知らうと努める空氣の存在を眼のあたりに見て來たところからして、此處にその實が擧げられたと感ずるものであり、今朝の會議もかうした空氣の下に閉會したいと思ふのである。父兄と教員が協力して子供の爲に立派なそして幸福な世界を作つてやるといふこと、それが我々の理想である。

### 役員選舉

慣例に依り國際家庭及學校聯盟に於て次回部會役員の選舉を爲すこと、す。

### 決議

本部會は左の事項を決議せり。

- 一、全世界の教員及び教育家は個人として或は團體として、家庭及び學校共通の問題に、有效且適切に對處し得るが如き協力活動の助長に努むべきこと。
- 二、全世界の父兄及び教員は、父兄教育、學校及び家庭の協力、公共奉仕等に依つて、國際理解の域に達し、國際協力と親善の實を擧げ、國際正義と善意を愛する新世代を招來せんが爲、協力一致不斷の努力を致すべきこと。



## 寄稿

## 北米に於ける兩親教育

ジュネーヴ國際局 マ リ ー ・ パ ッ ツ

兩親が自分の屬する兩親教員聯合會に興味を持つ様になり、この複雑不統一な世界に毎日の様に起つてゐる子供の生活や、青年についての數多い問題の解決に對し、家庭と學校が共に協力すべきであることを眞面目に考へる様になると共に、結婚と親となることに含まれてゐる義務に對して多くの若き男女が如何に不用意であるかを、世の親は認め始める。「兩親教育」は兩親に依り感じ漏らされる必要から極く自然に生れ出たものであつて、それは世界の人人にその必要がより痛切に認められるにつれ、その活動の範圍と影響とを次第に擴張しつゝあるのである。

少年少女は人間生活の最も基礎的にして最も普遍的なる職能、即ち配偶者として親としての職能の教養に對しては昔から常にその準備が不充分であつた。ビクトリヤ女王時代に、母の會は既に教會と内地傳道とに關聯して開かれたのであつた。といふのは労働階級の女性の大部分は、乏しい収入内に於て、如何によく家政を處理するか、如何に家

族を全社會に正しく適應させるか、如何に子供を訓練するかを知らないと思はれた爲であつた。しかも、教育ある女はそれを充分よく知つてゐるものと假定されて來たのである。今日われわれの家庭が到達すべき水準についての我々の考へは、非常に擴大し來り、兒童心理研究の發達は専門的な知識の獲得に一般に容易ならしめ、精神分析學は他の總ての場合の生活的不調節と共に、結婚に於ても配偶者の調査が如何に氣の毒に不適當に行はれてゐるかを警告してゐる。それ故富裕にして教育ある男女、この方面に於ける教養の必要が、生活程度の低い同胞と何等差別なきことを思はせられてゐる。かくて、兩親教育運動が急速に擴つて來たことに少しも不思議はないところである。

兩親教員聯合會が最初に設立され、最初にその重要性を發揮し、最初に組織的にこの事業に着手したと共に、今日その活動が最も大規模に實行されてゐるのは北米である。それ故この報告はカナダからの例を除いて、皆北米合衆國に關するものである。

(註——一九三七年五月三日から七日迄「社會に於ける家庭の地位」について論ずる爲ウァージニア州のリッチモンドに開催された兩親教員評議會第四十一回例會議 (Forty-First Annual Convention of the National Congress of Parents and Teachers) には全會員凡そ二百萬人にも及ぶ二萬五千以上の兩親教員聯合會の代表が出席したのである。國際家庭及び學校聯合會 (International Federation of Home and School) は一九三五年八月オックスフォードに於て開催された前回の會議に於て、アメリカのこの組織の會長であるB・F・ラングワース夫人 (Mrs. B. F. Langworthy) により發表された、興味深き演説に對し感謝の意を表してゐる。)

兩親教員評議會は兩親教育の分野に於ては數多くの立派な仕事を成し遂げてゐる。その目的とする所は次の通りである。

「家庭、學校、教會、社會に於ける兒童及び青年の幸福を促進すること、家庭生活の水準を高めること、兒童及び



青年の世話と保護に關する法律を獲得すること、兩親及び教師が兒童の訓練について知的に協力する様家庭と學校を密接なる關係に置くこと、全兒童が肉體的、精神的、社會的、靈的教育に於て最高の利を獲得する様に一致した努力を教育者と一般公衆の間に發展せしむることである。

評議會は學校教育のみならず家庭教育に關する兩親及び教師の夏季講習會を開催する—例へばメリーランド大學 (University of Maryland)、イサカ (Ithaca) のコーネル大學 (Cornell University)、ヴァーモント大學 (University of Vermont) に於ける如きもの。—又専門家に委嘱して兒童訓練や兩親教育に關するラヂオ講演を行ひ、或は、公立圖書館に兒童研究に關する書物を藏する兩親教育の爲の書架を寄附したりしてゐる、會發行の廣く讀まれて居る優秀なる雜誌「アメリカの兩親と先生」(The National Parent Teacher)—以前には「兒童の幸福」(Child Welfare) といはれてゐた)—は主に兩親教育に關するものである。

兩親教育評議會ははじめは孤立奮闘してゐる様なものであつたが、兩親教育の重要性がはつきり認められる様になつたので、聯邦同盟や州の當局、又地方團體がその運動に參與する様になつたのである。

「兩親教育の機會」(Parent Education Opportunities)

(註—兩親教育に於ける専門家エレン・C・ロムバード氏 (Ellen C. Lombard) 編纂のもの、アメリカ文部省一九三五年度公報番號第三、六十頁、挿繪入)

なる會報の緒言中に、アメリカ文部局長スチュードベーカー氏 (Dr. Studebaker) は次の様に述べてゐる。

「兩親教育についての専門的局面はこの十年以内に發展したものである。専門的指導者は各専門學校、大學内で訓練され、兒童の成長や兩親教育を主題とした文獻はそれ等指導者、教師、兩親の爲にもされたものである。今猶

發展しつゝ、あるこの方面の教育の重要性は家庭内に必要な經濟的調整に直面しても、又國中の兩親が彼等の問題を分解し、解決することに助力を求めてゐるその希望に鑑みても、決して過重視されるべきものではない」と。

又その會報は兩親教育の目的を次の如く述べてゐる—

「兩親教育の仕事の目的は次の諸事項である。まづ兩親の家庭、家族の状態に適應する様な完全なる原理を彼等に提供すること。兒童の訓練についての彼等の態度、方法、習慣を變化させる事。よりよき理解をす、めて彼等の仕事に於けるより効果的な習慣や、より大なる満足を保證する事等である。これ等の目的を果す爲に専門的及び素人の指導者を訓練すべく各専門學校、大學内には種々の課程が設けられたのである。實驗室、育兒園、幼稚園、兒童保育所及びその他のものを中心とする研究、觀察、協力の機會が與へられる様になつた。専門的指導者の爲の著書や權威ある材料又素人の指導者や兩親の爲の權威ある諸材料は皆利用し得る様になつてゐる。

二、三の大きい大學はこの兩親教育の専門的局面を發展させるに指導的位置を占めて居り、専門學校や州立師範大學はこの分野にそれゝ貢獻してゐる。兩親教育と兒童發展についての校内講義、通信講義、夏季學校内の講義、校外通俗講義等が一九三二年から三三年にかけて少くとも二十五の州の幾つかの専門學校、大學に申込まれたのであつた」と。

兩親教育聯合會の他に、アメリカに於ける個人經營による組織が兩親の教育に關して活躍し、今猶活躍に成功してゐる。例へばアメリカの兒童研究協會 (Child Study Association) はその一であり、それは素晴らしい生産物として第一流文獻、年四回發行雜誌「兒童研究」(Child Study) を出して居る。又有益な個人相談所を經營してゐる。それは一九二八年に創立されたが始めは兩親とその子供の關係について兩親により深き洞察力を與へる助力をすること



だけを目的としたが「子供の問題は決して孤立してゐるものではなく、常に有機的に家族全体の生活、殊に兩親の生活に關係してゐる、そして今日この相談所の要求は次第に増しつゝあるが、それは結婚上の調整や家族關係に關する問題に對しても兩親に忠告を與へるべきであるといふことを、會の關係者は急速に認める様になつて來た（以上一九三六年四月號、五月號の「兩親教育」(Parent Education)より抜萃)。

又地方的のものとしてはロスアンゼルスに「家庭問題研究所」(Institute of Family Relations)なるものがあるが、これは研究、教育、個人相談の三部門に分れてゐる。この他にクリーヴランド協同慈惠院(Cleveland Association of Charities)の「家族奉仕研究所」(Institute of Family Service)等もある。

大學、及びその他の諸學校の中には家族關係がもつと調和的に、互助的になる様に兩親や學生に忠告する部を設けた所もある。例へばコロンビア大學内の師範部の如きは兒童發達に關する相談所を設けた(一九三二年)。それは最初コロンビア大學職員や、大學内諸學校生徒の家族の爲の奉仕として始められたものであつた。デトロイト(Detroit)のメリル・パーマー學校(Merrill-Palmer School)は女子大學生の爲に相談部を設立したが、これは育児や子供の遊び友達の問題等に就て、職員が母親に忠告した經驗を基礎として生れたものであつた。又北カロライナ大學(University of North Carolina)も相談所を設けたのであつた。アメリカ女子大學生協會(The American Association of University Women)、アメリカ家庭經濟協會(American Home Economic Association)、アメリカ兒童保健協會(American Child Health Association)、兒童教育協會(Association for Childhood Education)その他種々なる大組織はすべて兩親教育に關して立派な仕事をなして居てゐる。一九二六年に發刊され最初「兩親の爲の雜誌、兒童」(Children, the Magazine for Parents)と稱されてゐた「兩親の雜誌」(The Parents' Magazine)は、兒童

研究と兩親教育の分野に於て確に普及さるべきはつきりした目的を持つてゐる。その發行高は三十五萬部以上に上りそれを直接模倣した雜誌がイギリスや支那で發行されてゐる。

兩親教育評議會(ニューヨーク・四十二番街東六十六番地)は一九二八年以來、家族生活や兩親の教育の爲に益々盛んになりつゝある運動に對し強さ、方向、調整を供給する非常に有效な手形交換所となり中央代理店となつてゐる。その會員としては三十五の團體が加はり五百人以上の職員がこれに屬してゐる。その資本は一部はそれのもつ相當な基本金に據り、又一部は會員からの寄附に仰いでゐる。それは「兩親教育」と稱する雜誌を發行してゐるが、これはこれと關係ある職業をもつ會員への奉仕的會報であり、家族生活や兩親の爲の教育について批判的又創造的思想を發表してゐる。

(註——一九三六年度四月、五月號の「兩親教育」には九十五頁の長きにわたり結婚と家族に關する相談の凡ゆる局面が發表されてゐる。又地方に於ける兩親教育(Parent Education in Rural Areas)は一九三七年四月に發行された管である。)

この評議會は新しいプログラムの編纂、より効果的な方法、材料の發展、又いろ／＼異つた組織や職業的團體が家庭生活、結婚、兩親等の爲の適當なる教育方法を彼等の仕事の中に編入することを促進させることに於て、積極的役目に當つてゐるのである。そしてそれは次に示す如き教育的活動を獎勵してゐる。即ち

- (1) 成人教育の團體、定期刊行物、ラジオ放送、その他家族生活や兩親の爲の成人教育に關する諸機關。
- (2) 學校や大學又學校外の諸組織に於て家庭及び家族生活(適當なる年齢に於ける結婚、兩親に關することを含む)の爲に兒童、青年を教育すること。



- (3) 未婚者の爲に奉仕的に結婚及び家族に關する相談を受けること。  
(4) 家族生活や兩親の爲の教育方法を主題とする教師、看護婦、一般労働者、牧師、その他の専門的職業をもつ人の爲の専門的教育的、又職業的でない教員指導者の訓練。  
(5) 家族生活や兩親達の爲の教育についての目標、主題、方法、結果、組織に關する研究、調査。

更にこの評議會職員は政府及び他の國家的團體によりなされてゐる出版の發展を輔佐してゐる。ペンシルバニア州報八十六號「兩親教育」(Parent Education)の如きは例へばこの様な努力によつてなされたものであり、それは非常な効果を示してゐる。評議會職員は又米國農林省や州立農業大學等の農業及び家庭經濟部の共同擴張の爲の運動者に議論の要綱を準備することを輔佐してゐる。

評議會は各地の町に會議を開いてゐる。前會(第五回隔年會議)は一九三六年十一月にシカゴに於て開かれその主題とする所は「今日の家族生活に對する教育」であつた。一九三四年から一九三五年にかけて「兩親教育に關する社會的組織」を主題とする大會を開催した。そしてそれにはこの問題及びこれに關する機關に就ての非常に有益な評論が用意されたのであつた。

家族生活や兩親の爲の教育を中等學校や専門學校の課程に入れる爲には評議會は非常な努力を惜まなかつたのである。この傾向は次第に一般的にならうとしてゐる。一九三六年のシカゴ會議に於てコロラド州デンバー(Denver)の視學であり、米國教育會(National Education Association)視學部長たる、スレルケルド氏(Dr. Threlkeld)は次の様に述べてゐる――

「私は各學校は家庭に對し社會機關としてもつと注目すべきであると信ずる。家族生活の基礎的重要性は今日個

性の發展及び社會的課程を研究してゐる學徒により強調されてゐる。しかもこの方面に於て學校のなす最大の努力は單に斷片的、孤立的課程に過ぎないのである――家族生活は一つの團體内に於ては自覺的交通と様々なる利益の分配を促進し、他の團體とは協同的關係を自由に設立する――即ち人間生活に必須のものであると偉大な哲學者の指摘した諸活動を促進するのである。――若人達は彼等が家庭外の團體活動に參與する爲に家庭生活が彼等に供給するやり方を意識して認めるべきである。教育者は今日我々文明の世の中に是非とも必要な家庭を作ることと、家族生活に對しての知識を中等學校生徒に教へることを彼等の義務と考へるべきである。

デンバーの小學校に於て十五年間實行されて來た課程改良の方法により社會組織第一歩としての家庭の研究は一步一歩次第に進出して來たのである。この方法は今日國內の數多い學校に於て模倣されてゐるのである。

幼稚園に於ては家庭生活が協同的企業であるといふ所が強調されるのである。小學校の最初の二、三年は家族の廣い作用の範圍外にあるから、この方面に於ける家庭の研究は他の部に屬することになる。この様な年級に於ては地理や公民の様な課目を教へる代りに、社會組織第一歩としての家庭を中心とした統一された社會研究の課程があるのである。中等學校の課程も同じ様な方針に従つて立てられてゐる。化學、物理、生物學、自然科學の教師さへも知的な家族生活に關する科學的知識を生徒に強調する様に激勵されてゐるのである。家庭經濟のクラスに於ては現在の家族關係や將來の家庭生活に關係ある問題、少年少女の關係に對しての問題、結婚前に考慮すべき點、即ち夫妻關係、家庭管理、兒童教育その他の問題に就て客觀的な、しかも親密なる議論がなされるのである。學校外の青年、成人で更に研究をしたいと望む人の爲には「便宜學校」(Opportunity School)なるものが設立された。此處に於ても又家庭經營の課程が與へられてゐる。青年はこの様な問題に非常に興味を有して居り、適當なる指導の



下に彼等は率直にそして知的に議論に参加してゐる。

個人機關の助力を得てデンバーには就學前學校群を中心として組織された四〇の兩親教育の團體が經營されてゐる。子供の兩親のどちらか、研究に加入してゐる時に限りその子供は前述の團體のどれかに入學許可せられるのである。そして兩親教育がこの課程に於ける最も重要な點となつてゐるのである。子供が就學前兒童の團體に入つてゐるからと云つて研究に参加してゐる父親と云へ母親と云へ兩親としての義務から逃れる事は決して出来ない。この課程は決して家庭管理と指導との代理を意味してゐるのではないのである。私は育兒學校が次第に教育的分野の中に現れつゝある事實に面しても少しも驚かないのである。兩親の責任を軽減するといふよりは寧ろそれは家庭を再強調し子供に對する親の義務に關し兩親をより知的にするのである。育兒教育の標準に従つて管理された時、このデンバーに於ける場合の如く兩親は自分等の責任、親としての責任をより深く感じ、家庭生活を改良する様になると私は信じてゐるのである。育兒學校、幼稚園、小學校、續いて中等學校、青年の學校、又育兒學校を中心とする兩親教育を通じての兒童教育等に於ける諸問題を検討する時、社會機關としての家庭の重要性はすつかり明らみに出され、そして凡ゆる年齢の學生も家庭により、より立派な家庭の一員となり、よりよき市民となり得るのであると私は信じて止まぬ次第である」と。

フィラデルフィア (Philadelphia) の近くのあるクエーカーの男女共學の私塾(中學校程度のもの)を私は一九三六年の五月に訪れたことがあり、前述の事項と目的を同じくする統一された社會研究のクラスに出席した。そのコースの課程は次の如きものであつた。

(註——使用せる教科書——(1)一九三五年ニューヨーク、ハーバート (Harper) 發行 エリオット・メリル・ライト (Elliot

Merrill Wright) 著「我が活動的社會」(Our Dynamic Society) (2)一九三四年ボストン、ヒート發行、ギヤウイン・クレイ (Gavin Gray) 及びグロウズ (Groves) 共著「變化してゐる社會秩序」(Our Changing Social Order) 教師のみ使用のもの。一九三三年ニューヨーク、ホルト發行、アーネスト、グロウズ教授 (Professor Ernest Groves) 著「結婚」(Marriage))

C部は今日アメリカ市民が現に當面してゐる個人的、社會的、政治的諸問題についての研究を強調してゐるのである。それ等は日常の經驗に於ける實際的、具體的狀態に従つて研究されるのである。

社會研究(三年生)——研究された諸問題は次の如きものである——家庭に於ける共同生活、家庭生活と社會の關係、社會に於ける人々の種々なる型、階級の相違、社會生活の經濟的支持、社會政策及び政府、國際關係等。時事問題、事件の研究、定期刊行物、歴史上の實例は大いに利用されてゐる。

私の聴講した學科はペンシルバニア及びその近くの州に於ける離婚法に關する活々とした討論であつた。

ミシガン州 (Michigan) デトロイドのメリル・パーマー學校は兩親教育に關しては最も古く且實力ある中心の一つである。

(註——ミシガン・デトロイド・フェリー通・東七十一番地發行、一九三三年、三四年度及び一九三四年、三五年年度の報告「メリル・パーマー學校」がある)

この學校が仕事を開始したのは、一九二〇年二月であつた。そして監督者としてはエドナ・ノーブル・ホワイト (Edna Noble White) を推した。しかし女子大學生に兒童發達の爲の教授をし、そして育兒學校を主にこれ等學生の爲の觀察、訓練の場所として支持する計畫が立てられたのは一九二二年の一月であつた。當時の職員は十人に過ぎ



なかつたが、一九三四年から三五年にかけては四十人の多きに上り（助手、評議者を含む）女子大學生の爲の相談所職員は四十九人もゐた。

その年に於ける學生登録者は一五四人であつた。一九三四年に新教授法が發表された。即ち――

「これは過去十年間或は二十年間に於て非常に盛んであつた、より新しくより進歩的な教育的思想、方法の恩恵を學生に與へんとする試みに過ぎないのである。興味や必要に於ける個人的の相違や學生間の準備に於ける多様性をもつと十分に許し、より個人的の指導を與へる様に企てられてゐる。新しい計畫を發展させる爲には、その計畫を廣いその學派の教育的目的に適應さるべく特別の注意が拂はれたものであつた。即ちその學派と協力してゐる種々なる兒童や成人の團體を充分觀察したり、又その團體との經驗を通して幼兒から成人に至るまでの凡ゆる年齢に於ける人間の發達に就て、何等かの理解を生徒に與へようとしたのである。この普通の兒童や成人の生活過程と接觸したり、又それを觀察する機会を一學期の研究の爲に大學から來てゐる若い女子學生のために最も重要な寄與であると認める様になつたのである。この新しい方法は少人數での研究、討論といふ組織を基礎としてゐる。即ち一つのグループは六人乃至十二人より成り、それが指導者と膝を交へて研究するといふ風になつてゐる。

この新法發表後一年四ヶ月頃、學生のもつ異つた様々なる背景、獨特の諸問題から引離すことの出来ない困難、又多くの生徒に全く新しい方法や分野を短時日に指示する困難があつたにも拘らず、その方法は活々とした興味、改良された態度、新鮮な熱心さを促進し、又學生達に根本的に學ぶといふ責任を植ゑつけたのであつた。」  
このメリル・パーマー學校に於ては多くの研究的仕事が行なされてゐる。  
アイオワの州立大學には兩親教育に就ての興味ある課程がある。

（註――以下一九三二年二月六日及び一九三五年六月十五日附の公報「アイオワ州立大學に於ける兩親教育」(Parent

Education at the State University of Iowa)に據る)

一九一七年設立のアイオワ兒童福祉研究所 (Iowa Child Welfare Research Station) の定める所によると、知識の傳播をも含むその課程の一部は、兒童の發達に關する優秀なる現時の思想や科學的論據を兩親に利用させる様な奉仕事業により非常に補はれるといふことが認められた。兒童研究團體の組織はこの奉仕に非常にすぐれた媒介物を與へた様に見えた。又この様な課程に於て兒童研究に關係する専門的研究者は彼等の研究、調査に當りこれ等團體の中兩親の必要に支配されることがあるといふことも明かである。従つて一九三四年に前研究所長のバード・T・ボールドウィン氏 (Dr. Bird T. Baldwin) は州内の兒童研究團體の組織に關する手順の決定的方法手段の梗概を示した。ボールドウィン氏はその目的は、――「兒童がその才能の許す限りの發達をなし得る様に信頼し得る忠告を兩親に與へること」であるとして述べた。披瀝された方法とは就學前の子供をもつ母親を熟練者の監督下に十五人乃至二十人宛を一團として統合するといふ事であつた。教科目上の計畫や梗概が用意され規則的の指示が與へられる筈であつた。書物やパンフレット等の讀書材料は大學から送られた兒童研究圖書館に用意される筈であつた。研究過程は二年乃至三年で、可及的に會合を多くする筈であつた。そしてこれに續いてクラス指導の爲の研究討論法が行はれるのであつた。兒童研究と兩親教育との一分科がアイオワ兒童福祉研究所と大學の學外講習會との合同主催の下になされた。この分科最初の年には（一九二四――二五年）州の各地に十九の研究團體が組織された。兒童研究の爲の三週間の課程が特種の研究生や兩親の訓練の爲に夏季設けられたが、その課程の成功から鑑みて、一九二六年には三週間が六週間に延長された。兩親に關係ある専ら幼年期の諸問題に關する卒業生の爲の學制的課程



が、始めて一九二五年から二六年にかけて大學の正規學期々間中に設けられたのであつた。一九二五年にはデス・モイネス (Des Moines) とカウンスル・ブラフ (Council Bluffs) に二つの研究所が設立された。

七年の年月を経てその分科の仕事は更に擴張せられ、次の諸事項を含む様になつた。

「讀書材料に關して兩親に忠告を與へること。兒童研究圖書館の支持及び巡回文庫の設置。ラヂオプログラムの編成。兒童研究と兩親教育に關する展覽會。兒童發達及び兩親教育に關する年一回の會議。地方指導者の訓練。兒童研究と兩親教育に於ける附加的學究の設置。兒童研究科と兩親教育とに關する考察。兩親教育評議會、アメリカ女子大學生協會、兩親及び教員州及び國內會議 (State & National Congress of Parents & Teachers) 女子キリスト教禁酒同盟 (Woman's Christian Temperance Union) 等の州立及び國立協會との協力」——かくして課程は州の學究科及び各研究に於て適宜に分割して擴張の仕事となし得るのである。

シアトルのワシントン大學には家庭經濟の學校があるがそれは次の如きものである(一九三六年、十二月四日付、家庭經濟教授、ジェニー・ローンツリー氏 (Dr. Jennie I. Kowitz) の書簡に據る)

「兒童保育の一課程があつて、茲に於ては凡ゆる局面に就ての討論がなされる。心理學、營養學、優生學等の必要缺くべからざる諸課程は種々應用されてゐる。この課程に於ける實驗的工作は兒童營養講義であり、これには毎週十五人づゝ、母親が出席してゐる。委任された小兒科醫は身體検査をして營養上の忠告を與へ、學生は兒童を脱衣させて種々測定を行ひ、その時間中の兒童の反應を観察したり又記録をとつたりする。どの學生も一人の母親と子供を受持つてゐる。これは親子關係、子供が新環境に對して順應してゆく様な食餌の研究等をするのに役立つてゐる。母親は彼等の必要とする忠告や助力を與へられる。更に家庭經費に關係ある豫算組立や家族關係に關する課程

も全生徒に與へられてゐる。そしてこの二課程とも單なる金錢や時間消費を解剖するのみでなく、寧ろより深く兩親哲學を促進せしめてゐる。この部に於けるどの課程も共同家庭作業の喜び、質朴なるもてなし、幸福と能率へ向つての適當なる家具、衣類の選擇等を巧みに加味した、堅固な家庭を建設する所の模範的家庭及び哲學を強調する様努めてゐる。」

パウキープシー (Poughkeepsie) のヴァーサー大學 (Vassar College) には大學卒業生及び上級生の爲に休暇學校が設けられるが(人種改良學についてのヴァーサー大學夏季學校「Vassar College Summer Institute of Euthenics Programme」)その第十二回は(一九三七年七月一日より八月十二日迄)次に示す事項を目的として計畫されてゐる。即ち

「自分自身及び人間關係をよりよく理解すること、子供等に有效な満足した生活を供給する爲のより大きい熟練、彼等の環境統御をより効果的にすること。變化しつゝある四圍の社會を速やかに理解すること等である。

この講座に於ては精神的及び肉體的健康、兒童の發達、家屋、衣服、食物、家族及び社會關係等に關する講演、討論、會議等がなされるのである。その家庭生活に於ては團體の爲には實驗所が設けられる。午前中は授業、午後には娯樂及び休息、夜は討論及び催し物となつてゐる。」

この夏季學校は結婚適齡期の女子、團體の仕事に對して準備してゐる人々、母親、父親及びその子供達(二歳より八歳まで)から成立してゐる。非常に進歩的な二十四時間の課程をもつ子供等の學校に於ては、經驗ある教師、小兒科醫、看護婦、心理學者、食餌療法家等の奉仕がなされてゐる。片親さへこれに出席すればその子供は入學し得るのである。兩親等は自分達の計畫や問題に關して職員と懇談することも出来るのである。



一九三七年度のヴァーサー講座は兩親教育と他の社會的計畫實行者の爲にその課程の二つを設けてゐる。即ち、「家族と變化する社會（社會的一單位としての家族及び家族調整を含む）。社會指導（實習課程）」。

シンシナチ大學 (University of Cincinnati) は

(註——一九三六年一月發行、二十六頁「シンシナチ大學記」(University of Cincinnati Record) 及び一九二六年よ

り三五年に至る「母親訓練協會史畫報(A Graphic History of the Mothers' Training Centre Association) 参照)

兒童發達の爲の兩親教育評議會 (Parent Education Council for Child Development) (以前は母親訓練協會 (Mothers' Training Centre Association) と呼ばれてゐた) により供給されたものを基礎として次に示すものを大學内に設置する様になつた。即ち、

就學前時代の子供に適當な遊戯、遊び、用具、仕事や又望ましき習慣をつける方法等を兩親や生徒が觀察し得る様な模範的育兒團體の設置。幼兒にふさはしい書物、玩具、又兩親に特に關係ある書物の陳列等はこの部によつてなされるのである。

兒童保育訓練部は四ヶ年にわたつて非常に完全な制度を作り出してゐる。

(註——兒童保護及び訓練の教授はアダ・ハート・アール博士 (Dr. Ada Hart Arlt) であるが、彼女はアメリ

カ兩親及び教員評議會發行の第一流書籍「我が家庭」(Our Homes) の著者である。その本は「共に豊かなる生活を送る爲の案内」ともなるべき論集なのである。)

「この課程は次の如き方面の職に就かんとする者に訓練を與へるのである。即ち兒童發達の研究、育兒所又は育兒團體の監督者及び助手、大學や中等學校に於ける兒童保育及び訓練の教師、子供等の健康に關する仕事の教師等の

訓練等である。これは家庭内にある兒童の訓練に興味をもつ生徒には非常に價值あるものである。

生徒が専攻したいと望む科に於て完全なる訓練を與へる目的で選擇が許されることになつてゐる。保健事業の方面に進みたいと望む生徒は社會學、營養學、健康學を学ぶ。又育兒團體や晝間託兒所の監督や助手を望む生徒、又中學校、専門學校、大學に於ける兒童保護や訓練の教師を望む生徒は教員大學、特に幼稚園教育をその選擇科目の一部として選ぶのである。兒童發達方面の研究を望む生徒は選擇科目として心理學を選ぶのである。兩親教育を専攻する生徒の爲には特別の講義が與へられるのである。

ミネアポリス (Minneapolis) のミネソタ大學 (University of Minnesota) には兒童福祉研究所があつて隆盛を誇り立派な兩親教育の課程を行つてゐる。

(註——「兒童福祉研究所」(Institute of Child Welfare)、「兩親教育」(Parent Education) (一九三五年、九

月十八日付ミネソタ大學々報四十五號)一九二五年——三六年に至る「研究所とその活動」(The Institute & its

Activities) 参照)

「一九二五年にニューヨーク市のローラ・スベルマン・ロックフェラー・メモリアル (Laura Speelman Rockefeller Memorial) の特別の許可を得て組織され、最近は州立法部の許可により支持せられてゐるこの研究所は同大學の分離した一部であつて同方面の事業に携つてゐる他諸部と協力してゐる。この同じ研究に協力してゐる他の部に解剖學科、教育學科、家庭經濟學科、小兒科、心理學科、神經及び精神病科、公衆健康科、演説及び社會學科がある。その教育計畫遂行に當つては、協會は教育大學、科學、文學、藝術大學、一般大學、高等科、農林、家庭經濟大學等の諸大學と協力するのである。兩親教育の課程に於て協會は大學の校外通俗講習會、校外農業講習會及び家



庭實地教授事業部と協力してゐる。

この協會の研究的又は奉仕的仕事の課程は社會に深く入り込み州の殆ど各地にまで行きわたつてゐる。ミネアポリス、セントポールその他の市の小學校は研究に於て協力し合つてゐるのである。種々な機會に州の監督局、近隣の家、醫局、病院、療養所、その他兒童の爲の諸機關との協力により重要な調査がなされたのであつた。研究に於ける成功の大部が大勢の親等の助力によるものであることは重要な點である。彼等は特別研究の爲の材料として彼等の子供を提供したのである。しかもそれは他の方法では如何とも成功し難いものなのであつた。

この協會の奉仕はミネソタ兩親及び教員評議會、アメリカ女子大學生協會、聯合婦人會、州立慈善協會、ラヂオ放送局、新聞社、教會、その他社會施設の如き組織を通して州の兩親等に普く利用される様にした。州の八七郡の内五〇まで兩親教育の計畫を實行して居り、又その様な種類の仕事が殆ど、どの郡に於ても兩親を助力する爲になされてゐるといふ事實によりこの協會の大きい影響がはつきり示されてゐるのである。」

カナダのトロント大學は一九二五年に兒童研究の爲にセント・ジョージ學校 (St. George's School) を設立し、その監督者にウィリアム・ブラッツ博士 (Dr. William Blatz) を推戴してゐる。

〔註——「兒童研究の爲の學校、セント・ジョージ學校規則書」(Calendar of St. George's School for Child Study) (一九三六年——一九三七年) 及び「兩親教育團の概略」(Outlines for Parent Education Groups)「就學前兒童の勉學」(Pre-School Learning) 参照)〕

この學校の目的は幼い兒童の發達及び訓練に關する教授法及び研究を助成することである。この目的とする所は單に兒童のみならず、その兒童に關係ある凡ゆる人又凡ゆる環境上の影響を含むのである。その兒童を中心として

これ等關聯をもつものは絶えざる成長、勉學の過程として従つてゆくののである。兒童の中に肉體的及び精神的健康と満足な社會的調整を促進する傾向のあるこれ等の原動力を發見し、發展させる爲に學校に於ては、尋常の兒童と家庭に重點が置かれるのである。

斯くの如く案出された兒童研究には二重の目的があるのである。即ち實際知識の増加と實際に兒童に適應し得る規則正しい原理の價格評定である。これ等の目的を促進させる爲には實行される方法が外觀的には實驗的であり、その處置に於ては教育的であるべきであるといふことが認められてゐる。大學がこの學校を共同經營の下に設立した理由は、學問的見地を、より密接に綜合することにより、新しい光が兒童發達の問題上に投げられるかも知れないといふ希望からである。

職員は通學中の兒童又は後に入學すべき兒童と接觸を保つのみならず父兄團及び相談會、家庭訪問等を通じて更に一般の家族の一團とも接觸を保つのである。社會的、教育的及び健康に關する公私の組織——それ等の活動は兒童訓練の分野に接觸してゐるのであるが——との協力の基礎が一般社會に於ても樹立されたのである。學校によつてなされる教授、調査の課程は斯かる接觸により實際の事情の現實と密接に結びつけられるのである。

教授課程——次に示す四方法が實施されてゐる。即ち、

- (A) 必要なる研究をも含む兒童研究の爲の高等科
- (B) 兩親教育に於ける指導者として職業的に働く人々の訓練
- (C) 兩親の爲の研究科
- (D) 在校兒童の訓練



屢々學校は經驗ある人々（一五人より二五人までの制限された人々であるが）の爲に、二週間の補充課程を置くことがある。これ等の課程は看護婦、教員、社會運動者、その他既に兩親の團體を監督した經驗ある人、又は兒童研究の原理や文獻について知りたいと望む人々の爲に計畫されたものである。この様な課程は只必要に迫られた時置かれるだけである。

兩親の爲には特別のコースが設けられてゐる。

「三通りの研究課程が兩親及びその他誰でも兒童の訓練に興味をもつ人々の爲に置かれてゐる。その第一は大學の校外講習部の主催によるものである。各々二〇の講演から成る第一、第二のコースは非常に有效なものである。即ち「就學前兒童」と「就學後の兒童」に關するものなのである。

その第二はセント・ジョージ學校 (St. George's School) 内で行はれてゐるものであり讀書、研究、討論等の爲の一〇の會から成立して居り、又個々の會員の爲に設けられた個人相談の機會も與へられてゐる。これ等は年長の子供をもつ兩親の爲の豫備課程である第三科、家族關係を研究する爲の第四科となつてゐる。

育兒學校に出席する兒童の親はその學校で實行されてゐる主義及び練習を知る爲に設けられた特別課程に出席することを要求されてゐる。これ等は第五、第六科となつてゐる。」

最後に特に結婚と家庭の責任の爲の教育に關する二つの専門學校課程について報告したいと思ふのである。

北カロライナ大學社會學教授アーネスト・グロヴス氏 (Professor Ernest Groves) は次の様に述べてゐる。

（註——一九三六年十一月發表、四九七頁の「アメリカ大學協會々報」(Bulletin of the Association of American Colleges) に據る。一九三六年七月號「兩親の爲の雜誌」(Parents Magazine) には「結婚の爲の教育」(Education

for Marriage) と題する同教授のより長文の描寫的論文が掲げられてゐる。）

「結婚と稱する課程は北カロライナ大學に於て過去十一年間に亙つて設けられてゐる。それは一番最初のものであつた様である。従つて現在では特殊の信用を與へる教授法により、結婚經驗の諸問題に巧みに直面してゆく様に大學程度の生徒を教授する最も古い試みであつたと云ひ得るのである。

人生に對する準備を生徒にさせるについて彼等の結婚や家族としての責任に直面した時の助力ともなる知識を正課として與へることは、州立大學の義務の一部であるといふ一部上級生の確信が基となつてこの課程は生れて來たのであつた。一委員がハリー・W・チェイス總長 (Harry W. Chase) (現在はニューヨーク大學名譽總長) を訪れ結婚に關する課程を設置する様に懇請したのであつた。チェイス總長は彼等の見解に共鳴し彼等の望む様な課程が既存課程に加へられたのであつた。彼等は結婚制度に關する理論的、社會學的討論には興味を持たず、結婚に關する専門の問題についての明確なる知識を求めたのである。最初からこれ等生徒の實際上の必要を満足させることを目標として教授はなされたのであつた。

この課程は選擇科目の一つとされ法律、醫學を學ぼうとする上級生にも下級生にも開放されてゐる。後者を選ぶ生徒の大部分は毎年この課程に入つてゐる。そして常にこの課程が學内最大のものとなつてゐる。最初それは男子にのみ限られてゐたが現在では男女兩方に開放され、彼等は別々のクラスに於て授業を受けてゐる。この課程の根源が最初から實際的で眞面目な目的を與へてゐる爲、これは生徒からも輕々しく病的に見られたりすることは決してないのである。

北カロライナ州に於ては、結婚に對する大學教育の思想が如何に堅實にたてられてゐるかを知ることが興味ある



トトである。ギルフォード大學 (Gulford College)、デューク大學 (Duke University)、ブラックマウンテン大學 (Black Mountain College)、ウェスタン師範學校 (Western Teachers' College)、イースタン師範學校 (Eastern Teachers' College) 等は州内に於て結婚に對する準備に信用ある或は信用の置けない教授を行つてゐる高等教育機關なのである。」

シラキュース (Syracuse) にあるシラキュース大學 (Syracuse University) の社會學科には結婚に關する一課程が置かれてゐる。

(以下——一九三七年一月十四日付社會學科のロイス・M・ジャック博士 (Dr. Lois M. Jack) よりの書簡に據る。)

「昨年の第二學期に始めてこの課程を受ける様選ばれた上級生に幾つかの講演がなされたのであつた。この課程には別に必要條件等はつけられなかつたのである。文藝部長により指名された委員により課程は定められたのであるが、その委員の中には大學内の種々なる部の者が集つてゐた、即ち心理學、醫學、社會學、生物學、家庭經濟、宗教その他であつた。その課程の中にはいろいろなものも主題とする七つの講演が含まれてゐるが、それ等は委員によつて選擇され、様々の分野の職員によつてなされた。その主題となるものに次の様なものがあつた。結婚制度の範圍及び種類、結婚に於ける健康的要素、求婚の情緒的狀態、結婚の情緒的狀態、家庭を作る技術、結婚の宗教的局、結婚に於ける經濟的要素等。

種々なる方面の職員、殊にその課程の處理を共にしてゐる醫者、精神病醫等と會議を開く機會が與へられてゐた。諸質問がまづ初期の學生だけの會に於て委員に提出され、理論上自分の研究範圍に含まれ、これを考察する責任のある演説者へと渡されるのである。同じ年の第二學期に再びその課程が開かれる前には多くの變化が計畫され

るがそれ等は報告するには余りに未完成のものである。

北アメリカ殊にアメリカが家庭に威嚴と安全を與へる爲に斷乎として組織化された努力をなしてゐるといふことは認めらるべきである。



# 初等教育部

委員長

世界聯合教育會理事  
ハリー・N・ペンリントン

書記

英國教員會々員  
グランヴィル・プライヤー

連絡委員

慶應義塾大學教授  
小林澄兄



初 等 教 育 部



記 書  
アイラブ・ルイヴンラゲ



長 員 委  
ントンリンベ・N・H



員 委 絡 連  
兄 澄 林 小



トイガイレ・E・ンヨジ



ンナリジンバ・トニベ

第一會議

八月二日(月曜日)午前十時半—午後零時半

會場

帝大三十一番教室

第二會議

八月三日(火曜日)午前九時—正午

會場

同 前

第三會議

八月四日(水曜日)午前九時—正午

會場

同 前





山龍 義亮



佐々木 秀一



堀 七藏



羽仁 とも子



小園 芳雄



奥野 宗住



ヘイラム・W・ヒルデスレド



初等教育部に於けるヘイラム・W・ヒルデスレド氏



流貫算珠部教育初一郎次音島田



## 第一會議

### 農村居住者・都市居住者の初等教育

英國 教育員會  
ウェールズ支部長

G・A・キャラード

最初に、初等教育とは如何なる段階のものであるかに就て私の考へを述べたい。我國では、五歳から七歳迄の間の子供の教育は幼児學校 (Infant School) と呼ばれるもので行はれる。七歳になると尋常小學校 (Junior School) といふものに入學するのが普通である。これは七歳から十一歳までの期間與へられる教育である。今日の私の報告はこれを初等教育として取扱ふ。

七歳から十一歳までの年齢期を正常兒童の身體發達上の著しい段階と看做す充分な理由が存在する。従つて、七歳から十一歳迄の兒童を一學校に包括することが最も望ましいと心理學的見地から主張する論者も多い。勿論農村地方では生徒数が少ない爲に、七歳から十一歳迄の兒童の爲に學校を別にし科目を別にすることは不可能である。しかし乍らこれ等農村に於ても事情の許す限りこの年齢の兒童を一單位と看做すことが望ましいと考へられて來た。そして、事情の如何に拘らず年齢によつて兒童の區別を明瞭になすべきである。斯かる見地から、英國文部省の評議委員



會は訓令を出し、事情の許す地方では幼年期に適する新教育の特別な知識と特別な才能を持った女教師をして幼年兒童の世話に當らしむべしとした。これによつて、幼児期以上の生徒を擔任する教師は、七歳から十一歳迄の兒童のもつ特殊な要求を知ることが出来、ひいては彼等のために、適當な教育方針を樹てることが出来るやうになると考へられた。

このことに關係して、幼児學校を出てからの過渡期には、非常に注意を拂ふ必要があるといふことを附言する必要があると思ふ。幼児學校に於ける兒童の取扱ひ及び教育方法から、次の段階たる初等教育（私は此の段階を初等教育とする）に於ける兒童の取扱ひ及び教育方法へ移るには、極めて徐々に且無理のない様に心懸けねばならない。この理由により、小學校低學年を擔任する教師は幼児學校の教育方法に就て多少の知識を備へることは不可缺のことである。

事實、幼児學校の高學年を擔任してゐた教師は、兒童が小學校へ上ると共に教師もそのクラスに持上つて、或一定の期間教へるといふことが時に有益な點が多いことは、實際に經驗されて來た所である。若しこれが實現出来ないとなれば、幼児學校と小學校との間の連絡を密接にする必要がある。小學校の教師は幼児學校の教師と深く接觸を保たなければならぬ。經驗の示す處に依れば、小學校及び幼児學校の教師が相共に會し、共通の問題を論じ、個々の生徒の進歩或は退歩に關する記録を比較することは最も望ましいのである。

斯くて、初等教育を受くる兒童の年齢期に就ての私の考へを明かにしたから、次に、これ等の生徒の教育とは如何なるものであるか私の考へを一層詳しく述べることとする。小學校の課程は、幼児學校の築いた基礎の上に建設すると同時に、中等學校の授業との連続の重要性をも考慮に入れなければならない。しかし、私の強調したいことは、我

私の主目的は、七歳から十一歳迄の兒童に對しこの發育期に兒童の肉體的、知的、精神的の健全な發育に缺くべからざるものを與へるにあるといふことである。尋常小學校は獨特の問題と方法とを持つた一組織體と看做されねばならぬ。尋常小學校は元來幼児學校に依存すると共に、又一方中等學校に通じなければならぬといふ事實が、或る程度迄方法や科目に影響を與へるに違ひないが、さりとて方法や科目を決定することは許されない。

一つの教育原理が過去數年間に特に強調される様になつた。これは口で言へば一見にして明瞭なことであるに拘らず、實行上看過されてゐたのである。即ちこの原理とは、——兒童に與へる教育はその際に於けるその兒童の要求に依て決定すべきであるといふことである。過去に於ては、兒童に教へる事柄の將來に於ける可能性、將來の價値に關心を持つことが多かつた。今日では、兒童にとつて直接に價値の無い事柄を教へることはたとへ益があつても微々たるものであるといふことが一層明かに理解され、教へた時に兒童の心身の自然的活動に何等關係がなく、生徒の經驗を照らし導く上に何らの効果もない思想を諄々と教へ込まうとするのは無益であり、危険であることを認識する様になつてゐる。

このことから私は次の如く述べたい。即ち、教育は單なる學校教育よりも廣い内容を持つてゐるといふこと。學校の仕事は、特に英國に於ては、それが如何にあるべきかといふ觀念を全然變化せしめるのではないが、少くとも改訂せしめる程の擴張を見たのであるといふこと。普通教育の初期の時代に於ては、兒童は家庭では學ぶことが出来ない特殊な事柄、殊に読み、書き、算術を習ひに學校へ行つたのである。兒童は仲間や年長者と交はることにより、又家庭、工場、農場等の仕事を仕込まれ乍ら、實生活の知識を得るのであつた。斯くて過去に於ける子供の教育は事實上學校内の生活よりも、學校外の生活に依存してゐたことが解るであらう。太古に於ては子供達は自分の民族に傳は



る風習、作法を正しく習得した。そして子供達が正しくこれを習得するやう、監督することが年長者の義務とされてゐた。

産業主義の發達する迄は、無形式教育（即ち家族内に、家族と共に生きるだけで得られた教育）が世界の大部分の國民の教育であつた。しかし、近代産業情勢の起ると共に、一大變化が我國に齎らされた。この變化は今日の情勢と百五十年乃至二百年前のそれと比較する研究者には明かに認められる變化である、同様の變化がアメリカに於ても明かに起つた。キルパトリック(Kilpatrick)がその著『變化しつゝある文明に對する教育』(Education for a Changing Civilization)に於て、過去に達せられたこの變化を圖を用ひて説明してゐる。

經濟機關としての家族の役目が非常に變り、従つてその教育的力も減退した。昔は家族が殆ど一切の産業過程を果して、たゞ足らぬものは近所の水車場と鍛冶屋に頼むだけ位のものであつた。これ等の産業過程が次々と工場に移つて、遂に少くとも都會地では相當の暮しをしてゐる家の子供達は主要な經濟過程は直接には殆ど知らなくなり、更に悪いことには、親達と一緒に仕事をするのが極めて少くなつた。父親は恐らく終日仕事に出、子供は一日の大部分は學校で暮す。夜、學校の勉強、映畫見物、自動車の遠乗り等をするのが現代の親子協力の全部なのである。勿論、母親が家庭外で働く場合は事態は一層不利になる。もつと悪くなると家庭は孤立的な個人が歸つて寝る場所となつてしまふ。勿論これは極端な場合であらう。しかし、殆ど總ての場合、昔の家庭の様に、子供に産業活動を教へ、或は經濟的、社會的活動の根本的理解を與へ、或は社會生活の根柢に横はる協力的な道德的、社會的態度及び習慣を作る教育的力を持たないのである。

斯くの如く、産業主義が社會生活の基礎を變化し、人々の生活は廣く、緊密な有機體に組織されて來たので舊式な産業的訓練と結び付いた教育は學校外では益々困難になつて來た。随つて、曾ては讀方を教へることを主眼としてゐた學校は斯くてその目的を擴張せざるを得なくなり、遂に學校は生徒に生き方を教へねばならないと言はれる迄に立到つたのである。

目的が斯くの如く根本的に變化を來たしたといふことは、必ずしも廣く認識されてゐない。たゞ徐々に受容れられて來たに過ぎないのである。従つて學校をしてその仕事をなさしめる爲に必要な變更を行ふといふことはながく實現せず、學校の眞の任務が變つて來たことを理解し得ない爲、學校が果さなければならぬ新しい任務に必要な新しい諸條件、諸施設を備へるに要する經費を支出することに非常な反對が生ずることにもなるのである。今日に於てさへ、多くの所の多くの教師は、學校は知識傳授の場所であると考へてゐる。今迄この知識傳授が非常に立派になされたことと、又この目的のために非常に有效な教授法が發見されて來たといふことの爲に、教育とは現在如何なるものであらねばならぬかといふ事情の變化を認めることが妨げられてゐる。學校と云へば教科課程が考へられ、教科課程と云へば多くの分科が考へられてゐた。

教科課程を知識の獲得、行爲の蓄積と考へず、寧ろ兒童の活動及び經驗と考へるのが小學校の任務に對する新しい考へ方であることを私は強調したい。その目的に兒童の内に根本的人間力を發達せしめ、文化生活に對する根本的興味を自覺まし、兒童期に於てなし得る最大限度にまで達せしめ、又兒童を鼓舞して、道德的、知的訓練の本質なる、自己の精力、衝動、感情の統制を得させ、又兒童を助けて義務觀念を發見、確保せしめ、又兒童の想像力と感應力とを啓發して、後年に到り兒童が生活と行爲との最も優れた模範を、理解し追求することが出来るやうにすることである。



この一般原理を念頭に置いて、實際に起つて来る種々の問題が我國に於て如何に解決されつゝあるかを示すことを許されたい。第一に、兒童の身體の健康と機能とに注意を向けねばならぬことが認められてゐる。このことは日一日と益々注意されてゐる。そして、身體の健康と機能とを作る主要素の中には、學校の施設の中では與へられないものがあることが認められてゐるが、過去十二ヶ月間に於て、總て兒童には適當な衣服、食物を與へ、正しい睡眠状態と睡眠時間とを與へ、且健康を増進する様な遊戯場所として充分な空地を提供してやる必要があることが特に強調されて來た。これが條件として家庭の状況に依るものがある。それ故、イギリスでは正しき條件を與へるには、まづ親の教育に就て色々となすべきことがあると考へられてゐる。學校は他の方面で活動をしてゐる。戶外學校の施設、又は半ば戶外學校式に開放される學校を作ることに一層注意が向けられてゐる。又體操も益々注目されつゝある。此處で恐らく一言説明を加へる必要があるだらう。今日、體操と言つても、單に或は單純に軍事教練の豫備といふ意味での體操を意味するのではない。イングランド地方、ウェールズ地方に於ては體操、遊戯は重要な役割を演じてゐる。文部省の規定してゐる體操、遊戯は、運動を通しての教育の素晴らしい一範例をなしてゐる。この運動は愉快であると同様に訓練的であることを私は大いに強調しなければならぬ、そして單なる身體訓練及び運動に止らず、端正な姿勢、優雅な動作の養成をも含む體育の必要なことが益々注意せられてゐる。斯くて、舞師が大多數の學校の課目の間に入りつゝある。この舞師は所謂民衆舞師として知られてゐる型のもので、古代英國民衆舞師であつて、音楽と結びついてゐるのみでなく、それ自身が單純な美しい音楽を表現するものである。同様に芝居、演劇も亦注目されつゝある。これはまだ十分自己意識が発達せず、遊戯心を持つ様になつた小學校時代の兒童には特によい。これは動作及び談話による自己表現力を發達させる好い機會を與へるものである。

斯くの如く身體の健康と機能とに一層注意が拂はれる様になつたが、一方言語訓練の重要性も同様に認識されるに至つた。言語訓練が從來でも常に重要な地位を與へられてゐたことは或意味で事實である。學校教育の初期に讀方と書方を強調することは、それ等が言語の使用と習得に直接關聯してゐる技術であるといふ事實に依るものである。近年の新しい發展は口頭の表現及び傳達を直接に使用することに一層多くの時間が割當てられたことである。兒童が母國語の完全な習得をする様にし、知識及び快樂の源として書物を自由に用ひる様にさせ、文を書いて自己の思想を自由に表現させる様に努めること程、小學校の役目として有益なものはない。しかし、それは、正確、明瞭な表現方法以上に進むことが必要である。この故に、口頭訓練に於ては、粗野な發聲、だらしない發言を嫌惡させる様にする爲に一層努力されてゐる。社會階級の分化が大いに言葉に影響するといふことが解つてゐる。このことは社會の風習に就ては尙更さうである。又音讀、詩の朗讀、唱歌、演劇等、行儀のよい言葉使ひの形式的修養をする好機會に一層注意が拂はれてゐる。

第三に活動及び經驗に就て話したいことは手藝である。これは二つの見地から考察される。圖畫及び手工の兩者ともこの部門に含まれるが、これ等は兒童の學習する種々の課目に極めて有益な貢獻をすることが多い。文學、地理、歴史等、實際總ての課目の授業が圖畫、手工等によつて促進される。このことは他の諸課目の勉強を助ける手段として考察した手藝の問題の一側面である。後になつて純粹技藝の一部をなすに至る或る特殊の性能の訓練をも行はないならば、手藝に含まれてゐる各種の訓練から最大の利益を得ることは決して出来ぬ。従つて小學校兒童の普通の仕事である紙細工は製本術の準備で、それが後には眞の技術に發展するのであると考へられる。棕櫚織り細工は打紐、帶、スカート等の手織に通じてゐる。これに密接に關係してゐる籠細工も後期になつて教へられる。



園藝もこの部門に含めて述べねばならぬ。我國に於ては小學校は何んなに狭くとも草木の植ゑられる庭園や場所を持たなければならぬといふ事が原則として考へられてゐる。

小學校に於ける仕事の第四の部門は審美的課目である。私は圖畫を手藝の一部として述べたが、(事實さうであるが)、審美的訓練及び審美的價値の見地から見て重要な役割を演ずることは明かである。裁縫についても同様である。何んな手藝を教へられるにしろ、兒童が自分の思想を表現せんとするに充分な技術を得られる様に進むことを許さねばならぬ。小學校の教科課程の缺くべからざる要素の一つである音楽については、恐らく名を擧げるだけで澤山だらう。私が上に述べた部門の中に屬すものとして分類されない他の學科が課程表の中に含まれてゐる。それ等は、文學、科學(これは植物、動物の比較的著しい特徴の研究、太陽、月、星の直接的な研究、又例へば船乗の羅針の動き等の如き著しい物理的特性の研究等を言ふ)數學(これは計算の外に日常の諸問題の解決の爲の實際的測量法、簡単な度量法をも含むべきである)、地理(世界の各國、其國民の生活様式に關する知識を含む。同時に地圖の製作と運用に親しませる)、及び過去の人々の話(これは後に歴史の研究に通ずる)である。

時間の都合上、この見るからに廣汎な教科課程全般を詳しく取扱ふことは許されないが、兒童の活動と経験を増進すると云ふことが全教育の基調でなければならぬことを力説したい。生徒の興味と日常經驗とを利用する試みを行ふべきである。時間が許すならば、私が知つてゐる各學校でこれが行はれてゐる方法を述べて見たかつたのである。序に、私の考へてゐることをなし得る方法としてプロジェクト・メソッド (Project Method) としてイギリス及びアメリカで知られてゐることを一言しよう。しかしプロジェクト・メソッドそれ自身は充分ではない。ウオッシュバーン博士の所謂、『道具』的課目——讀方・書方・算術——がある。これ等の課目はじっくりと系統的に教へねばならぬ。こ

れ等は將來の學習に缺くべからざる基礎である。規則的な系統的勉強がこれ等の課目に關して必要である。加之、或る審美的課目もその性質上、プロジェクト・メソッドの領域外に存する故に、それ等の學科にプロジェクト(實際計畫)に關聯する地位を無理につけるとその本來の目的を壞すことになる。しかし、これ等は小學校の兒童教育が如何にあるべきかの一般的論究の問題であるよりも寧ろ方法上の問題である。

扱、私の題目は二つの部分、即ち (一)農村地方、(二)都市地方に分れてゐた。農村と都市の相違は稍もすれば誇張され易い。この故に私は題目を其の區別に頓着せずして論ずる方法を取つたのである。制度と教授の基本的問題には農村、都市の區別はない。兒童の要求にも何等相違はない。教育に關心を有する人、特に經驗を積んだ教師なら誰でも農村地方の小學校には時に、特別な問題があることは知つてゐる。前に私は、七才から十一才迄の間の兒童に可能な課程表は幼兒學校で與へる教育の性質と範圍とに大いに關係すると述べたことが思出されるであらう。入學の遅れがちなこと、出席が不規則であること、或は通學の距離が遠いこと、或はしばしば教師の質が劣つてゐる等の多くの理由により、農村の幼兒學校の子供は都市の同年輩の兒童達と同様な出發點を與へられてゐないのである。加之、小學校の兒童數、即ち七才より十一才迄の間の子供の數が時には非常に少數なので、一組にしなければならぬこともある。しかし、個々の兒童への注意は農村地方でも、都市地方と同様缺くべからざるものである。農村地方では小人數のために個人個人への注意が一層容易に得られると言つた教師達もある。それは本當であるか無いかは兎も角、個人個人への注意が行はれてゐるといふことは解る。又優秀な兒童の妨げとなるものを除外し、同時に劣等兒の特別要求に適當な考慮を拂ふといふ必要な手段も取らねばならぬ。農村の小學校の兒童は都市の小學校の同年輩の兒童と比較して損をしてゐるといふ事實に眼を蔽ひはしない。このことはさりとて農村地方の教師達の業績が成功しなかつたの



だといふ意味ではない。これ等の教師の経験するハンディキャップ及び障害が非常なものなのである。私はこの様な教師達が斯かる大障害と戦はねばならないといふことの不當さを力説したい。そしてこの様な障害を出来るだけ多く、出来るだけ早く除去する凡ゆる努力を盡すべきであると主張したい。各地の教師が如何にして障害に打勝ち、ハンディキャップを減少して来たかといふことに私は非常な興味を抱いてゐた。若し私が過去の業績の一、二の例を擧げるならば大いに得る所があるだらう。北部地方に教師一人児童の平均出席十二人と云ふ小さな小學校があつた。児童を教科別に特別な組分にした。その教師は初めから児童に自ら勉強する様に訓練し、めい／＼の速さで進むことを許し、児童の側の個人的努力を最大限度に利用した。と同時に學校内に家族的精神を増進することの價値を充分に悟つた。児童は學校に入ると總ての児童が自分の本で自分で學習してゐるのを見て、自分も獨りで勉強出来る様になる爲に出来るだけ早く読み方を習はねばならないと考へる様になる。最初は教師は読み方に集中する。それ故、七才迄に普通の児童は讀書して知識を得ることが出来る様になり、獨りで勉強する力を與へられる。児童は年齢に拘らず能力次第で一層高等な本へ進むことが許される。適當な範圍をきめて児童は個々別々に學習する様に獎勵して、教師は順々に各組を巡つて注意を與へる。中部地方の廿一人の児童を持つた或小學校の校長の述べる所によると、その校長は児童の能力に従つて級を分けた。児童は或分團、或課目の學習を終へれば直ぐ次の分團に進んだ。しかし児童は必ずしも一學年中、總ての課目を同じ分團に居らねばならぬのではない。例へば、或児童は讀方はF分團(最上級)で習ひ、算術はC分團(第二年級)で習ふ。或は一児童は學年の初めにはC分團で讀方を習ひ、學年末には同課目をE分團で習ふといふ場合もあつた。この校長は算術と讀方(幼児は含まず)のために五分團を作り、作文と暗誦には三分團を作り、歴史と地理には二分團を作つた。音楽、體操、裁縫、手工はすべて一組にして行つた。

二人の教師の指導の下に平均出席者數三十人の或小學校では、一人の教師の下に十二人から十五人迄の平均出席者數をもつた小さな農村の學校と同様に個人の進度によつて學習させることが可能であつた。児童は各々自分の進度で各課目を學習する。そして、年長の子供が年下の子供の勉強を助けてやる。幼児級の初期から子供は簡単な本を讀み始める。算術、書方、作文に於て教師が生徒の能力と成績とに満足すれば一學級から他の學級へ進む。自學自修方法は幼児級を終れば棄る様なことなく、學校全體を通じて續けられる。幼児級からの轉科は普通七歳又は八歳の頃になされる。但しクラスを人數の上で平等にして置かねばならないから、毎年入學者數が異ると従つて轉科の年齢も異つてくるのである。勉強が個人的に行はれる場合が最も良い結果を得るといふこと、及び年齢に従つて小さい組に分けるといふ試みは概して不滿な點があり、児童の進歩を妨げるといふこと等が實際上判明した。児童が一緒になつて勉強するのは會話、言語練習、體操の時間だけである。一齊授業は児童が知識、言語、練習體操等を要求してると確に考へられる時、そして教師の注意深い訂正及び監督によつて補足される知識を児童が要求してると確に認められる時にのみ行はれる。

結論として、私は都市と同様な學科が農村地方でも行はれ得ると言はざるを得ない。「道具」的課目——讀方、書方、算術がある。これ等は將來の進歩の基礎であるから系統的に教へねばならない。しかし、プロジェクト・メソッドは各種の學校の教育を児童の経験に基かせ、児童の境遇に關係を持たせるために必要な便宜を供給する。農村で實際計畫として選ばれる題目は必然的に都市のものとは全く異つたものであらう。かうして児童の環境、直接的觀察の必要等に注意が拂はれることにより實際的経験と教育が正しく築かれるであらう。しかし、交通機關の發達した今日、恰かも學校といふものは生徒が全生涯を送るべき場所を決定する手段であるかの如くに、農村生活、或は都市生



活に適應する様に生徒を仕上げるために計畫された教育を與へようとしてはならぬと附言したい。教育は生計手段に關聯を持つべきではあるが、このことは小學校では行はれてはならない。此處で、生活様式について、且、出来る限り充實した生活を送る準備について力説したい。未來に對して關心を拂はざるを得ないが、さりとて未來のために現在が犠牲になつてはならぬ。されば兒童をして七歳より十一歳に至る間の年月を楽しく暮らせるべきであつて、これは未來の年月の樂しみのために準備をなすべき時期であると考へさせてはならない。このことは農村の兒童に對しても、都市の兒童に對しても同様に正しいことである。この理由で、私は教科課程に關しては實際經驗によつて差別をつけることをせず、この論題に於ては七歳から十一歳までの人生の一時期に關する一つの問題として取扱つたのである。

## 都會及び農村に於ける初等教育 (要旨)

文部省督學官 龍 山 義 亮

### 一、都會に於ける初等教育

都會は田舎の如く自然に恵まれず、ともすれば、人情風俗の敦厚を缺き、不自然な生活の爲に健康の損はる、等の

心配がないでもない。しかし學問、藝術、産業、交通等の文化の淵藪であるといふ點に於ては田舎に優ること著しい。かゝる生活環境の基礎の上に立つ都會の初等教育に於ては當代田舎の生活の長を採り、これを都會の生活の美點長所の伸展に資する所にその着眼點を置くべきである。現在都會の初等教育に於て特に施設せる主なる事項を擧げて見れば、(一)少年校外教護施設。文化の進展に伴ふ雜多なる都會的刺戟から兒童を保護する爲の施設、(二)映畫教育。常設映畫館に兒童が出入することに依て受くる好ましからぬ影響を防止すると共に映畫の教育的價值を利用する爲の施設、(三)交通訓練。交通道德の實行や禍害の防止に當らせる爲の施設、(四)田園解放。農村的田園的生活を味はせる爲の施設、(五)保護衛生。都會生活に伴ふ不衛生より生ずる害毒を防止する爲の施設、(六)體位向上。積極的に健全なる身體を育成する施設、(七)學校給食。都會の社會的事情より觀ての重要な養護施設、(八)精神訓練。都會生活に於て重視すべき又は動もすれば閑却せられんとする方向の訓練施設、(九)職業指導。都會人が種々雜多の職業に従事する爲必要ある施設、等がある。要するに我國都會の教育は幾多の困難な條件を克服しつゝ、着々進歩と向上の一路を辿りつゝあるといふことが出来る。

### 二、農村に於ける初等教育

都會が政治、經濟、教育、藝術、娛樂等凡ゆるもの、中心となるやうになつたとともに教育の普及發達が農村人士の自覺を高めた結果有爲の人材殊に若者達はどしどし都會に出でんとし茲に農村荒廢といふ恐るべき問題が惹起した。農村の初等教育者はこれを防止するに大なる努力を必要とし、今や公民教育、郷土教育、勞作教育等が農村初等教育として新なる重要な役割を持ち、新しい意味を以て見直されることとなつた。かくして農村から日本民族最高



の道義心たる忠君愛國の精神、剛健の意義を都會に送り込み、都會からは進歩の高峯にある文明的施設作爲を農村に攝取する交流作用が行はれること、なつた。随つて農村の初等教育は農村自體に對して重要な使命を果すと共に國家の隆昌、社會全體の繁榮に對して持つ重要な意義が考慮されて居る。

農村といつても平坦地と山間地と、海岸漁村とはその聚落の模様や生活状態が自ら趣を異にして居るから教育は各異つた事情に於て經營されて居るが、又農村教育には都會の教育に於て見ることの出来ぬ共通の特色がある。それは(一)豊なる愛情が自然に溢れて居ること、(二)全部一體の精神が種々なる行事を通じてあらはれて居ること、(三)兒童生徒が學習上同等の境地にあること等である。尙農村の初等教育者は多く村人と共に生活し教化の中心たることを以て、自ら任じて居ることも大なる特色である。しかし農村初等教育には教材の分量や經費の點に於て幾多の難點を持つて居る。しかし我國の農村の初等教育は最近異常の發達を遂げたことは何人も認むる所である。

## フィリッピン諸島に於ける初等教育

フィリッピン・リザール 官 べ ニ ト ・ パ ン ジ リ ナ ン

フィリッピンに於ける現在の公立學校制度は進歩の所産である。一八九八年、アメリカ駐屯軍によつて始められた

が、一九〇一年、フィリッピン委員會により法令第七十四條が發布されて、正式に設立された。この法令は爾來、フィリッピン學校組織條令として知られてゐる。この制度は一九〇一年に行政委員會によつて布かれて以來、着實に發展し、最近の公式統計によると一九三五年には、六、四三七の尋常小學校、一、二七九の高等小學校、一一四校の中學校があり、收容兒童一、三一九、〇四二人、フィリッピン人教師二七、七三九人、アメリカ人教師一六六人であつた。一九三四年度の學校のための政府經費全額は二二、九五七、九一九ドル八五仙であつた。この額は同年度の政府豫算金額の一割八分四厘五毛である。

フィリッピン人のどの子供にも少くとも小學校教育は無料で施さうといふのがフィリッピン共和國の目的である。一九三五年には初等教育を受けべき學齡兒童の六割六分八厘は公立學校だけに收容されたといふことは注意すべきである。若し私立小學校に入つた兒童を含めば、少くとも學齡兒童の七割五分が小學校教育の惠澤に浴し得たことになる。大都市に於けると同様、農村地方に於て現在の割合で新學校を創設してゆくならば、程なく、學齡期の全フィリッピン兒童が公立學校に收容され、斯くして、フィリッピン共和國の主要目的の一つである所の、各フィリッピン兒童に少くとも完全な小學校教育を保證するといふ目的が達成される日が来るであらう。

小學校制度の上級の三學級をなす高等小學に關しては、一九三五年度の調査材料によれば、高等小學へ入學資格をもつた兒童の五割三厘がその年收容されたといふことである。完全な初等教育を與へる學校は人口の中心地にあり、その他の地方の學校は殆ど一年乃至四年間教育を與へる小學校である。この狀況により、小學尋常科を終へた生徒の半數より少し多くの者だけが高等科に入つて勉強を續けることが出来るといふ事實が解らう。しかし、初等教育制度の擴張には着實な發展が見られた。又フィリッピン行政廳から支給される特別經費も年々増加し、來るべき十年間に



小學學齡期の全フィリッピン兒童に七年制を布くことにならうと期待されてゐる。何故なら、小學校に就學すべき年齢に達した新入生を收容するために、年々附屬の便宜が與へられてはゐるが、フィリッピン兒童の全部が完全な七年制初等教育を得られる様にする爲に大いに擴張するといふことが共和政府の案であつたからである。

現在の初等教育制度は七年間の教育から成つてゐる。即ち尋常科四年間と、高等科三年間である。尋常小學校の一般目的はフィリッピン兒童を實際的な國民に仕上げることである。この目的を達成する爲に尋常科の課程では基礎的教育を與へる。即ち讀方、書方、算術の能力を與へる。兒童は健康基本的法則を學び、自國の歴史、地理を知ると同時に、共和政府の一般的事業をも知る。尋常科の第四年級では、普通の教科の外に、初めて小規模の園藝作業、或は農作の團體的作業等を行ひ、自分の家の庭で野菜や果實を作つたり、小鳥、魚、鷺、七面鳥、山羊、豚などを飼養したりする。

前述の如く尋常科は四學年ある。第一學年では、一週に十三時間二十分、一日に二時間二十分を英語の勉強に當ててゐる。他の教科に對する一週の時間表は次の如くである。算術二時間三十分、音樂一時間四十分、圖畫一時間十五分、書方一時間十五分、性格教育、公民教育等に五十分、健康教育に五十分、體操に三時間十分。第二學年では同じ學科が續けられる。但し、英語の時間は一週十三時間二十分から十五時間廿五分に増し、數學の時間は、一週二時間三十分から三時間二十分に増す。第三學年に於ては、郷土地理一週二時間三十分、初等理科二時間五分が加へられる。英語の時間は一週十一時間十五分に減する。第四學年に於てはフィリッピン地理とフィリッピン歴史(話と傳記)が郷土地理に代り、園藝、農作の團體的作業が加はる。第一學年の一日の授業時間は四時間五十五分、第二學年は五時間三十分、第三學年は五時間卅五分、第四學年は五時間四十分である。

斯くて、尋常科の課程は、代議制民主主義の實際的國民たるに必要な教育をフィリッピン兒童に與へることを目的としてゐることが解るであらう。フィリッピンの如く若き仲びつ、ある國家が將來この國の健實なる發達を企圖して文化國民の基礎を定めるに缺くべからざる根本的知識、技能、習慣、態度思想及び行動の理想等を兒童に與へるのがこの小學校である。

高等科の教科課程は元來尋常科の國民養成目的を更に強化すべく作られたのである。最初の課程は、一九〇四年に出來たが、その後時勢の變化に應じて當然多くの變化をなした。一九〇九年から一七七年にかけて、社會の要求に應じて、職業教育的に變化し、中等學校に通ずる一般學科の外に、農業、商業、家政、家事を教へる課程が別に作られた。この特別課程は、中等學校に行けない普通の兒童で生計を得る準備となる様な課程を取る方が有利だと思ふもの爲に作られたものである。一九一七年から現在に至る迄、しばしば社會狀勢の變化に伴つて改訂が加へられ、職業的性質の課目は次々に排除され、現在では高等科程度的一般課程と、商業、農業のみ残つてゐる。

現在の制度では、高等科の一般課程に英語一週八時間廿分、算術三時間廿分、社會科學三時間廿分、音樂一時間四十分、書方一時間四十分(但し、第五、第六學年)、男子のための工藝、園藝、團體作業等六時間四十分、裁縫、料理、家計、食料選擇、食事、育兒等を含む家庭經濟六時間四十分、男女共通に圖畫一時間廿分等である。第五學年、第六學年に於ては、性格教育に一週四十分、健康教育に一週一時間を割いてゐる。第七學年では、毎日四十分、即ち一週三時間廿分を健康教育に割り、毎日廿分、即ち一週一時間四十分を性格教育に割いてゐる。

一般的課程は凡そ群島全般の高等科で行はれてゐる。商業、農業は僻陬地方の授産學校だとか、高等科と中等學校とを併せ有する若干の地方商農學校とかに行はれてゐる。



高等小學校の商業科では英語を一週八時間廿分、算術三時間廿分、但し第七學年に於ては二時間四十分減ずる。圖畫六時間四十分、木工、鐵工、自動車修繕、金屬板作業及び他の類似作業を含む作業科は第五學年六時間四十分、第六學年第七學年十時間、性格教育四十分、第五、六學年の健康教育一時間、體操三時間四十五分。第六學年では一週一時間四十分、フィリッピン歴史及び政治の學習に割り、測量に一回、一時間廿分、圖畫に二回、一時間廿分づつ割いてゐる。高等小學校の農業科に於ても同じ科目が與へられてゐる。但し作業の代りに農業及び耕作が一週最小限度十時間教へられる。

以上は初等教育に對する共和政府の教育政策に従つてフィリッピン小學校で行はれてゐる事柄の梗概である。科外課程とも稱せられる様な學業があるが、これは實際は教場で教へられることと關聯してをり、その補助である。これ等の活動に就て簡單に述べて見たい。

『學校自治へ兒童の參加』——この活動は有機的活動に兒童を訓練し、責任感を養成し、權威に對する尊敬の念を起させ、社會（この場合では學校）の一員としての兒童の權利を行使すると同時に正當な法律、規定を正しく遵守するやう生徒を訓練すること等が目的である。

擔任教師の指導の下に兒童の自治會を作り、全生徒がその會に加入することが出来る。この會の仕事には次のものがある。

- 1、廊下、或は教室への出入、或は運動場に於て秩序と規律を守ること。
- 2、學校の規則を守ること。校内が清潔に保たれてゐるかどうかに注意すること。又樹木やその他の校内裝飾物の手入れが適當に行はれてゐるかどうかに注意すること。

3、教室内の注意と整頓。

4、所在の役所を訪問して、各方面の行政の事務を觀察すること。

5、生徒間の裁判所。生徒自治會により布かれた規約の違反者をこの裁判所で訊問し、判決を下し、學校の規定に依て罰すること。教室内の級長がこの裁判長に任命され、彼等の行動は嚴密に擔任教師に監督される。

『學校圖書館、及び博物館』——各小學校に學校圖書館が設けられてゐる。これは主として、學年初めに圖書館料金として集められた基金に依るのである。一九三五年度調査の材料によると、その年にはフィリッピン小學校に三、五四一の圖書館があつて、七八七、二六九冊に達する本があり、一、三一八部の定期刊行物があつた。即ち小學校兒童に一人に對し一冊平均に當る。

高等小學校の圖書館は一九三五年には一、一八六館あり、一、二四七、四八六冊の本があり、六、八五九部の定期刊行物があつた。即ち生徒一人に對し平均六冊、百人の生徒に對し平均三部の定期刊行物があつた譯である。

學校博物館は通常社會科學、初等理科教授の科外授業計畫として、圖書館と關聯して經營されてゐる。これ等の博物館では、フィリッピン歴史の各時代、工業、農業の各方面に於ける發達段階を示す如き各種の陳列品が見られ、これ等陳列品はフィリッピン歴史の研究に關聯して利用される。又フィリッピンの植物、昆蟲、爬蟲動物、及びフィリッピン近海の各種生物等の標本もこの博物館に陳列され、初等理科の授業に利用される。

『少年團』——フィリッピンに於ける殆ど總ての小學校にその學校の兒童より成る少年團が出来てゐる。これは體育と共に性格教育の課程に關聯する主要活動として存在する。少年團運動の性格陶冶に於ける効果及び國民としての實際的訓練は萬人の認める所であり、この活動は小學校の科外課程中最も正規的なものやうになつてゐる。



『健康活動』——小學校の重要な仕事の一つは兒童の健康増進である。大きな小學校には學校診察室が設けられ、公認健康醫、或は學校看護婦によつて身體検査を行ひ、必要に應じて適當な施療をも行ふ。比較的小さな學校では、應急手當教員が應急手當室を擔當し、この教員は學校或は農村地方に巡回して來る赤十字看護婦によつて、仕事を絶えず助けられる。一九三五年には三八三、六八五人の兒童が校醫に診察され、七、七七九、四一六人の兒童が學校看護婦に診察された。學校診察室で手當を得た生徒數は六八五、〇九六人であつた。この仕事は學校看護婦、應急手當教員、公認健康醫、看護婦、赤十字看護婦等共同の下に行はれたのである。

この看護事業の他に、少年赤十字社によつて行はれる齒科診察があり、一、一九四、七一二人の兒童が會員になつてゐる。フィリッピン少年赤十字社は専ら學校の會であると言つてもよいのであつて、教育局の指導下におかれてゐるが、アメリカ赤十字社の一部でもある。一九三五年には兒童の寄附金が二、六四四弗二六仙に達した。この金は専ら有能な少年赤十字社齒科醫の擔任する巡回齒科診察所の資金に用ひられる。これ等の診察所は教育當局で計畫した豫定により學校から學校を巡回する。一九三五年には一一四人の齒科醫が用ひられ、四九八、五七三人の兒童が齲齒豫防の手當を受けた。



一ロビンソン市・赤十字社

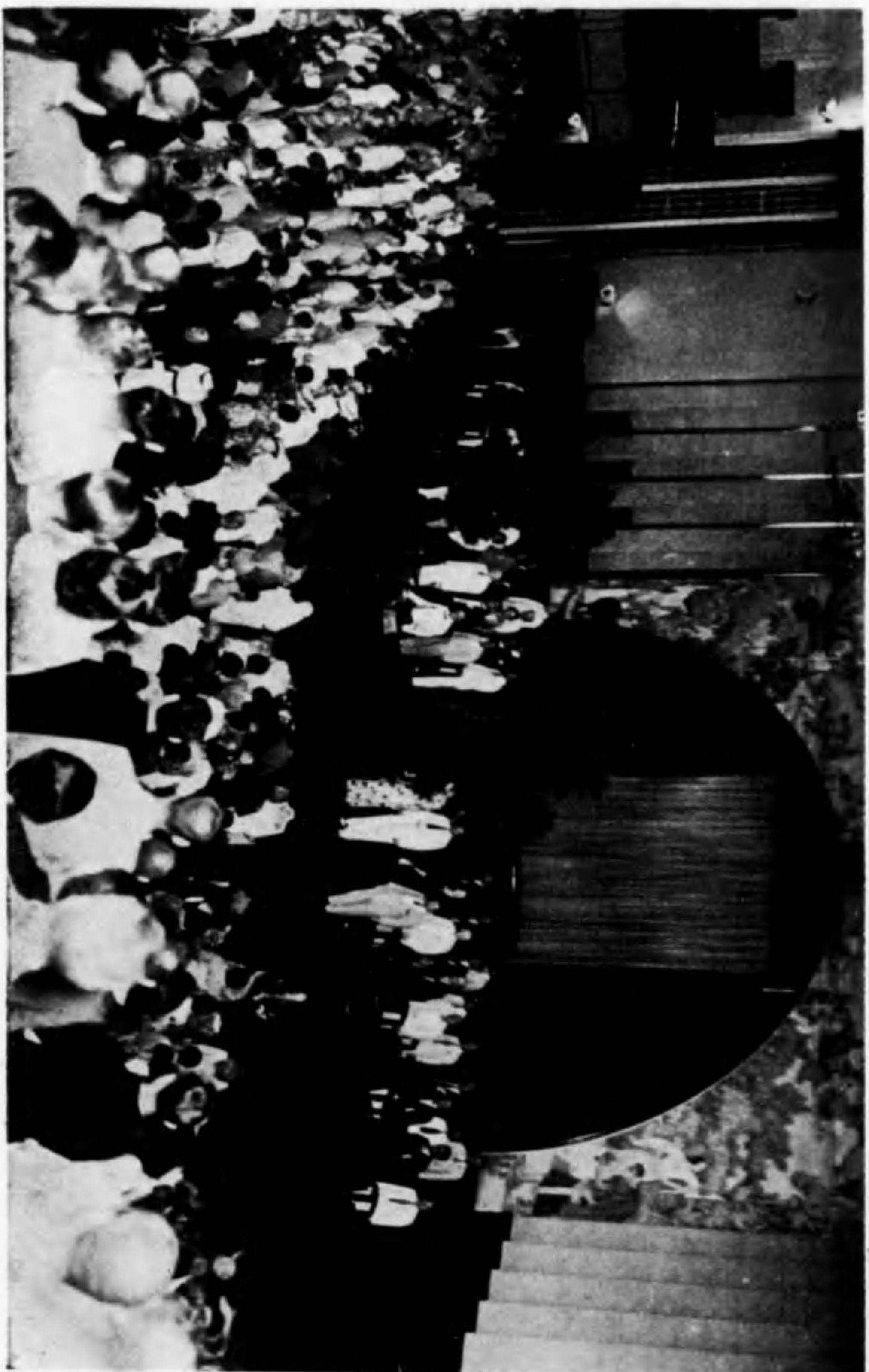


一ロビンソン市・赤十字社



一ロビンソン市・赤十字社





令 器 三 第

## 小學校に於ける手工

英國教員會 H・ハンフリー

現代教育の最も顯著な進歩の一は、簡單な形式の美を鑑賞、製作する才能がどんな兒童にでもあるものだと言ふことを發見したことである。兒童の純真さをそこなはないでよく指導する方法を心得てゐる教師から勵まされると、兒童の圖畫、手工、音楽、童話の成績は一般に興味深いものであり、時には驚嘆に價する程勝れてゐることもある。

### 小學校 (The Junior School) に於ける手工の價値

幼年期の兒童の圖畫と手工は、自然的衝動と自己表現との結果である。兒童の圖畫は自分の觀察したものを表現する爲に描くのでは無くて、自己の知識及び感情を表現する爲に描くのである。兒童が素材をいぢくり廻してゐる時彼は何か非常に立派なものを作り出さうと努めてゐるのである。勿論それが何であるかは彼自身には分つてゐるが、彼以外の者には全く不可解なものである。兒童が幼年期から少年期へと移り變る際に無理な飛躍をやらされると、その美的發展は致命傷を受ける。そして作品を型に入れ形式化しようとする、兒童の素材を自由に使ひこなさうとする働きを減茶々々にしてしまふ。幼少な兒童の圖畫にいつも表現される勇氣と自由と、活々した想像は影をひそめて、



苦しい暗澹たる努力のみがあらはれて来る。そして何か價值あるものを作つてゐるのだといふ信念は失はれて無意味な面倒くさい仕事ばかりが残り、かくて兒童の創意を奪つてしまふこととなる。

或る小學校には今猶純然たる形式的方法が用ひられてゐると云ふことは、深く研究し大いに注意しなければならぬことである。多くの教師達は繰返し／＼徹底的に「練習」をやらせて、兒童が機械的に出来るやうな習慣を得させる迄にならなければならぬと考へてゐる。そして機械的技術を或程度迄發達せしめる練習が工夫されてゐる。この練習に熟達すると、次に一層複雑な過程の練習がまた課せられ、そしてこれが更に機械的になる迄繰返させられるのである。例へば音階、五指の練習、九九の表、不規則動詞の様な、かう云ふ練習は訓練的價值をもつてゐるもので、これがなくては確實な作業が出来ぬと考へられてゐる。又その練習は兒童には如何に無意味であり、不愉快に見へようとも、價值ある道徳的訓練として有效なもので、それが無くては高等なところへは結局到達することは出来ないと思へられてゐる。ここで暫く高級な機械的完全さの價值を一考して、且これと教育的價值、即ち自己が作らんと熱望してゐる物の作成に熱中してゐる兒童の愉快な目的的活動とを比較して見よう。

機械的訓練の目的は既に考察した如く習慣を作り、即ち與へられたる一定の状況の下に於て筋肉を自動的に働かせるやうに教育することである。換言すれば、習慣とは兒童の習熟した状態のみを取扱はせることである。習慣は反覆から生ずるものであるから、新たな問題に接するには不適當である。丁度これは手を取つて教へる教育は、創意と獨創といふ見地から見れば何らの價值を持たないのと同じである。生徒に手本を示して全クラスがこれを實行してから次へ進む教師、巧者な生徒を待たせて、不器用な生徒をせき立て自分が指圖したことだけをその通りに全クラスに眞似させる教師は、自分では或程度の満足を得るかもしれないが、そのクラスの生徒は知的刺戟といふ方面に於ては、

何ら學ぶ所がない譯である。しかも小學校の手工教授に於ける本來の目的は正しくこの知的刺戟であることは確かである。若し兒童が到達したいと思ふ目標を目の前に明確に持つてゐて、その目的を達成する爲の自己の方法を案出することが許されるならば、兒童の全精神はその問題に對して働くことは疑ひ得ない。

バラード博士 (Dr. Ballard) が述べた如くに

「斯かる生徒は最も高級な學習をしてゐるのである。これこそ眞の仕事と云ふもので、兒童の身體と精神とは全一體となつて働くのである。兒童は課業に興味を覺え細かな注意を拂ふ。一寸でも注意を動搖させると作品を仕損じるであらう。間違が明白になり、自から訂正するやうになる。字の綴り、算術又は歴史の事實の間違は、その兒童にはピンと感ぜない。又間違が發見されても大した關心を拂はないのが普通である。けれども、手工に對しては異つてゐる。兒童は間違を見つけると苦惱を感じ、次には一層注意深くしようと決心する。實際凡ゆる高次の思考過程がこの仕事に含まれてゐる。反省的又は論理的思考が必要である。觀察、識別、想像、判断——等總てが使用せられる。」

小學校の女兒の工藝の最も重要な形式の一は裁縫である。聴衆諸君の中にはあの無味乾燥な裁縫教授を想起される婦人の方も少くはないでせう。即ち指ぬき訓練、運針訓練、かがり練習、更紗の小布に無意味に一針づつ何百回も縫ふ練習、型捺し練習、フランネルの靴下の編物練習、女兒が裁縫を嫌ふのは少しも不思議なことではない。今日はどんな女教師もかゝる方法でこの課を教授しようとは夢想だにされないであらう。裁縫は最初から確固たる目的に直ちに到達するやうに指導する構成的練習である。幼い女子は少しばかりの材料と色のついた糸で自分の好きな方法で作業する。もしも手工が眞に教育的價值を有するものとすれば、小學校の手工、工藝の教師は女教師が裁縫に於て達した點に迄、到達するよう努力をしなければならぬ。



## 小學校に適當な作業の種々

幼兒學校の自由手工から、小學校の手工教授の固定的の方法へ移る際急激なる變化があつてはならない様に、この時代の圖畫、手工、一般學科の間に、嚴密な區別をしてはならない。意匠文學、リノリューム版、圖案は手工の授業中に作つた吸取紙帳、便箋、カレンダー、文書綴り、紙挟みの裝飾の爲に使用されることが出来る。刺繍の意匠は裁縫の時間に作つた物の裝飾の爲に使用されることが出来る。凡ゆる種類の模型は歴史、地理、理科の説明の爲に、背景の布、場面、舞台の道具は劇及び文學の爲に、風琴などの簧管は、ダンスと音楽の爲にそれ／＼使用されることが出来る。

低學年に適當な作業の範圍は、高學年の範圍よりもさう狭く考へられてはならない、手工の教授に於ける初期と後期との相違は種類の差でなくて程度の差である。故に低學年で始められない手工は無いのである。たゞ道具によつては取扱ひに困難なものもあり、危険なものもあること、又材料によつては扱ひにくいものもあると共に、中には土地によつて手に入れるに困難なものもあることを常に念頭に置けばよい。

手工室や圖畫の特別室に恵まれた小學校は多くはないけれども、擔當教師に才能と熱心さがあれば、普通教室を片付け、必要な道具や設備をして作業に適する様になることが出来るのである。若し兒童が道具材料を置けるだけの廣さのある机で作業が出来、又若し餘暇のある時自分獨りでやれる様な所に未完成の作品を置いておくことが出来、更に若し自分の大切な所持品を一々持つて歸る必要がなく、或程度の注意を拂へば完全に保管され、來週の時間迄取亂される心配がないと知るならば、兒童の心の状態は全然異つたものになるのである。

小學校の一年生後は手工に統一を齎す試みが行はねばならない。幼兒學校のやうに材料及び作業を無分別に使ふことから、徐々に一層統制された形式の作業に入るべきである。この統制は兒童の觀察、測定、技術の發達に則して行はるべきであつて、教師の獨斷的な命令に依て行はるべきではない。四つ五つの手工を亂雑に不器用に試みる代りに、傳統的の手工の一つか、精々二つを選択するやうにしなければならない。その傳統的手工に於て兒童は技術を磨き、又それを通して兒童はそのものが擔つてゐる價值ある結果を生産することが出来、又傳統的手工は兒童の發達しつゝある辨別力を満足させるであらう。勿論教師の興味と手腕とに關係する事が多い。小學校ではこの科目の爲に専門の教師を任命することが不可能であつても、凡ゆる努力を拂つて、あるだけの才能を充分利用せねばならぬ。例へば教員の中に書物の装幀と紡織とに熟練せる者がゐることもある。この二つの何れの課業も低學年に於て必要とするものである。即ち、立派に考慮された計畫であつて徐々に進行し、遂には正眞な傳統的な手工の基本過程に熟達せしめるものである。紙や原紙で模型をつくる初歩的作業、書籍装幀も、最後の作業の一部を成してゐる。装幀を含む多くの事柄は、紙の家具や箱などではなく、曆、便箋、箱、吸取具、吸取紙帳、書綴、書綴帳などの様な實際的で且有用な方面のものである。裝飾作業、意匠、皮紐をつけた軟皮の作業、リノリューム版、及び意匠文字は、作業に變化や美及び個性を與へる。美術科と算術と連結した作業に依ては兒童は測量、折疊、正確に綿密に線を引いたり、描いたりすることの價值と必要とを學ぶであらう。一方算術と幾何の理論を實際の問題に應用して實際の價值を學び得る。簡単な物體を立體的に寫生する能力、四邊形、圓、六邊形及び八邊形などの平面的の形を描く能力、又圖畫の際コンパス、定規等を用ふる能力は兒童が小學校を卒業する時迄に得させることも無理ではない。兒童はこれ等の技術が、自己の書物を装幀する場合如何に重要なものであるかを知り、兒童は自分の正確さと精密さとに喜びを感じる



であらう。

織物が選ばれることがある。この場合は児童は幼児學校で原紙の型に羊毛の絲と、棕櫚の纖維とで細工をしてこの技術の若干の基本的形式を學習するであらう。この作業は眞田紐の編み方や、小さい温床とテーブル織機の帶や巻く布を織る作業に導くことが出来る。これ等のものは児童自身が製作し得るやうな簡単な構造のものである。織機の用意、たて糸の準備、梭の仕度等をして豫定の構圖模様を作ること含まれてゐる簡単な練習は、織るといふ實習の過程と共に傳統に沿ひ、歴史的聯想に富む仕事である。

裁縫と編物とは織物と密接に結合して居り、この三種の作業は女兒の手藝教育上有效なもので、この基礎の上に高學年の手藝過程がうち建てられるのである。男兒には籐と柳の籠細工が織物の普通の形である。しかし品物の數に變化を與へる様に容易な木工作業を結合すべきである。又粘土細工は形體の鑑賞の訓練には最も善い方法であるが、粘土の様な材料に限定されるならば小學校の低學年以上では餘り價値はない。作業に現實性を持たせるには釉藥、陶土を使用させ、焼く爲の竈を備へつける必要がある。

小學校には如何に狭くてもよいから園藝をやらせる場所を設けねばならぬ。都市の古い小學校ではこれには種々困難が伴ふが、若し教師が賢明で辛捧強く努めればこれを克服することが出来るであらう。土地の耕作は最も古く且最も有效な技藝であるからこれは有益である。簡單で容易な作業のみを試みるのは當然である。即ち八、九歳は花壇、九、十歳チサ類。最終學年にはその他の野菜と果樹とを少し加へる。道具は手輕なものをを用ひる様注意せねばならぬ。即ち、熊手、鋤、小さい鋏、提荷及び繩であるが、児童は種子を播き、間引をし、移植し、雜草を除き、鋏ですき、水をかけたりその他の手入をすることを習得するであらう。庭園は児童に生活の根本的原理や成長を教へるだら

うし、教室の授業よりも遙に自然研究の實驗の機會を提供するものである。但しこの年齢の児童には庭を分割して児童に別々に實驗させたり、收穫させたりしないで共同作業にした方がよい。そこで庭園の作業は教室の算術、技藝、手工の授業と結合する。ふち取りの圖案、一年中花を得る種を播く用意、小道と土地と芝生との配合の測量と計算、播種する爲の箱の構造等はこれ等の學習と相關關係があり、どの課業でも學ぶことが出来る。多くの小學校に於ては築山を造つたり、鳥に水浴をさせたり、巢箱及び日時計なども児童の扱ひ得る範圍内にある。

實際若し學校の全活動が學校庭園に集中されるならば、その他の手工をやつてゐる餘裕はない程であらう。

美的鑑賞の發展。大抵の幼少な児童に見出す美と律動と形體に對するこれらの自發的衝動の微妙にして注意深い訓練、書物學習の眞實の價値を児童が見出す教育的興味を生ける中心を發見すること。それらは小學校の圖畫及び手工の教師の目指すべき目的であり理想である。若し教師がそれらを達成するならば、その影響は全課程に及び、結合的動力となつて児童をして教科課程の各部門の間の相關關係を了解せしめることが出来るであらう。



## 日本小學校に於ける

### Art and Handicraft Education (要旨)

慶應大學教授 小林澄兄

日本小學校に於ける Art and Handicraft Education は主として圖畫、手工、裁縫の三教科によつてその目的が果されてゐる。それ等が小學校の教科となつた年代順は、圖畫科が明治五年、裁縫科が明治十二年、手工科が明治十九年である。

(一) 圖畫科は最初小學校上級に、次で中級に、明治三十三年からは全體に課せられることとなつた。その教科書は西洋風の「野畫本」、「圖畫楷梯」等を初期のものとし、「新定畫帖」によりて初めて日本畫の様式が採用され、且、圖畫科の教育意義が的確に示されたが、しかし依然として教科書の模寫を主とするに傾いたので、反動的にはゆる自由畫教育が行はれ、更にこれに對して「小學圖畫」が出版され、次第に圖畫教育の本道を辿りながら今日に至つてゐる。

(二) 手工科は高等小學校に於ては大正十五年以來必修科目となり、尋常小學校に於ては今猶加設科目である。手

工教育はしかし生理的、心理的、社會的、經濟的根據からして重要な教育任務を有つてゐる。即ち手工教育は實用的に價値があるが、一層高次の目的のためにも輕視されるべきでないといふことは一般に認められてゐる。

(三) 裁縫科は明治四十年以來尋常小學校に於ても必修科となつたが、事實上はその以前からも重視された。西洋の裁縫科とは異り日本のは家事科から區別されて居り、和服、洋服ともに教授され、且、日本特有の衣服が取扱はれる所に特異點がある。教科書は大正五年に出版され、昭和七年に改訂された。裁縫教育の方針は圖畫科や手工科と同様文部省訓令「施行規則」に明示されてゐる。

## 第二會議

### 我國初等教育に於ける道德教育(要旨)

東京高等師範學校  
附屬小學校主事 佐々木秀一

私はこゝに數分の時間を以て我國初等教育に於ける道德教育の大綱に就て簡単な説明を致し度いと思ふ。

諸君に差上げてあるパンフレットには、この方面に於て現に行はれて居る仕事並びにその原理が記載されてある



ので、只今詳細にこれを説明する必要はあるまい。既に印刷物になつて居ることを單に繰返して述べるのは時間の浪費にもなるので、結局最善の方法と考へて西歐諸國に於ける修身教授と、日本のそれとの相違して居る若干の根本的な問題を採つて説明したいと思ふ。斯くすれば東西兩者が明瞭に對照されて、諸君にも興味を惹く題目となり得ること、信ずる。

西歐に於ける道德教育は、原則として宗教教育と密接に結び附けられて居り、國家の領域と云ふよりも教會の領域に屬し、教師の職務と云ふよりも僧侶の職務の如く考へられて居る。西歐に於ては、道德は學校の正課でないと云つても誤りではないと思ふ。或は公民科が最もこれに類似した科目であらう。然るに日本の事情は全くこれと相違して居る。我國には國教と云ふものはない。日本臣民は何人も憲法に依て、信仰上の完全なる自由を保證されて居る。それ故に特定の宗教の教義とか信条とかは、我國の官立學校に於ては教授されて居ない。この理由の下に我國の道德教育は、宗教教育から完全に分離して居る。

諸君に取つては、何が故に我國の學校教育に於て、修身科が特定の教科目として採擇されて居るかと云ふ理由は、我國に特有な政治的、社會的構造を會得しなければ容易に理解し兼ねるかも知れない。日本の政體は文字通り父長政體である。建國以來、日本臣民は、何れも 天皇を國民全體の尊き父と仰ぎ、事實國民は、 天皇を父長とする一大家族なのである。この故に日本に於ける孝は、他の諸國の場合よりも遙に廣い意義を持つ徳となつて居る。従つて孝は忠及び愛國心と殆ど同意義のものと云つても差支ないのである。

我國に於ける道德教育の最も重要な特色は、教育に關する勅語の中に示されてあるが、これには諸君が充分に留意されんことを望む、この勅語は、今より四十六年前、 明治天皇が發布されたものであるが、我國の道德教育の大本

は、實にこゝに規定されたのである。諸君はこの勅語に示されてある多くの教訓は、「道」と呼ばれてあることに氣附かれるであらう。これは實に人間の生活の方法、即ち、若しこれを忠實に遵守するならば、完全に達し得るところの道を意味するもので、我々日本人はこれを「古今ニ通シテ譯ラス是ヲ中外ニ施シテ悖ラサル」と信じて居るのである。これらの教訓は我國固有の道德を表し、日本をして今日あらしめたものである。

ペルリの「黒船」來朝を契機として、西歐諸國との交通が開かれてからは、我國は政治的に社會的に大變動を惹起したことは、今更喋々する必要はない。このペルリの來朝に依て生じた大變動は、苟くも日本の歴史を繙くものは何人も知るところで、數世紀間の鎖國時代の後に、突如として流れ込んだ西歐の物質文明、新思想、新道德は、全く革新的な影響を惹起し、その影響に依る危険も實に大なるものであつた。そこでこの危険を克服する爲に、修身科と云ふ特定の科目が設けられるに至つたのである。

青年と云ふものは何處の國でも同じで、新しい思想に魅力を感じ、容易くそれに影響されるものである。今日、コンミニズム等の危険思想擴大を警戒する必要がある如く、明治時代の當時に於ては、行き過ぎた西洋崇拜や、無分別な西洋模倣に捉はれて、我國固有の道德習慣及び國體に反するが如き思想を、大いに警戒する必要があつたのである。

歐洲大戰後英語の辭書に、「トタリテリアン」(Totalitarian)と云ふ新語が現れて來たが、若しこの「我國初等教育に於ける道德教育」と云ふパンフレットを讀んで、日本は全體主義の國家であると斷じられるならば、それは誤りである。日本の學校に於て施されて居る道德教育は、統制を意圖するものではなくて、たゞ親切丁寧に指導することを目的とするものである。即ち、道德的訓練に依て生徒をその祖先の遵守した「道」に向はしめるのである。この「道」が完全なものであると大膽に主張しない日本人は一人も居ない。兒童は何れも個性を持った存在であり、そし



てこの個性は尊重されて居る。しかしアングロ・サクソン民族國家に特有な個人主義は、日本の社會生活に於ては見られない。日本に於ては、個人よりも家族を重んじ家族よりも更に國家を重視する。

この簡単な説明を終る前に、今一つ、我國の道德教育に就て強調したい點がある、それは即ち、修身科と云ふものは獨立したのではなく、各教科目と密接な關係を有ち、學校生活と深い關係を持つて居ると云ふことである。各教科目の讀物を選択するに當つても、道德的要素を顧慮することを忘れず、生徒の運動娛樂の如きものに於てさへも、この點を見落しては居ない。近年復興して來た——パンフレットにも述べてあるが——日本古來の武道即ち劍道、柔道、弓道等に就ても、諸君の注意を促したのである。これは一見軍國主義的な精神を教へ込むやうにも感ぜられるが、實際は決してさうではない。それはかの有名な我國古來の武士道の諸徳、即ち忠義、廉恥、鍛錬、老幼に對する敬愛、堅忍不拔等の諸徳の發展を鼓吹するものである。

日本は地理的に見て西歐諸國から頗る遠く離れて居るので、日本の眞意、眞相を公正に認識することは非常に困難である。こゝに私がパンフレットを作製して、それを簡單ながら説明しようとした理由があるのである。

諸君に於ても何卒、今年諸君をお招きする光榮を擔つた我國の眞相をより確實に、このパンフレット及び私の説明に依て把握して下さいならば、私に取つては望外の幸と思ふ次第である。

## 現職教員の訓練

カナダ、トロント視學官  
世界聯合教育會理事

D・D・マクドナルド

### 一、序 言

諸君の中には記憶してゐる方もあらうが、一昔前は教育と言へば何か他の重要な職業への一種の踏臺位に考へられ、職業的知識にしる、純學術的教養にしる更に深く研究しようと思つても仲々そんな便宜はなかつた。大多數の教師は『教授』と言ふことさへやつて行ければ能事終れりとし、職業の方面から見ても純學術的方面から見ても、最小限度の素養しか無い事實を一向顧みなかつた。實際世間の方でも、教師に、高級な知識と高度の技術とを要求しなかつた。處が今日では子弟を託すべき教師は、人格、教養、技術に於て最高度の資格が無いと世間が承知しない。その位教師に對する期待は大きい、全く當然の話である、従つて教師の任務も重い。最早教職を得たのみで教師として充分資格があるなどと言つては居られない。時代の趨勢に一步も遅れてはならぬと言ふのが今日の情勢である。扱、それでは如何にして教師は進歩向上すべきかを簡單に述べて見よう。

### 二、就職以前の教員養成に對する瞥見

トロント師範大學の學長は、最近『教員養成當事者の心境變化』なる題目の下に講演をしたが、その時或る鐵道検査員の話をした。その男は四十年間汽車の車輪を叩いて來たのだが、この長期間よく忠實に務めたと言ふので人から



賞められもし、自分でもこの長いレコードを得意に思つてゐた。處がある男がたまたま尋ねた。『車輪を叩くのは一體何の爲にするのか知つてゐるか』すると暫く頭を捻つた揚句、この鐵道員は答へて曰く、『そんなこと分つてたまるものか。』

學長はそこで言葉を續けて『教員養成者はこの鐵道員と同類だと言つてよいであらう』と語つた。過去に於て教員養成者は自分の仕事にのみ専念して、自己の眞の立場又は目的を忘れてゐた。

教育がどん／＼進歩したのに引きかへ、教員養成の方面の進歩は遅々たるものであつた。漸く極めて最近に至つて、僅かに具體的の進歩をなした。事實養成期間は著しく延長され、純學術的標準も實質的に高まつた。

しかして養成學校の諸條件が著しく改善せられたのは、この二年來のことである。今では體格検査で身體的不適任者は除外されるし、講義に費される時間は以前より減少し、その代りに教室に於ける實際的練習の期間がずつと長くなつた。單なる口頭の教授法は、どん／＼姿を消しつゝある。凡ゆる科目に於て以前は馬鹿丁寧、くどくどしく講義されたものだが、この方法は益々減少し、その代り實際的經驗を積ませる方法が非常に増して來た。今では講義は、種々の科目の教授に附隨して起つた事柄に聯關してすることになり、連續的な實際教授が今日の流行となり、切れ切れの教授は止みつゝある。

今迄は眞剣でもあり頭も良く勤勉ではあるが、悲しい哉、教育に於て成果を收めるに不可缺の靈感的な性質を全く缺いた教師達を如何に處分するか、師範大學にとつての大問題であつた。

過去に於てこれ等例外的連中にも資格を與へ、教職につくことを許した。が明かに教員養成學校の任務は、單に教師を養成するのみで無く、相當の効果をあげ得る教育能力所有者を選ぶことでもある。筆記試験に合格する能力は決

して教育に適當してゐることの保證にはならない。人格が教師の資格の支配的要素である。

### 三、現職教員の訓練

#### (1) 大學校外講座に依る訓練

今世紀初頭の三〇年間に於て教育者の爲の大學校外講座の數は驚くべき程増加した。この方法で多數の者が正式に大學へ行かずに、この機會を利用して學位を得ることが出來た。この種の講座の大部分は教育者の程度を高め、學術的にも更に高次な地位を與へることを目的としてゐる。しかし恐らく何等かの學位を得しめることが主眼であらう。今日は更に自由な形式の講座を組織して現職教育者の一般的識見を廣め、教養の背景を深くする様に計るべき時期になつてゐる。且その課程も教育者に學位や資格を與へて喜ばせるよりも、彼等の生活や仕事に高度の機能を與へるやうにならねばならぬ。

#### (2) 現職教員に對する文部省主催の夏季講習

私のゐるカナダのオンタリオ州の學務部は、夏期學校の進歩に大なる貢獻をなした。この夏期學校は約三〇年以上も繼續し、次第に普及して來たが、一九三一年にはこの事業は、最高點に達し、出席者の數は實に四、六二六人を數へた。爾後一時非常な不景氣時代に遭遇し、その時は學務部が出席者から聽講料をとり、又或る特典を撤廢した爲に一時出席者の減少を見たが、かかる障害があつたにも拘らず、又もや増加しつゝある。一九三五年にはオンタリオ州學務部主催にかかる十六種の課程が三〇の中心地で開催せられた。その課程は次の様なものであつた。農業及び園藝、美術、補助課程、商業、英語、佛語、衛生、中等學校助教、幼稚園、初級佛語會話、體操、休養學、上級學校、



手工及び唱歌、職業指導。以上の課程の出席者の合計数は三、三六二人である。猶カナダの他の州でも、類似の課程が提供されてゐる。

イングランドに於ては夏期休暇には教育に限らず一般の講座が公開されるが、これは三種の團體に依てなされる。即ち、地方學務當局、大學關係及び何かの協會又は公共團體に依るのである。

アメリカでは殆ど途方もない程多種多様の夏期講座が開催せられる。四十八の各州が直接、間接に夏期學校事業を開催するし、師範大學はコロンビヤ大學と提携して七十五科目以上を提供する。

上述により明白なる如く、今日ではこれ等の國々に於ては、職業能率を上げんとする進歩的な覇氣に充ちたる教師にとつて凡ゆる機會が與へられてゐるのである。

### (3) 校長に依る現職教員の訓練

教師がその職に於て進歩すると否とは、少くとも或る程度迄、その學校の校長の責任である。指導者としての校長は、部下の進歩を刺戟しそれを助長する責任があり、その手段として教室に於ける實驗や、教育に關する讀書を奨励すべきである。この目的の爲に部下の各員に、教育上の任務を委託するのも一案である。そうすれば教師はグループを作つて教育問題に就て集團的研究を持ち得ると同時に、創造的學校授業に對し訓練と便宜とを持ち得るわけである。校長は又教育及び學校管理に對する科學的態度を確立する様に努力せねばならぬ。教師はこれに依て、進歩し、社會や文化的諸機關と接する様になる。又新銳の教師に對しては、その抱いてゐる教育上の覇氣を永續せしめる様努めねばならない。猶その他校長は教師を援けて教授を成功せしめるには如何なる條件が豫備されねばならぬかを分析して見るやうにせねばならない。

次の二十六項は教師啓發に望ましい主なる性質である(チャールズ及びウエイブルズ)(Charles and Waples)「共和國教員養成の研究」より。

- 一、順應性 二、鑑識力 三、人好する風格 四、廣汎なる興味 五、同情心 六、協力 七、確實 八、勤勉
  - 九、依頼出來得ること 十、熱心 十一、正確 十二、判斷力 十三、力量 十四、高雅な趣味 十五、健康
  - 十六、正直 十七、知的好奇心 十八、指導力 十九、魅力 二十、開放性 二十一、進歩性 二十二、敏活 二十三、禮儀 二十四、學識 二十五、沈着 二十六、節儉
- 尙、以上の表に快活とユーモアの二性質を附加して宜からう。

### (4) 視學及び督學官に依る現職教員の訓練

視學は本來、教師の教育上の監督者であり職業上の指導者である。それ故常に身體精神共に健康健全であらねばならない。又、機會あれば教師が兒童双方の助力の暗示を與へ、靈感を吹き込む必要があり、若し教師が兒童が優秀な成績をあげれば、それを認め、賞讃せねばならぬ。大概の教室には、視學官の賞讃に値する作品が、教師にしろ、兒童にしろ、製作せられ陳列せられてゐるものであるが、斯かる場合に適切な賞讃を與へることは非常に肝要である。望む可くは視學が兒童に好意的な態度で接したいものである。これに依て視學の訪問は最も好き結果を與へることになるからである。時には視學が教師の役割をつとめ、兒童を勵ます機會があらう。又、教師、兒童双方に向つて數分間講演を爲し彼等を鼓舞すると言つたこともあらうが、これこそ全く教師や兒童に有益であると思ふ。

恐らく視學の巡視に於ての一番重大な任務は、教師の仕事を腹藏なく批評し論ずることであらう。しかし出來得る限り教師を失望落膽せしめるやうな批評はしないやうに用心しなければならぬ。むしろ建設的なる意圖を以て批評す



る様に努め、事柄の輕重を考慮し粗漏があつてはならない。教師が教授上の困難に遭遇し、行き詰まつた時はその解決上に半日の餘暇を與へ、他校の優秀な教師を訪問せしむるのも往々效を奏することもあらうと思はれる。視學の仕事として尙教師に新式の教授法を實驗せしめ、教育界の今日の思潮や試みに遅れぬ様にさせる必要がある。進歩のない所では沈滞があるばかりであるから。

熱心な視學或は督學官が親切な協力者となり、有能な激勵者ともなり、有益な忠告を與へるならば、彼の巡視は必ずや教師の訓練の點から見ても進歩の上から論じて、何等かの満足な結果を收めることにならう。

(5) 社會の力に依る現職教員訓練

今日の學校は益々社會の中心となり、父兄と教師とが頻繁に共同問題を論じ合ふ場所となりつゝある。父兄會その他、學校、家庭、聯合團體の發達こそはこの十五年或ひは二〇年間の教育の進歩の特徴となつてゐる。家庭も學校も互に他者の協力を缺いては最高度の機能を果し得ないことを双方共理解して來た。この團體の利益を増進せしめる爲には、兩方から指導者を出すことが必要である。この結合によつて父兄も、學校も利益を受けるのである。今日では兩者に於ける指導は巧になり、父兄と教師間の理解は促進され、その結果教師も父兄も更に有効に協力し得る様になつてゐる。

緩字競争、唱歌隊、寄合ひ、小屋作り、學年會等のこんな機會に昔の田舎の人々は集り、學校と接觸したものであるが今では全く事情が一變した。この種の會合は大部分姿を消しその代り、教育問題の組織的研究とか、學校の機能増進の爲に何等か企劃すると言つた場合になることになつた。そして學校に必要な設備を購入する多額の金が常に集められてゐる。この様な状態は現代多くの國に於て極めて普通に見られる處である。

今デンマークを参考に取上げて見よう。この進歩的な國の農村地方では教師は中心的人物である。社會指導者としての學校教師の模範的なものである。デンマークの農村地方の幸福、繁榮は、實にこの教師達の力に依ると言はねばならぬ。

「デンマークの農民階級の中で一地方に住み、永代小作權を有する裕福な人々は完全な組織の農村學校に入學し、完璧とも言ふべき程良く訓練された教師に習つて、今や全世界切つての知的な科學的な農民となつた。」

吾人の學校が生徒も責任を分ち得る様な社會を組織すればする程、益々生徒も亦更に大きな社會團體と言ふ問題をそれだけ深く理解するに至り、教師も社會全體の福祉に一層貢獻することにならう。

(6) 現職教員訓練に於ける旅行の影響

旅行は人間が事物一般に興味を失つた時、その沈滞を破り活潑ならしめる最良手段の一である。疑ひも無く又教師にとつても、強力な滋養劑である。廣く旅行した人間は、豊富な經驗を獲得し、自分の家を一步も離れたことのない人間に比べて、決定的な優越を誇り得るのである。文學、美術、歴史、地理、公民や日常の事件を教へるに就ても、教師が問題の場所を訪れ、その地の雰圍氣を捉へて、實際の場面や、環境を考察するならばその教授は遙かに現實的色彩を帯び効果的である筈である。教師が人間（即ちこの場合は兒童）に對してのみ強ひて頭を向はせないで、多少とも名所舊跡の方面にも心を向けることは、それだけで充分神經を安め精神力の酷使から免れしめるであらう。かゝる條件に於てこそ教育に新趣向を添へ得るのである。

今この偉大なる日本を訪れ親切なる日本人の下で、懇切なる待遇にあづかつてゐる我々は、歸國の曉、素晴らしい効果と能率とをあげ、日本の地理を教へるにしても、日本人の性格や習慣を兒童達に語るにしても、今迄に無く親しく



効果的に話し得ること、信ずる。

又この東京市に集つた世界教育會議の出席者たる多くの國民と共に、語ることより生ずる利益は測り知れぬ程大であると共に世界各國家、國民相互の理解友誼を助成するに非常な力があることは言ふ迄もない。この各國民相互の理解は、既に萌芽を示して居り更に將來も世界が究極に於て一致をなし、永遠の平和の日迄發展し続けること、私は固く信じてゐる。

(7) 訓練の手段としての教師の交換

現職教員訓練の他の手段に交換制度がある。この方法は一地方の教師が他の地方の教師と交替するのである。これは我國の各地方では數十年前から實施されて來た。交替の特典を與へらるゝ教師は、充分に高き能力の保持者と認められた者であらねばならない。

過去十二年間にわたつて二、〇〇〇人以上の教師が、奉職地以外の英國領土内の土地で一年間暮すことを許され、これが教師に與へた教育上の利益は疑ふべからざるものである。又兒童の側から言つても大英帝國及び帝國間の諸民族に關する受賣りでない知識を授かるのであるから明かに大收穫であらう。

(8) 教師相互の訪問に依る訓練

標題の訓練法の實現の爲には色々な手段がある。第一に一部の時間を割いて地方教育者會議に出席することである。この會議が近隣の都市に開催せられる時は教師は各々小さなグループに分れて、各特定分野に於ける著名なる教師に會ひ、その優秀な技術を參觀するがよからう。尙別に都合のよい時には一人の教師を派遣し特殊教室を參觀せしめ、そこで刺戟を與へられ今迄の疑問を氷解せしむると言ふ方法もある。

農村の小さな學校間の教師相互の訪問も大中心地間の相互訪問同様に願はしいものであり効果的であらう。

教師は思ふまゝ、他の教師の授業振りを見學し得なければならぬと私は信ずる。教師が多少とも進歩的であり、霸氣に充ち溢れて教育の成績をあげようと望んでをれば、目覺めた教師の訪問によつて刺戟をうけて、大なり小なり利益を得るであらう。

(9) 健康増進の訓練

近代生活の理想は高度の健康を個人及び社會が獲得し、且維持することである。言ふ迄も無く教師は苟も社會に於ける指導者の地位を占めてゐる以上、自己の健康が兒童にとり、又自己が一員たる社會にとつて如何なる價値があるかを充分に理解してゐなければならぬ。身體的に強靱にして精神的に健全なる教師は自他の條件が同一であれば、社會一般の福祉に對し他の教師よりも充分なる貢獻をなし得るは當然である。

日々の教室の日課は必ずや教師をも生徒をも疲勞せしめるであらうから、仕事と休養とを正確頻りに交替せしめねばならぬ。これは兒童の生徒に於ても同様である。完全な生活には餘技と道樂が必須なることを明記しておかねばならぬ。

教師の精神の健全不健全は、兒童の感情及び精神生活に反映するものであるから、教師の精神が健全である限り、それに影響せられて兒童は自然健全な状態にゐるものであり、若し教師が左様でなければ、兒童は直ぐ精神的感情的に、不安の兆候を示すものである。

自己の精神状態を檢査する簡單な方法を若干紹介して見よう。

(1) 幸福か否か。幸福は人間が生活環境や生活問題に、自己を調和せしめる能力の尺度である。若し諸君が不幸な



らばこの調和が破れてゐる證據である。

- (2) 視野の廣狹の測定。その視野が狭く偏見を持ち狭量である人は、常に煩悶し精神状態も害せられてゐる。
- (3) 精神の健在性。新しい行動や思考法が入用の時、容易にすらくと物事を處理する能力であり、教室では大事なものである。

(4) 現在に幸福を見出すか。或ひは過去に又未來に生きてゐるのか。今日は明日の曉である。如何に明日に處するかは、今日獲た力によつて定まる。

(5) 即座に決心がつくか？。優柔不斷は精神状態の著しい阻害となる。現代の心理學の教へる通り問題をぐずぐず考へても、必ずしも慎重な決論に到達され得るものではない。

(6) 精神の健全性。世間と調和する能力である。

以上で私は單に教師の側のみの精神的健康を論じて見た。しかし學校に於て、教師は兒童の健康に對して大なる責任を負はねばならぬ。換氣に注意し、溫度を調節し、兒童に休養期間を與へ、且生理的に必要な場合は任意に退場せしめ、毎日兒童の清潔を檢査する等の任務がある。教師は一通りの視力檢査法に通じ、いち早く酷使より生ずる目の疲労を發見し、又聽力の故障も發見すれば報告しこれを防止する様努むべきである。

兒童の運刻は生理的故障に由來する場合が多いことに注意し、齶齒、扁桃腺肥大を發見すれば、父兄と相談の上、醫者なり齒科醫なりに治療させ、デフテリヤ、麻疹の種類の病氣に對しては注射をせしめ、極力防止する様に努めねばならぬ。

學校に於ける衛生教育は、民族の前途にとつて最大の重要事であつて、その根本目的は毎日の實行に依て、兒童の

健康に關する良き習慣をつけることではなくてはならぬ。豐なる健康に恵まれたものは大膽な生活と言ふ喜びを享有して居る。教師は生理學、衛生、精神衛生、保健、榮養、兒童心理等の科學的正確な知識を有し、且その衛生教育を日起居る實生活の問題や環境と關聯せしめねばならぬ。

健康に關して教師の影響範圍は、單に自己一身及び兒童の健康だけでなく社會に迄反響するのである。父兄會や、家庭學校、聯合會を通じて、學校と社會の生活が、衛生教育の中に於て結び付け得ることは明白であらう。エール大學の、M・R・デイヴィ教授 (Prof. M. R. Davie) は、社會の健康が如何に重大であるかを次の様に概言してゐる。

『健康は成程或程度迄個人的のことであるが、しかし如何に個人が健康に注意を拂つても社會が下水道に下水を混する様なことがあれば何の役にも立たぬ。大部分は個人の力の及ぶ處ではない、多くの要素が健康問題に介在して居る。故にこれらの要素の處理は、社會全體の仕事であり、又疾病、災疫その他生命を脅かす要素に對しては、社會全體が責任を持たねばならぬ、個人の持つ唯一可能の防止策も結局社會から與へられるのである。』

健康は個人に限らず一般社會の切實な問題であるから、總て進歩的な教師たるものは、衛生教育に對し、及ぶ限りの機會を利用して充分準備する必要がある。衛生教育に關する文部省指導の夏季講習は近年に至つて益々普及し、現代の學校に於ける衛生教育は事實重大視されつゝある。

(10) 現職教員發給手段としての教育局。ニューヨークの教育局は最近その統制下に屬する教師全體の爲に一試案を採用したが、これこそ職務勤続の資格決定に對して、注意すべき規定を與へたものである。教師として熟練を積む爲、凡ゆる教師は一九三〇年九月以降は、毎年三〇時間の教育的或は文化的講座へ出席することを強制された。これは教



育局に於て改訂された俸給計畫と關聯して採用された標準に依るのである。若し教師が所定の年限内の三〇時間の講座に出席し得なかつた場合は、その年の批評は『可』とならず、次の昇給に浴し得ない。この案は現職教員の不斷の啓發を目的としてゐるのである。

(11) 大學初等教育講座に依る訓練

大學の數は益々増加しつゝ、あるが、この爲初等教育に關する講座も數多ある。一般に見る講座題目は、検査測定、兒童の發展、特殊兒童心理、初等教育課目の心理、課程の作成等であり、又次の如き新設の講座も多いのである。就學前兒童の心理、個人的差の心理、徵候検査及び矯正教育、地方諸學校の諸問題、小學校に於ける運動、その他最近或る博士がこの種の講座について論じてゐるが、それに依れば地方教育監督者の報告から綜合すると、九五の純學術的講座と教育及び心理學に關する七八の講座とがあるとのことである。大學は現職教員の能率増進にその役割を果してゐるのである。

(12) 戸外小學校と教師訓練

數年前からペンシルヴァニア州ワシントン郡教育會 (Washington county) は一年一回の大會をカリフォルニア州立師範大學の校庭で開いて來た。一九三一年四月の大會では二年級の朗讀と四年級の歴史とが參觀に提供され、大いに關心をよび議論の中心となつた。一九三二年四月三十日にこの野外學校は、最初の土曜會を開き一三一人の教師と行政官が出席したが、この會は三二年、三三年と引續き開催せられた。

(13) 最近の教育運動が齎らした現職教員訓練に對する貢獻

過去十二、三年間に於て或教育運動が、小學校の基本的計畫の一部分に割り込んで來た。教育測定實施の急速なる

發達、個人の差の對應策の強調、客觀性の精密な研究を含む教育哲學の變遷、教育に於ける創造と自己表現尊重への傾向、これ等及びその他の運動は目まぐるしく變化しつゝ、ある。世界に住む進歩的教師に絶えず挑戦して來た。これ等の諸運動は熱烈な研究と考察並びに數千人の教師の再教育を必要とする。

四、教師の目的

學校教育の目的は、青少年をして極度に有能な社會の一員たらしむることである。兒童の道德的性格を涵養し、市民としての訓練を充分與へ、將來完全な生活を營み、社會的に有能なる人士たらしめねばならぬのである。この過程に必須なる三要素がある。即ち、知識、技能、及び態度である。第一の知識は、文部省が責任をもつてゐる學校の課程に於て準備される。『技能』なる名目の下には、言語、技術、身體的技術、頭腦等の技術が含まれる。第三要素たる所の『態度』は兒童の生活に於て、就中最も重大である。この『態度』には兒童の學友に對する態度、家庭に於ける態度、學校の活動に對する態度、教師に對する、宗教に對する、社會權威に對する態度等が含まれる。兒童に於て適當なる理想及び態度を啓發することは、教師の果し得る最高形式の任務である。そして、ここにこそ社會の福祉、人類の幸福に對し測り知れぬ貢獻をなす機會がある。次の引用句は、教師の職に與へられたる最高の賞讃では無からうか。

『私は先生の教へて呉れた文法や算術や地理の科目は覺えてゐないが、優れた文學、美術に對する鑑賞力を與へ自然の美しさ、調和に對し眼を開き、論理的に獨自の思考をなし、他人に對して寛容であり自分に反對する説を容認することを教へて呉れたことは忘れ得ない。』



五 教師の人格

私はこの講演の冒頭で師範大學の學長のなした演説を引用したが、愈々終りに臨んで、或る大學總長の最近の談話を以て結びとしよう。

演題は『人格』で、聴衆は一、五〇〇人の教育者であつたが、大部分は小學教員であつた。この人格と言ふ各人が各種各様に所有する漠然たるものを論じて、總長は人格の構成要素の一に觸れた。即ち總長自身の生涯に言及して、今迄彼の習つた先生中で最も影響の強かつたのは、強固な性格の持主であり、深い知識の源泉と深刻なる圓熟した人生経験を有してゐた先生であつたと述べられた。詩人の言葉にも次の如きものがある。

「無智は神の呪ひ

知識は天上へ我等を運ぶ翼」

猶この總長の説いた第二の性質は勇氣である。この勇氣は必ずしも身體的勇氣を意味するのでは無く、強き信念から生ずる勇氣である。善き人格養成者たらんとする教師には信念がなければならぬ。又同様にこの信念を實行に移す勇氣を持たねばならぬ。最後に總長は、我々は自己以上に向上することは出来ぬと斷言した。若し我々の水準が頂點迄達してゐるなら、兒童も亦我々の水準迄向上しようと努めるであらう。總長は云つた。「強き人格を有するものが惡に傾く時は、世界の脅威となる。だが眞に強き人格は荒涼たる土地に於ける大きな岩の蔭にも比すべきものである。」

品性——現代文明に對するその重要性

アメリカ、インディアナ  
大學 教育學部長   ヘンリー・L・スミス

人間の凡ゆる努力は、物質的資源の獲得維持と、個人生活と社會生活の道德的諸問題の解決に集中されてゐる様に思はれる。

我々が勇敢に個人的乃至社會的生活の困難なる諸問題を解決せんとする時は、自然にそれに役立ちさうに思はれる凡ゆる方法手段を用ひようとするものである。

個人に於ても集團に於ても一切の經濟問題を適當に處理し、道德上の種々の論争を巧に解決するには、その關係者の知的及び道德的性質が最も重大な力をもつてゐる。個人が自然力及び不道德なものに對して戦を始める場合、一敗地に塗れるか勝誇つて浮び上るか、彼の品性如何に依るものである。社會生活に自らを適應せんとしたり、社會の人々に交つて事業をする際に、彼が成功するも失敗するも彼の生活を支配する品性の型如何に依るのである。

道德界に於て、個人に於て眞實なことは何でも集團に就ても亦眞實であることを總ての歴史が證明してゐる。個人の道德性を低調化するやうな行爲乃至習慣性は集團をも亦墮落させる。個人の道德生活を強固にし、安定せしむる事柄は社會的集團生活を亦向上せしむるであらう。それ故つまり、品性にしても個人生活の成功に必須なものであ



るならば、それは集團生活の成功にも缺くことのならぬものであると言ふことになるであらう。すべての生活活動に於て品性の重要なことは、年毎に益々明瞭に認められてゐる。品性の發達は社會を發展せしめんとする努力の根本ともなるべきものであることが、教育方面に於て認められつゝあるのは疑ふ餘地がない。即ち品性に關する年報、會報、小論その他特殊研究が増加してゐるのは、これを證明するものである。實際、世界聯合教育會を始めとし凡ゆる國の教育團體は、品性の發達を強調して居り、多くの國々では今や學校に品性陶冶の課程を置かうとしてゐる。

今日の文明に對する品性の重要性を決定するには、「品性」といふ言葉の意味を斷定し、それが構成さるゝ本質的な要素を検討するのがよい。

品性の定義にあつてまづ考慮すべき要件は、それが感化と經驗との數多き絲で織り成された精神的織物であるといふ事實である。或る人によれば品性とは人の行爲であるといはれ、他の人によれば、人がその内面的生活に於て所有するものとして考へられてゐる。實際は品性なるものは習慣、心構へ、人生哲學の集合で、いはば生活を通じて生じ、生活の中に現はれる一性質である。品性とは人間の内的外的經驗、全體の自然の結果である。

ここで我々にとつて特に重要なことは、品性が假令遺傳と環境とによつて條件づけられるものであるにしても、なほそれが人間自身の獲得物であることを尙一層認識する必要があるといふことである。品性は個性の領域にあるものであつて、事實人格の主なる要素乃至性質である。それは凡ゆる有意的行動を貫いたそこばくの一定せる意向乃至傾向である。それ故に人は品性はこれを變化し發展せしめようと有意的に努力もすれば、變化發展せしめられることを悟ると共に、又個人も社會も一定の方法と意識的努力とに依て品性を發展せしめねばならぬことを自覺せねばならぬ。

ぬ。更に若し出来れば品性を發達させるもつと良い方法を發見しなくてはならない。

品性發達の可能であること、それを實現する手段とは、品性を構成してゐる主要素に注目する時、恐らく更に一層明白となるであらう。高尚な品性を作るものには少くとも四つの重要な要素があると思はれる。即ち第一に生得的能カ(肉體的・精神的)、第二に豊かな經驗、第三に廣汎なる知識、第四に深奥な思考。これ等の要素からその構成部分よりも遙に偉大な一つの新しい精神的木體が構成される。これ等の要素から確信、不動性、正しき心構へ、樂觀的傾向、正しい行爲をせんとする意志等の諸性質が色々な具合に現はれて來るのである。更にまた社會生活に深い意義を有する心の方向と精神の安定とが發展させられる。

今述べた性格の四要素の第一のもの、即ち生得的能カは、修養や環境によつて些かも變更出来ぬ所の一定量のものである。第四の要素即ち深奥なる思考は、要求されたり強制されたりは出来ないが、鼓舞され得るところの個人的な賜物である。第二及び第三の要素、即ち豊かな經驗と廣汎な知識とは、自由に變化し發展せしめることが出来る。學校が一の不變な品性を造り上げる大きな機會をもつといふことは、これ等の諸要素が變更せしめ得るといふことに依るのである。

青年の品性發達といふ偉大な仕事は、どういふ社會的施設でも單獨では出来ない。家庭、教會、國家、共同社會、法廷、クラブ、青年團體等はそれら一箇の重要な役割を有つのである。これらは總て相關的で互に協力すべきものであることは充分認められてゐる。凡ゆる學習に於て兒童の全人格が考慮されねばならぬことが發見されてゐる。動機、心構へ、情緒すべてが一緒に考へられねばならないのである。それ故我々は例へば修身に於ても美術に於ても學習過程を一、二の施設の感化に限定し得ないのである。何故といふに兒童が感じ、考へ爲すところの事柄は何によら



す彼の知的生活、道徳的生活の上に影響するものであるから、従つて品性は大部分生活の全経験及び全生活關係の綜合的結果である。

上述の事柄は眞實であるが、それにも拘らず社會の凡ゆるる制度の中で、學校はまづその國の全兒童の一般的訓練に對して明確な意見を有ち、確實な施設をしなければならぬ位置にあることを自覺するに至つたのである。どの國に於ても他の機關は少年少女の極く僅かにしか觸れて居ない。(學校は實際には總ての者には接觸してゐる)學校は教育上の問題に應ずる最も普遍的で、最も設備せられ、最も組織立てられた唯一の機關である。すつと以前から學校は青年として眞實の品性を持つた人格者に發達せしめる最も善い方法を發見し、最も良き教師を働かせ、最も熱心に努力しなければならぬことを悟つて來た。

アメリカ合衆國に於てはアメリカ諸學校に於ける緊急諸問題を解決せんとする目的の下にアメリカ教育聯盟(The National Education Association)と督學局によつて一九三六年に指名された教育政策委員會(The Educational Policies Commission)は、次の如き諸問題に關して多數の諮問者からの解答を求めてゐる。即ち、望ましき品性を發達せしめる爲に學校の爲すべきこと。「教育の第一目的としての理想や心構へを充分に強調するには如何なる手段を取らねばならぬか。」これ等の問題は品性陶冶の方法を見出すことに各國の教師が努力してゐることを示すものである。

品性陶冶に對する教育の力は主として教師の感化とその努力によるものである。教師こそは幼稚園から大學に至るまでの凡ゆる教育上の問題解決の鍵を握る者である。教師こそ人格の發展に深い影響を及ぼすところの個人的接觸をなす人であり、模範と助言を以て青年の行路を指導する人である。

二十世紀の諸問題を解決する最も根本的なものは充分發達せる高尚な品性である。如何なる問題にしても如何なる仕事にしてもこれを力強く解決し、立派な結果を齎す方法は適宜な品性を獲得することである。

個人の發展と社會の掟や因襲への適應と言ふことが最も考へられる個性の問題に於ても、その根本的要件は品性にあることが容易に覗はれる。現代に於て最も要求されてゐるもの、一つは、確固不動にして眞實の個性である。即ち、自己の目的に對し強い情勢を有し、固くこれを持して、如何なる誘惑に遭つても又如何な逆境に陥つても毅然として自己の進路を變更せざる個性を有する人である。淺薄な、或る移り氣な型の人間は創造的な仕事は勿論、道徳的困難の試煉にも耐へられない。正直、眞面目、忠實な品性には、如何なる個人も道徳社會の要求するもの或は疚しからざる心の要求を充し得るものではない。

現代の明瞭な特徴の一つは激甚な變化と言ふことである。屢々變化は先觸れもなく思ひがけない時に起るものである。無思慮にして道徳心薄弱な人々、錨や底荷を持たぬやうな人達は、破壊的思想の激流や過激な煽動の嵐に掃されてしまふ。強靱な道徳的力を缺いて居る人、或は、精神の平靜(これは品性といふ堅固な岩の上に自分の生活が建てられてゐることを知るに依つて生ずるのであるが)を缺いてゐる人は我々が今日經驗してゐるやうな暴風時代に堪へ得ようとは思はれない。

社會的適應と言ふことは知性並びに道徳力の試金石である。人間は生れ乍らにして數多き衝動と欲望とを所有し、これに驅られて行動を起す。斯うした生れつきの欲望は滿されることを要求する。而してこれらの欲望を滿たさうとして個人は屢々人間の安寧の爲に存在すると思つてゐる法律のあるものや、風習や因襲などと彼等自らが衝突することを發見する。個人的欲求と社會的因襲との間のこの鬭争に於て、個人の性質が試験されるのである。若しも個人の



生活が、公平と善意と正義とを特色とする品性の上に打建てられてゐるならば、彼は社會的に善いと看做されたる因襲に容易く一致するであらう。これに反して、若しその心の構成に利己、頑固、優越等の性向をもつ場合には、社會の掟に自らを適應させることは非常に困難になるか或は殆ど不可能になるであらう。

若し品性の理想が一般に認められ、正しい品性の發達が實現するならば個人相互間に若しくは集團相互間に屢々見られる痛々しい不和も總て解決するであらう。社會的適應と言ふことは、人間が利己的な目的や欲望を棄て、寛容と利他の精神を自らの中に發達させ得る時始めて可能なのである。

私の國ではこれまで數度に互つて、我々の産業生活を組成してゐるところの種々な團體間に随分烈しい争闘が行はれた。労働者側の言ひ分は、鑛山、製粉場、工場等の所有者や經營者の中には勞力を酷使して居ながらその仕事の利益を公平に分配して呉れないと言ふのであつた。利益に對する更に大きな分前を得、自分達の生活水準を更に引上げんとして、これら労働者團體は屢々その目的を達するために過激な暴力的手段を用ひた。一方産業上の資本家や所有主等の中には屢々その利益を維持し、労働者團體を抑壓するために壓制的な手段に訴へた者もゐた。時にはまた様々な労働者の指導者達の間、或は資本家團體の間にもそれ々の階級、團體の指導的勢力を獲得しようとして烈しい争闘が行はれた。

社會的集團相互の、或はまた個人としての集團指導者相互のこれらの衝突や争闘は、次のことを明白に示すものである。即ち、凡ゆる集團と階級とを通じて相互の生活を平和ならしめ圓滑ならしめる所の品性を、我々は未だ一國民として發達させて居ないことである。我々は正義、公平、同胞感、善意といふ如き廣汎な基本的特性を充分には有つて居ない。我々は、利己、貪慾、他人に對する支配慾の如き低級な品性を排除するまでに成功しては居ない。

現代多くの國々に起つた様々な型の争闘（それが資本家と労働者、富者と貧者、教會と國家、政府と革命者、保守主義者と自由主義者、當局者と無法者、これらいつれの間のものたるを問はず）は、總て我々の平和を紊し進歩を妨げ續けてゐる。何故といふに、我々は品性の最も重要な要素をなして居り、品性から豊かに流れ出るところの寛容と相互理解の精神とを市民達の中に形成し損つた故である。

どの國家でもその内部に絶えず解決を要する幾多の問題をもつてゐる。ある特殊な集團の幸福に係る問題、事業、困難などは又凡ゆるその他の集團のためにも重要なものである。その理由は一團體の各員はすべて相互依存的のものであるからである。どういふ國家でも工業、商業、農業の經濟的な問題を持つて居る。どの國家もその國民の中に崩壊的分散的傾向の諸分子に絶えず直面して居る。どの地方も洪水、地震、旱魃、疫病から生ずる危機に出會はねばならない。世界のどの國もそれ々の次の國民の教育といふ重大な仕事に直面し次の國民をして知性に於て、政治的能力に於て、凡ゆる藝術や學問に於て、現代文明の理想に於て他の進歩的諸國に劣らぬものにしなければならぬ。

以上述べた如き問題に對し事業に應ぜんとするには、各國家は必然的にその國民の品性に依頼しなければならぬ。劣等な知能や劣等な道德心の人々にその望をかけてゐるやうな國家は永く存在を保つことが出来ない。國家の滅亡は先づ道德と品性の互解に始まり、次に肉體的性質に及び、最後に經濟的方面の崩壊を來すのであることは歴史を眺めればよくわかる。

それ故に、國家の存在、他國との對等を保ち國民の進歩と成功を計るには、各國家は個人に於ても集團に於ても善を増大し保存し、我が廿世紀生活の害悪を減少除去するに役立つ所の根本的品性を固く所有する市民を作り上げねばならぬ。



國際關係に於ける品性の重要性は、常に思慮ある指導者に依て認められては居るけれど、我國民全體としては恐らくまだ充分に悟られて居ない。國家としての立場から我々は從來屢々高尚な品性と調和しないやうな理想、目標標語を掲げてゐる。我々は幼いものにこれまで集積せられた歌謠、俚諺、理想、憎惡、恐怖、嫉妬、計畫等を教へてゐるが、市民を眞の偉大なものにする品性の諸性質を建設することに就てはあまり考慮もせず、論じもしなかつた。疑ひもなく我々の教訓の中にはどこにでも共通に行はれてゐることではあらうが、道徳的公正の標準外にある所の主義や方法を含んでゐる事が多かつた。

一つの國民の主義、態度、思考法、一般行爲などは常にその國際關係に影響を及ぼしてゐる。個人の場合と等しく國民の場合でも、我々が心に思つてゐることは一般に外部的行動に現れるものである。このことからつまり、理想的な國際關係と言ふものは世界のそれ／＼の國家に於ける指導者並びに國民一般の理想的な心構へと實踐とに俟つものである。換言すれば勇壯な道徳的性格の發展に俟つものである。

國際關係の状態、性質、一般的満足如何は、直接には若干の代表的人物如何にかゝつてゐるが、究極的には國民全體の上にかゝつてゐる。概して言へば、國民としては我々は直接の運命を少數の個人の手にて委ねて居る。我々の生命と運命とは彼等の誠實さ、知性道徳的公正にかゝつてゐる。我々は我々の權利を保護し、利益を増進し、富を發展させ諸國民間における我々の勢力を増大せしむる爲彼等の判斷と外交と政治的手段とに期待してゐる。

さて、我々は我々の運命が品性の如何に係つて居ることの眞實であることを發見した。國際的事件に於て我々の利益を擁護する爲に選出した我が代表的人物は、大概はそれ等の人物自身が持つて居る品格に依てこの仕事を實行するであらう。假りに彼等がその代表する國民の單なる代辯者に過ぎぬことが時にはあるにしても、概して云へば彼等

は、個人として最善と考へる通りに若しくは欲する通りに行動するのである。自己の「品性を離れて」人が行爲すると言ふことは全く稀である。従つて我が政治家達も心に思ふ通りに自ら行動するであらう。それ故、吾人が誠實な勇氣を持つ人々、公正謹嚴の人々、善意と誠實な目的とを有する人々を選ばなければ、我々の國際關係も同様な性質のものとなることを期待してよいであらう。しかし乍ら、その生活が悪い動機によつて動かされ、内心では不誠實で正直な人々を選ぶ時には、我々の國際關係も出來上つて見ると矢張り同様の特徵あるものとなることを見出すであらう。従つて品性は世界の諸國家間の理想的關係を樹立するのに最高の意味を有するものである。

國際關係に就ては國際平和の問題より以上に重要なことはない。假令實際にはどの國々もその歴史の或る時期に戰に係つたことがあるにしても、なほその究極的な理想は常に永遠の國際的平和であつたのである。戰爭の恐怖、慘害、殺戮が最後の目的のための手段として選ばれたことはあるであらうが、戰爭が本來望まじきものとして選ばれたことは滅多にない。世界の平和若しくは國家の平和は今日最善の政策として、若しくは最善の状態として、選ばれることがないにしても、しかし確かに我々に究極の目標として理想的状態としての平和は凡ゆる國の國民から待望されてゐないとは斷言することを控へねばならぬであらう。

品性は、個人間の調和一致を齎すに必要な要素であるのと同じく、世界平和を確立するに當つても亦不可欠の要素であることを見出すであらう。根本的には平和とは心の状態である。戦も亦さうである。陸軍や海軍の衝突は單に内面的状態が外部に現れたものに過ぎない。斯かる内面的状態に對しては理由もあるし辯明もあるであらうが、このことは今此處で考察してゐる主眼點ではない。我々は平和が何よりもまづ心構若しくは心の状態であり、従つて世界平和の爲に努力する者は、必然的にある確固たる知的並びに精神的生活を實現するやうに努力しなければならぬといふ



事實を強調せんと努めて来たのである。

平和と更に良き物を樹立せんとするに當つて必要な品性的特徴の二つ。若し我々に権力があれば他人の意見や信仰を抑壓したいのだが、それがないから止むを得ず我慢してゐると云ふのが普通である。しかし乍ら評價と云ふことは他人の信念を公平に判断せんとする烈しい欲望が伴ふのである。これらの信念は假令その中に誤りがあつても尙存在し、價值あるものたらしめるに足るだけの眞理を有つて居ると我々は推斷する。評價とは總ての教師を尊敬し、互に如何なる眞理を示さんとするのかと尋ね合ふことである。従つて他國民の價值やその意見の評價は全く國際的調和には根本的なものである。國際關係を最も望ましい状態にするのに必要な土臺石の一つは、世界的正義といふことである。此處に於ても亦個人に適用される原理が社會集團にも同様に適用される。若し一個人が他の個人に壓迫されその自由と財産とが奪はれ個人本來の權利が拘束されたり毀損されたりするならば、その壓迫者に対する態度は勢ひ親密を缺き、或は苛酷にさへなるであらう。不正はどういふ形になつて現れても、又如何なる場所に於て行はれても、教室内であらうが事務關係に於てであらうが、また社會集團の間たると國家間たるとを問はず、常に人に憤りを與へるものである。

愛と善意といふ品性は、人間關係の凡ゆる方面に於て正義の精神の根柢となつて居る。正義とは、公正の精神であり、全人類間の平等或は同等を認めんとする意志である。過去數世紀の間、正義は色々な尺度で説明されて居る。正義は人類の間では物質的財貨、肉體的自由、個人的並びに社會的な權利と云ふやうなもの所謂「重さ」の平衡を要求するものであるといふ事實は一般の承認してゐる所である。生活「物資」の分配に於て衡の軽い方を取つた個人乃至集團は、重い方を取つた他の個人乃至集團に對して憤りを感じ、公正な分前を得んと努力するのも自然であると進歩

的諸國民の間では一般に承認されて居る。正義の衡が平均を失つてゐる限り、國家と國家の間若しくは國家自身の中に於ける人間集團の永久的に平和な、或は親密な關係は存し得ないと云ふことは正しい考へを持つ總ての人々には明瞭なことであるに相違なからう。

凡ゆる人事關係に於て公正を得んとするならば、個人に於てまた國民に於て、各人にその當然の酬ひを與へんとする同胞の精神（その酬ひが物資であらうと高尚な心意或は精神に對する賞讃であらうと、高貴な地位であらうと何でも）が發達してゐるのになければならない。要するに、世界平和と親密な國際關係とは世界的公正に俟つものである。そして世界的公正はそれ／＼の國民を形成してゐる個人における高尚な品性の發達に俟つと云はれるであらう。

國際間の經濟の調整や貿易の増進と云ふやうなことにも品性が重要な役目を持つてゐる。産業及び商業は國內的なものでも國際的なものでも、次の如き信頼に根柢を置いてゐるのである。即ち、まづ第一に商品を提供する人々に對する信頼であつて、こゝではその品物の質や量に就て嘘がないといふ信頼が置かれる。次に物品を受取る人々に對する信頼であつて、ここでは支拂が速かで充分であらうと云ふ信頼が置かれる。世界交易は總て信用主義に基いて實行されて居る。しかし信用は物資が送られ或は金が貸付けられた人の品格そのものに於ける信實さと言ふことがあつて始めて成立つ。ある國際的な大財政家が最近次の如く述べた。交易上の信用は三つの事項、即ち金と財産と品性との如何に依るが何よりもまづ品性が問題だと。品格が全く重要であるが故に、世界最大の證券會社たる國民保證局も、凡ゆる生活關係に對して公正の決定的に重要なことを學校の兒童に教へんために國民公正局なるものを組織した。

世界の諸國民は最近の不景氣の財政的困苦からほんの部分的に自由になつたばかりである。現代の最緊急事は、増